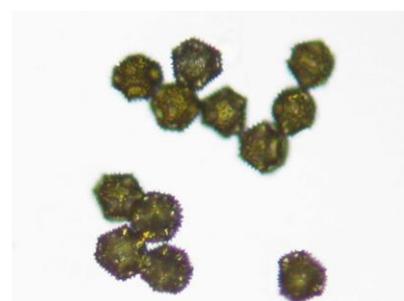


# 平成22年度

# 相模原市自然環境観察員制度

# 年次報告書



## 相模原市

## はじめに

相模原市では、市民と行政が一体となって本市の自然環境を調査することにより、身近な自然に目を向け自然環境に対する関心を高め、環境保全意識の高揚を図るとともに大切な自然を監視・保全していくための基礎資料を継続的に集積していくため、平成13年度に市民ボランティアによる「自然環境観察員制度」を設置しました。

平成22年度は、96名の皆様のご参加をいただき、全体テーマ調査や専門部会調査を実施いたしました。

この報告書は、自然環境観察員の皆様一人ひとりが「今の相模原の自然」を注意深く、生きものたちの命の息遣いを感じながら、地道に調査した記録や活動内容をまとめたものです。

活動結果や皆様から寄せられたご意見を活かし、相模原市の自然環境がより良いものになるよう、また、本制度が市民の皆様方に根付き、活動の輪が広がるよう、本書をご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本制度の運営にあたりご協力をいただきました、自然環境観察員の皆様に心からお礼申し上げます。

平成24年 3月

相模原市立環境情報センター

# 目 次

第1章 自然環境観察員制度について	1
1 自然環境観察員の募集	1
2 自然環境観察員制度の概要	1
3 実施内容	2
第2章 身近な生きもの調査	3
1 全体テーマ調査	3
1. 1 調査区域とテーマの選定	3
1. 2 タンポポ類の調査	10
1. 3 ショロウグモの生息調査	25
2 専門部会調査	31
2. 1 植物調査部会	31
2. 2 湧水調査部会	33
2. 3 河川生物相調査部会	37
2. 4 野鳥調査部会	39
3 自主テーマ調査	45
第3章 かんきょう学習セミナー	50
1 第1回かんきょう学習セミナー	50
2 第2回かんきょう学習セミナー	50
3 第3回かんきょう学習セミナー	50
第4章 全体調査企画会議	52
1 第1回全体調査企画会議	52
2 第2回全体調査企画会議	52
3 第3回全体調査企画会議	52

## 資料編

- 1 調査の手引き
  - 野鳥の調査
  - 帰化植物の調査
- 2 自然観察かわらばん
  - 自然観察かわらばん（植物調査部会版7号）
  - 自然観察かわらばん（湧水調査部会版8号）
- 3 ご意見・ご感想
  - 〈タンポポ類の調査〉
  - 〈ジョロウグモの生息調査〉

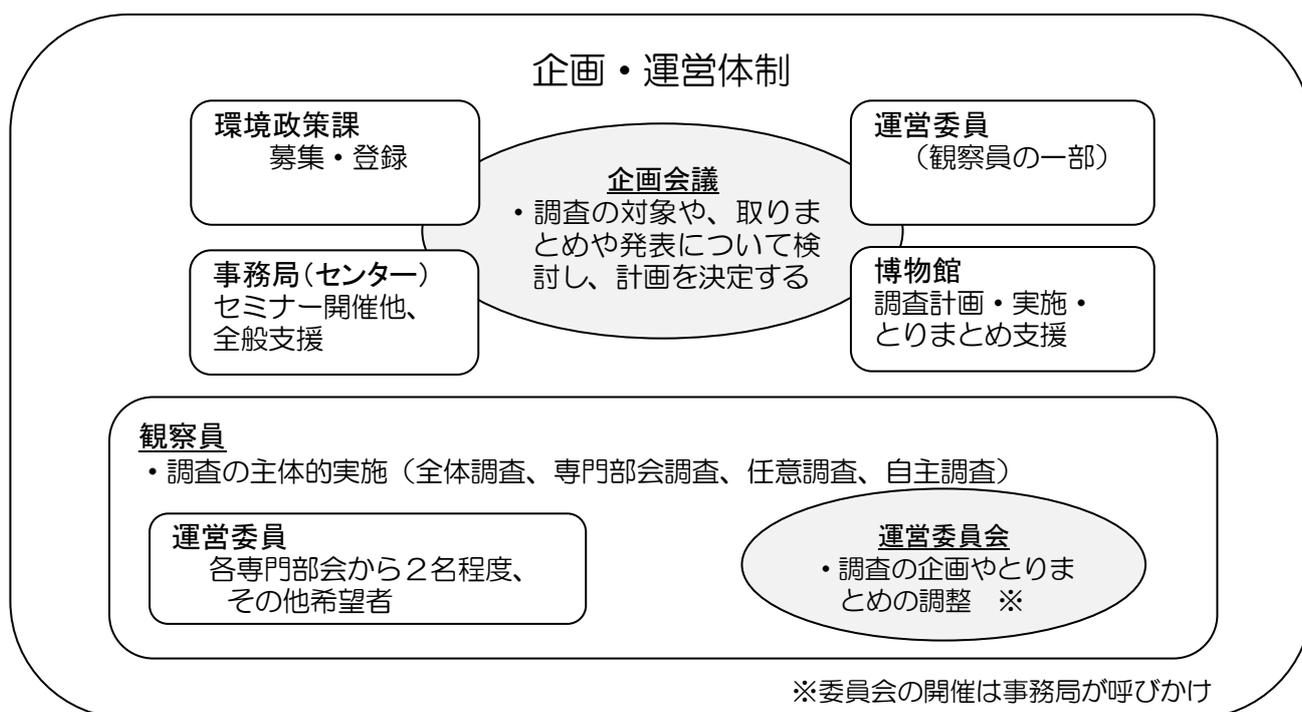
## 第1章 自然環境観察員制度について

### 1 自然環境観察員の募集

観察員の募集は「広報さがみはら」（平成22年2月1日号）などで行いました。様々な世代の方からご応募をいただき、96名を「相模原市自然環境観察員」として登録しました。

### 2 自然環境観察員制度の概要

本制度の運営及び活動については、以下のとおりです。



#### 身近な生きもの調査 (調査事業)

全体テーマ調査（全観察員対象）  
動植物の分布調査

専門部会調査（希望者対象）

- ・植物調査部会
- ・湧水調査部会
- ・河川生物相調査部会
- ・野鳥調査部会

任意参加調査（随時）  
従来のメッシュを使わないテーマ調査

自主テーマ調査（随時）  
目撃情報の報告など自主的に行う調査

#### かんきょう学習セミナー (学習活動)

- 身近な生きもの調査対象種についての説明会
- 自然環境観察に関する各種学習会
- 身近な生きもの調査対象種についての現地観察会

#### その他 (事業連携・広報活動)

さがみはら環境まつりへの参加  
調査結果等を広く情報提供するとともに相互の交流を図る。

「エコネットの輪」への登録、講師派遣  
調査結果等を広く情報提供するとともに環境学習及び環境活動を支援する。また、各層の人材育成を図る。

### 3 実施内容

#### (1) 身近な生きもの調査

	調査項目	実施時期
1	全体テーマ調査	
	タンポポ類の調査	平成22年3月16日～5月29日
	ジョロウグモの生息調査	平成22年10月2日～11月13日
2	自主テーマ調査	随時
3	専門部会調査	
	植物調査部会	平成22年5月17日 他
	湧水調査部会	平成22年6月8日 他
	河川生物相調査部会	平成22年7月10日 他
	野鳥調査部会	平成22年5月8日 他

#### (2) かんきょう学習セミナー

	実施内容	実施日	参加者数
1	自然環境観察員制度について 事務局職員 タンポポの在来種と外来種、雑種 市立博物館 秋山 幸也さん	平成22年 3月13日	46人
2	ジョロウグモについて 東京大学大学院農学生命科学研究科 谷川 明男さん 調査方法について 事務局職員	平成22年 10月2日	24人
3	津久井地区の森林 鳥屋造林組合 渡辺 巖さん 平成22年度実施報告 自然環境観察員	平成23年 4月29日	51人

## 第2章 身近な生きもの調査

### 1 全体テーマ調査

#### 1. 1 調査区域とテーマの選定

相模原市は、平成18・19年に津久井町、相模湖町、城山町、藤野町と合併し、県民の水がめである相模湖、津久井湖などの湖や緑豊かな自然環境を有するようになりましたが、自然環境観察員制度は平成10年度から平成12年度までに行われた旧相模原市域の自然環境基礎調査の結果が反映された相模原市環境基本計画(平成13年3月策定)に基づき運営していることから、平成22年度の身近な生きもの調査も旧相模原市域を中心に実施しています。

全体テーマ調査では、従来のとおり、旧相模原市内を500×500mのメッシュに区分し、担当のメッシュを決め、このメッシュを単位として生きもの調査を行い、調査結果をとりまとめました。(図1-1-1・表1-1-1参照)

調査テーマについては、制度が発足した平成13年度から調査してきた指標動植物種を平成18年度から追跡調査していることなどから、平成17年度に調査を行った「タンポポ類の調査」と「ジョロウグモの生息調査」といたしました。



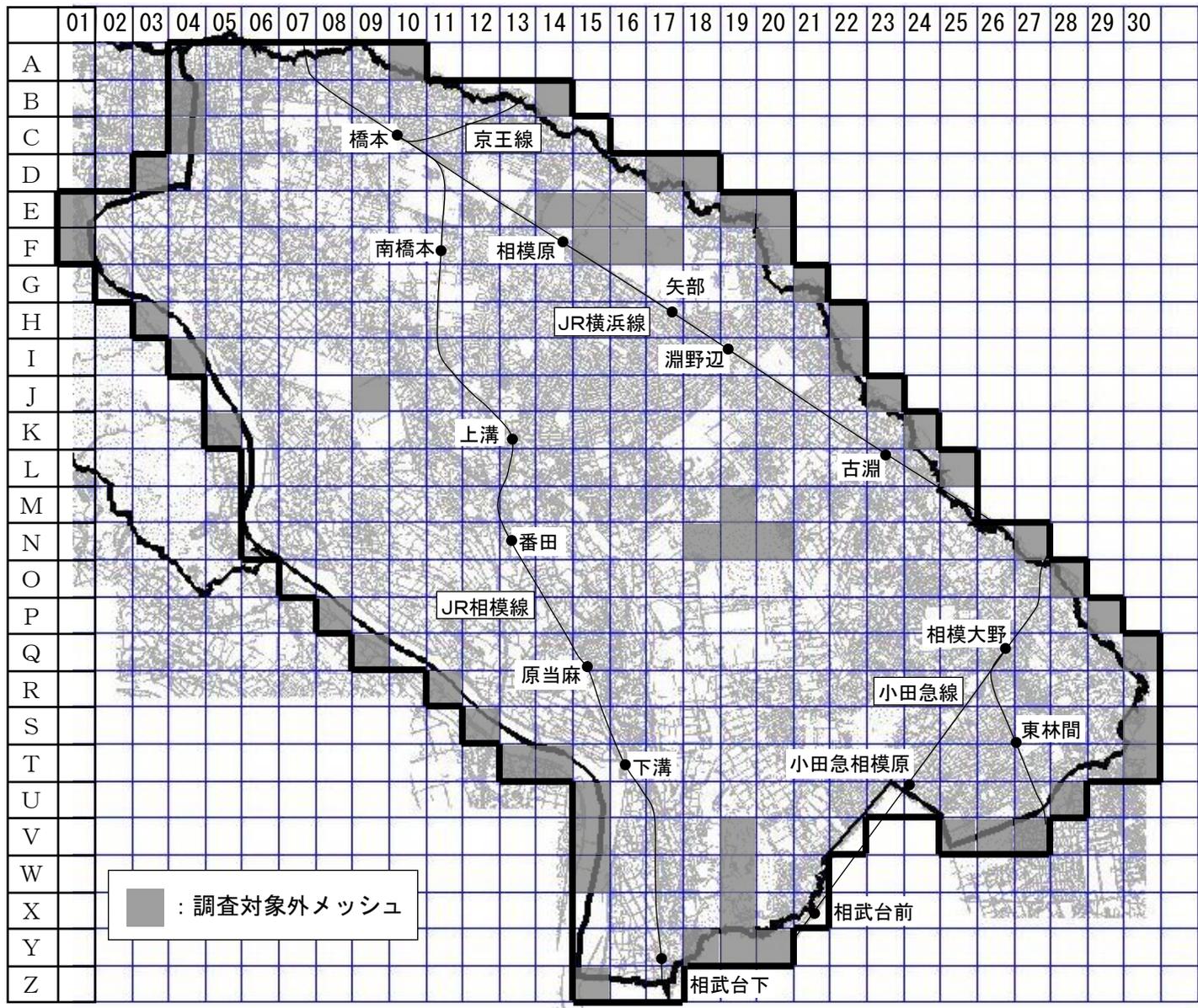


図1-1-1  
メッシュ見取り図

表1-1-1 メッシュ目印一覧

メッシュ 番号	目 印	メッシュ 番号	目 印
A04	華蔵院、森下バス停	D14	すすきの町、こばと児童館
A05	相原当麻田自治会館、相原保育園	D15	宮下本町1丁目、補給廠北側
A06	当麻田小学校西側、新町幼稚園	D16	補給廠北側
A07	当麻田小学校東側、JR 横浜線	E02	カインズホーム南側
A08	元橋本町交差点、相模原インドアテニス	E03	大島、井上養鶏場、スリーエフ
A09	瑞光寺、橋本本町バス停	E04	県営大島団地、市営上九沢住宅
B05	相原小学校	E05	下九沢内出交差点
B06	星の子保育園、新日鐵エンジニアリング	E06	職業能力開発総合大学校
B07	相原中学校、大和製罐	E07	相模原北公園、北清掃工場
B08	橋本高校、橋本郵便局	E08	橋本台収集事務所
B09	旭小学校	E09	橋本自動車学校
B10	北消防署、橋本4丁目市街地住宅	E10	国道16号、129号、セントラル自動車
B11	宮上小学校東側、蓮乗院	E11	小山小学校、大河原陸橋
B12	東橋本ひまわり保育園	E12	小山2丁目 たけのこ保育園
B13	境川坂本橋、天縛皇神社	E13	向陽小学校西側、矢掛立体交差
C05	二本松こどもセンター	E17	補給廠北側、上矢部1丁目付近
C06	日本板硝子	E18	上矢部2丁目、御嶽神社
C07	ロイヤルホームセンター、大和製罐	F02	諏訪森下橋
C08	北警察署、オラリオンマンション	F03	相模川自然の村、ビレッジ若あゆ
C09	相原高校、協同病院	F04	大島幼稚園、長徳寺
C10	JR橋本駅	F05	大島小学校、相模原総合高校
C11	相模原みどり幼稚園	F06	相模原総合高校東側
C12	東橋本2丁目交差点、田村電機製作所	F07	六地藏交差点
C13	小山白ゆり幼稚園	F08	上中の原団地、フードワン
C14	宮下本町2丁目、境川昭和橋	F09	橋本ゴルフセンター
C15	宮下本町1丁目、境川小山橋	F10	柴胡ヶ原墓地、東プレグランド
D04	二本松保育園	F11	JR南橋本駅
D05	内出中学校北側、湘北病院	F12	ホームセンターコーナン東側
D06	職業能力開発総合大学校	F13	氷川神社東側
D07	峡の原工業団地	F14	JR相模原駅
D08	ホームセンターくろがねや	F18	補給廠東北側、富士工業
D09	国道16号、東京電力橋本変電所	F19	相模つばさ幼稚園
D10	旭中学校	G02	相模川、諏訪森下頭首工
D11	小山公園スポーツ広場	G03	神奈川県内水面試験場
D12	宮下1丁目、協栄産業前バス停	G04	老人福祉センター溪松園
D13	三菱電機	G05	ロシナンテ、井上醤油

メッシュ 番号	目 印	メッシュ 番号	目 印
G06	大沢小学校	I08	三菱重工業北門
G07	九沢小学校、大沢中学校	I09	田名葛輪、NTT田名電話交換センター
G08	大沢団地、いなげや	I10	てるて幼稚園
G09	塚場交差点	I11	横山小学校
G10	国道129号、日電寮バス停	I12	横山公民館
G11	日本電気橋本技術センター、JR相模線	I13	相模原高校
G12	清新6丁目付近、清新小学校西側	I14	JA農協会館
G13	清新小学校	I15	税務署、相模原中央病院
G14	ダイエー、さがみ夢大通りバス停	I16	富士見小学校
G15	相模原4~6丁目付近	I17	国道16号鹿沼台交差点
G16	伊藤病院、補給廠	I18	鹿沼公園、市立図書館
G17	上矢部団地、麻布大学西側	I19	共和中学校、JR淵野辺駅
G18	麻布大学、麻布大淵野辺高校	I20	淵野辺5丁目、青山学院大学
G19	大野北中学校	I21	淵野辺本町4丁目 皇武神社
G20	日枝神社、境川宮前橋	J05	相模川、神沢不動尊
H04	大島、相模川	J06	清岩寺、古清水自治会館
H05	大島交差点、法性寺	J07	三菱重工業南側
H06	日々神社、相和病院	J08	三菱重工業南門
H07	JA営農センター	J10	国道129号、鳩川、四ッ谷児童館
H08	明神平自治会こども広場、田名葛輪	J11	上溝1丁目、横山丘陵緑地(蛸沢地区)
H09	九沢橋、金泉寺	J12	横山公園、よこやま幼稚園、日金沢橋
H10	下九沢団地	J13	さがみはらグリーンプール
H11	昭和電線ケーブルシステム	J14	星が丘1丁目、横山歩道橋
H12	小町通2丁目、清新学校給食センター	J15	千代田5丁目付近
H13	清新中学校	J16	千代田4丁目、千代田保育園
H14	相模原消防署	J17	市営東団地、弥栄郵便局
H15	相模原市役所	J18	国道16号淵野辺十字路
H16	村富神社	J19	国道16号共和4丁目歩道橋、コジマ
H17	JR矢部駅	J20	共和2丁目付近、新田稻荷神社
H18	淵野辺総合病院、矢淵陸橋	J21	カルピス、相模中央自動車学校
H19	淵野辺小学校	J22	東淵野辺2丁目付近、龍像寺
H20	東京電力大野変電所、グルメシティ	K06	清水保育園、清水入口バス停
H21	根岸橋	K07	田名清水、田名ひだまり公園
I05	神沢スポーツ広場、神沢不動尊	K08	田名四ッ谷自治会子ども広場
I06	水場バス停	K09	新キャタピラー三菱西側
I07	三菱重工業西側	K10	国道129号、新キャタピラー三菱

メッシュ 番号	目 印	メッシュ 番号	目 印
K11	鳩川幼稚園、市営鳩川住宅	M10	相模田名高校
K12	上溝本町交差点、姥川橋	M11	新宿小学校
K13	JR上溝駅、上溝中学校	M12	上溝南中学校
K14	星が丘小学校	M13	南上溝保育園、亀ヶ池八幡宮
K15	OKストア	M14	道保川公園西、丸崎ゴルフ練習場
K16	並木小学校	M15	道保川公園、七曲り、陽光台公民館
K17	弥栄小学校、弥栄中学校	M16	緑が丘中学校北側
K18	市立博物館、宇宙科学研究所	M17	青山学院大学グラウンド
K19	共和小学校南側、由野台中学校	M18	青葉3丁目 青葉の郷
K20	国道16号共和交差点、大野台郵便局	M20	相模原ゴルフクラブ入口・大野台中央小
K21	国道16号嶽の内入口付近	M21	相模原養護老人ホーム
K22	たけのうち幼稚園、淵野辺東小学校	M22	大野台小学校
K23	古淵1丁目、淵野辺東小学校東側	M23	南消防署大沼分署
L06	相模川（右岸に葉山島青少年広場）	M24	市営斎場
L07	堀の内交差点、田名北ふれあい広場	M25	古淵鶴野森公園、グリーンハイツ
L08	田名北小学校	N06	田名八幡宮、相模川小沢頭首工
L09	八千代銀行田名支店	N07	水郷田名団地、高田橋
L10	田名工業団地入口バス停	N08	田名半在家・田名陽原、南光寺
L11	上溝高校南側、石橋自治会館	N09	田名テラス、田名団地
L12	上溝小学校、ちとせ橋交差点	N10	田名バーディゴルフ
L13	全農ミート	N11	田名新宿
L14	陽光台小学校	N12	国道129号上溝南中学校信号
L15	陽光園、光が丘小学校	N13	JR番田駅
L16	青葉小学校、県営上溝団地	N14	安楽寺、上溝南こどもセンター
L17	弥栄高校、相模原球場	N15	上溝虹吹、清泉の郷
L18	銀河アリーナ、淵野辺公園	N16	緑が丘中学校、消防署緑が丘分署
L19	由野台中学校南側、松が丘2丁目交差点	N17	相模原浄水場
L20	大野台中央小学校北側、凸版印刷	N21	大野台8丁目、木もれびの森
L21	大野台公民館	N22	大野台中学校
L22	シマチュウホームセンター、ジャスコ	N23	慰霊塔、相模ひまわり幼稚園
L23	JR古淵駅、イトーヨーカドー	N24	相模原南警察署
L24	JR横浜線古淵陸橋	N25	鶴野森中学校
M06	田名幼稚園	N26	鶴野森団地、幸延寺
M07	相模川ふれあい科学館	O07	相模川高田橋
M08	田名小学校、田名中学校	O08	望地弁天キャンプ場
M09	相模田名高校西側、たんぼぼの家	O09	バス折返場（望地キャンプ場入口）

メッシュ 番号	目 印	メッシュ 番号	目 印
○10	田名聖地霊園	P27	谷口幼稚園、谷口中学校北側
○11	田名塩田4丁目 東急建設工場	P28	谷口小学校
○12	テクノパル田名工業団地	Q10	相模川（望地キャンプ場下流）
○13	上溝南高校	Q11	スーパーアルプス、田名病院
○14	上溝南小学校南側、諏訪神社	Q12	JA緑化センター
○15	姥川中ノ虹橋、山谷バス停	Q13	夢の丘小学校、当麻市場交差点
○16	下溝古山公園スポーツ広場	Q14	光明学園相模原高校、相模原養護学校
○17	神奈川中央交通麻溝操車場	Q15	JR原当麻駅北側、スーパー三和
○18	北里大学	Q16	姥川下原橋（横浜水道道）
○19	麻溝台高校	Q17	県立相模原公園
○20	北里2丁目、相模原ゴルフクラブ	Q18	県立相模原公園
○21	木もれびの森、大野台8丁目バス停	Q19	麻溝台工業団地、KYB
○22	西大沼3丁目、4丁目付近、大沼変電所	Q20	麻溝台2丁目、ニコン
○23	大沼小学校、大沼神社、大沼公民館	Q21	麻溝台中学校
○24	老人福祉センター若竹園	Q22	双葉小学校
○25	若松小学校	Q23	御園東ふれあい広場
○26	鶴野森3丁目付近 鹿島台小学校	Q24	谷口台小学校
○27	鹿島台小学校	Q25	市南合同庁舎、ロビーシティ
P09	田名望地、望地の渡し	Q26	小田急相模大野駅、伊勢丹
P10	リバーサイド田名ホーム	Q27	相模大野病院、谷口中学校
P11	カインズホーム、塩田さくら橋	Q28	鶴園小学校北側、稲荷神社
P12	テクノパイル田名工業団地、塩田ホーム	Q29	上鶴間本町8丁目付近 上鶴間橋
P13	塩田原交差点、東京電力北相模変電所	R12	相模川、相模原ポンプ場
P14	東京電力北相模変電所、スーパーなかや	R13	如来堂、無量光寺
P15	当麻 あざみがや交差点	R14	当麻東原公園、水田
P16	当麻 上中丸交差点	R15	麻溝小学校
P17	相模原沈殿池	R16	天心院
P18	北里大学病院	R17	麻溝公園スポーツ広場
P19	麻溝台高校	R18	麻溝公園
P20	北里大学東病院	R19	総合体育館南側
P21	相模台収集事務所、木もれびの森	R20	麻溝台保育園
P22	グレープの里、大沼交差点	R21	顕正寺、ひかり幼稚園
P23	大沼小学校南側、若松郵便局	R22	御園4、5丁目、ふれあいの森
P24	神奈川総合産業高校、相模女子大学	R23	みゆき台団地バス折返所
P25	大野南中学校、相模大野高校	R24	豊町、黒河内病院
P26	相模大野中央公園、国道16号谷口陸橋	R25	県高相合同庁舎、プラザシティ

メッシュ 番号	目 印	メッシュ 番号	目 印
R26	新町中学校北側	T29	くぬぎ台保育園、深堀ポンプ場
R27	消防上鶴間分署、南大野幼稚園	U16	三段の滝下広場
R28	上鶴間公民館、大野小学校	U17	相陽中学校、誠心相陽幼稚園
R29	鶴園小学校南側、長島神社	U18	勝坂歴史公園スポーツ広場
R30	中和田幼稚園、上鶴間高校	U19	新磯野、相武台中学校北側
S13	昭和橋上流河川敷	U20	もえぎ台小学校、相武台高校
S14	昭和橋スポーツ広場	U21	相武台団地
S15	水田、八景の棚	U22	相模台3・4丁目
S16	姥川谷戸橋、上谷開戸橋	U23	相模台2丁目、(座間市相模が丘)
S17	相陽台ホーム、相模が丘病院	U24	小田急相模原駅、相南4丁目
S18	廃棄物処分場	U25	東海大相模高校
S19	小松会病院	U26	消防東林分署
S20	若草小学校、消防麻溝台分署	U27	東林間8丁目付近
S21	桜台小学校、相模台中学校、国立病院	V16	磯部頭首工公園、郷土民族資料館
S22	相模台小学校	V17	消防新磯分署、磯部八幡宮、勝坂遺跡
S23	南台4丁目、上鶴間(米軍住宅)	V18	磯部2114付近 勝源寺
S24	南台郵便局、コナミスポーツクラブ	V20	相武台グリーンパーク
S25	鶴の台小学校	V21	相武台小学校
S26	森下記念病院	V22	行幸道路、村富線交差付近
S27	くぬぎ台小学校	W16	能徳寺、御嶽神社
S28	相模林間幼稚園	W17	新磯小学校、新磯保育園
S29	住宅展示場、上鶴間高校南側	W18	新戸、米軍キャンプ
T15	相模川 光明学園野球場	W20	緑台小学校、新磯野郵便局
T16	JR下溝駅	W21	相武台出張所
T17	相陽中学校、大下坂	X15	相模川
T18	峰山霊園、勝坂青少年広場	X16	新戸、水田
T19	新磯野、峰山霊園入口交差点	X17	新磯出張所、れんげの里あらいそ
T20	若草中学校	X18	新磯高校
T21	相模台団地	X20	キャンプ座間No4ゲート
T22	相模台出張所	X21	小田急相武台前駅
T23	鶴ヶ丘団地	Y15	新戸スポーツ広場北側
T24	松が枝公園、小田急線	Y16	新戸、泰成建工
T25	東林保育園	Y17	JR相模線相武台下駅、長松寺、
T26	東林出張所、東林小学校	Z16	JR相武台下駅西側地域、水田
T27	東芝林間病院	Z17	JR相武台下駅南側
T28	上鶴間中学校		

## 1. 2 タンポポ類の調査

### (1) 調査期間

平成22年3月16日～5月10日（同定作業期間5月25日～5月29日）

### (2) 調査方法

担当メッシュ内の道路沿い、河川敷、空き地、畑の周辺などでタンポポを探し、1メッシュ3か所程度の調査結果を記録票に記録しました。また、在来タンポポと思われたものと、外来タンポポか在来タンポポか不明であるもの、花の白いタンポポは、頭花サンプルを採取しました。現地ではタンポポ類の確認株数を、種類別に「1～10株」「11～49株」「50株以上」の3つの区分によって記録しました。採集したサンプルは、市博物館の指導により、顕微鏡での花粉観察による同定作業を実施しました。

なお、平成17年度のタンポポ類の調査では、予め担当メッシュの中央付近の半径50メートルを調査範囲とし、頭花サンプルの採取は調査範囲内だけで行いましたが、平成22年度の調査では、特に調査範囲を設定しませんでした。

調査票と頭花サンプルを環境情報センターへ回収する際には、市内各公民館にご協力をいただきました。ありがとうございました。

### (3) 調査対象メッシュ

市内の総メッシュ数は417ですが、平成17年度、平成22年度調査で調査したメッシュは表1-2-1のとおりです。

表1-2-1 調査メッシュ数

年度	調査メッシュ	未調査メッシュ	調査対象外メッシュ	総メッシュ
H17	306	53	58	417
H22	334	25	58	417

注：平成17年度は、メッシュ内の中心付近の半径50mを調査範囲とし、頭花サンプルを採集しました。この表では、頭花サンプルを採集したメッシュを「調査メッシュ」としました。調査範囲以外だけでタンポポの生育状況を調査したメッシュや、調査範囲内で調査しても頭花サンプルを採集しなかったメッシュは未調査メッシュに含めました。



(4) 調査結果

①タンポポ類の確認メッシュ数

平成17年度と平成22年度のタンポポ類の確認メッシュ数と未確認メッシュ数は表1-2-2のとおりです。平成17年度はシロバナタンポポを調査していません。

表1-2-2 タンポポ類の確認メッシュ数

		確認メッシュ		未確認メッシュ		合計	
		メッシュ数	割合	メッシュ数	割合	メッシュ数	割合
在来タンポポ	H17	66	21.6%	240	78.4%	306	100%
	H22	86	25.7%	248	74.3%	334	100%
	増減	20	4.1ポイント	8	-4.1ポイント	28	-
外来タンポポ	H17	275	89.9%	31	10.1%	306	100%
	H22	304	91.0%	30	9.0%	334	100%
	増減	29	1.1ポイント	-1	-1.1ポイント	28	-
雑種タンポポ	H17	128	41.8%	178	58.2%	306	100%
	H22	176	52.7%	158	47.3%	334	100%
	増減	48	10.9ポイント	-20	-10.9ポイント	28	-
シロバナタンポポ	H22	5	1.5%	329	98.5%	334	100%

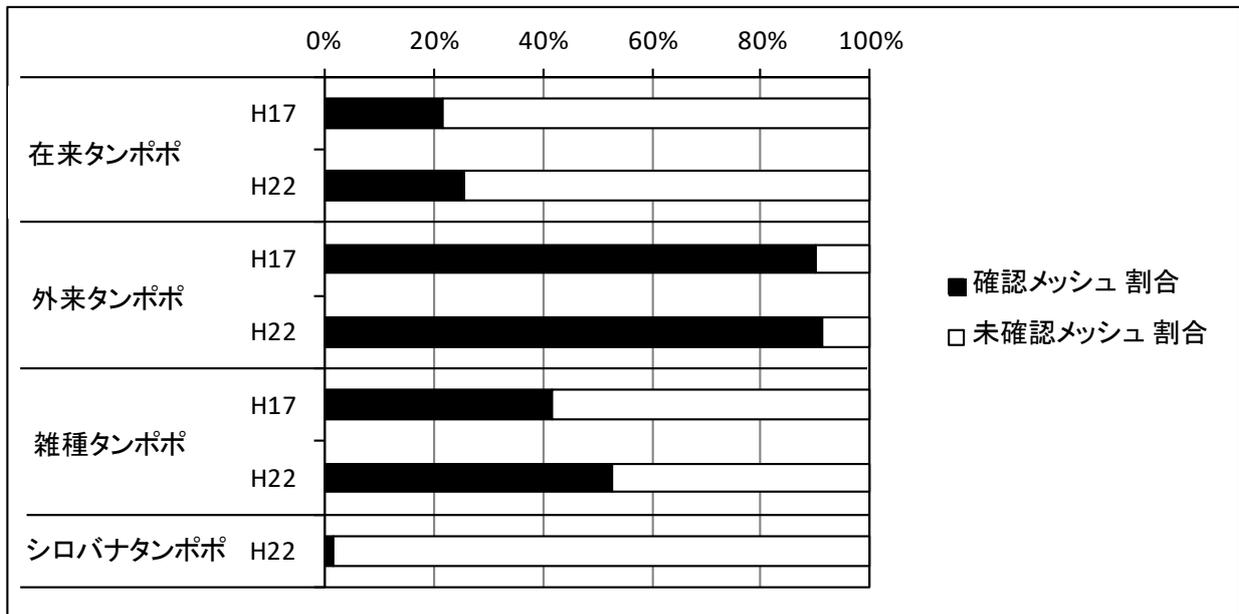


図1-2-1 タンポポ類の確認メッシュの割合

②タンポポ類の確認株数

メッシュ毎のタンポポの確認株数は表1-2-3のとおりです。なお、同一メッシュ内で調査地点が複数ある場合は、メッシュ内の最大数を計上しました。

表1-2-3 タンポポ類の確認株数

		1～10株	11～49株	50株以上	不明	合計
在来タンポポ	メッシュ数	48	24	14	0	86
	割合	55.8%	27.9%	16.3%	0.0%	100.0%
外来タンポポ	メッシュ数	73	122	109	0	304
	割合	24.0%	40.1%	35.9%	0.0%	100.0%
雑種タンポポ	メッシュ数	89	66	21	0	176
	割合	50.6%	37.5%	11.9%	0.0%	100.0%
シロバナタンポポ	メッシュ数	3	2	0	0	5
	割合	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	100.0%

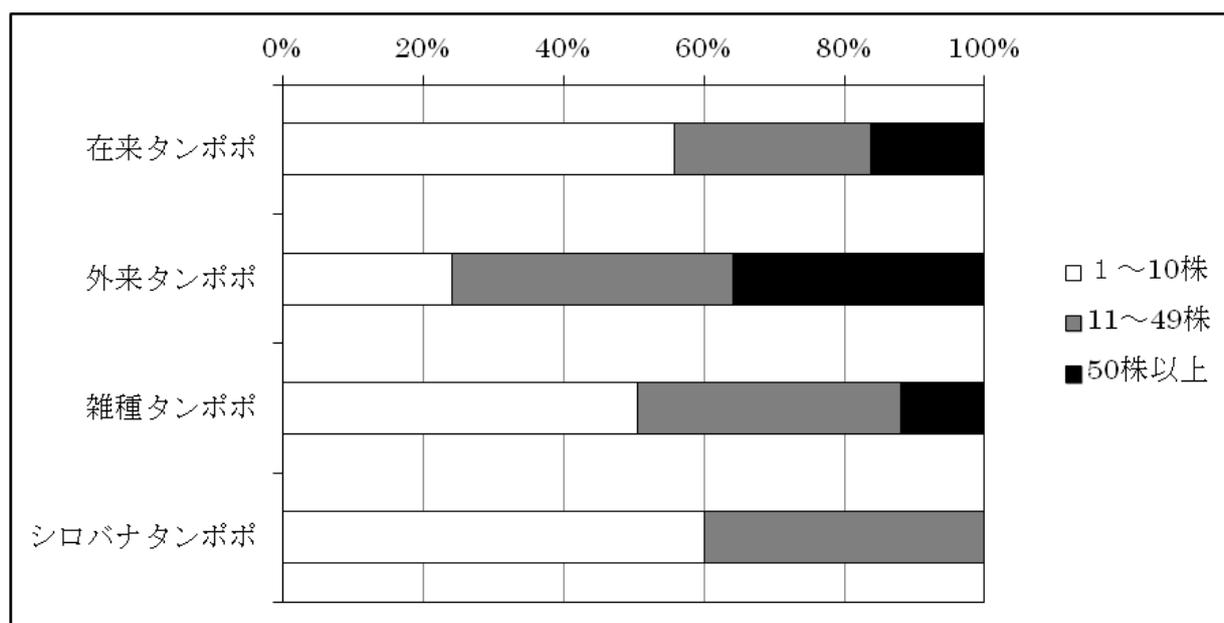


図1-2-2 タンポポ類の確認株数

③平成17年度調査結果との比較（1）

平成17年度と平成22年度の両年度で調査が実施された286メッシュにおける確認メッシュの状況は表1-2-4のとおりです。

※総メッシュ417のうち次のものを除きました。平成17年度未調査メッシュ53、平成22年度未調査メッシュ25、調査対象外メッシュ58。

表1-2-4 平成17年度調査結果との比較（1）

	H17のみ 確認	H22のみ 確認	どちらも 確認	どちらも 未確認	計
在来タンポポ	37	46	24	179	286
	12.9%	16.1%	8.4%	62.6%	100%
外来タンポポ	19	24	238	5	286
	6.6%	8.4%	83.2%	1.7%	100%
雑種タンポポ	53	83	71	79	286
	18.5%	29.0%	24.8%	27.6%	100%

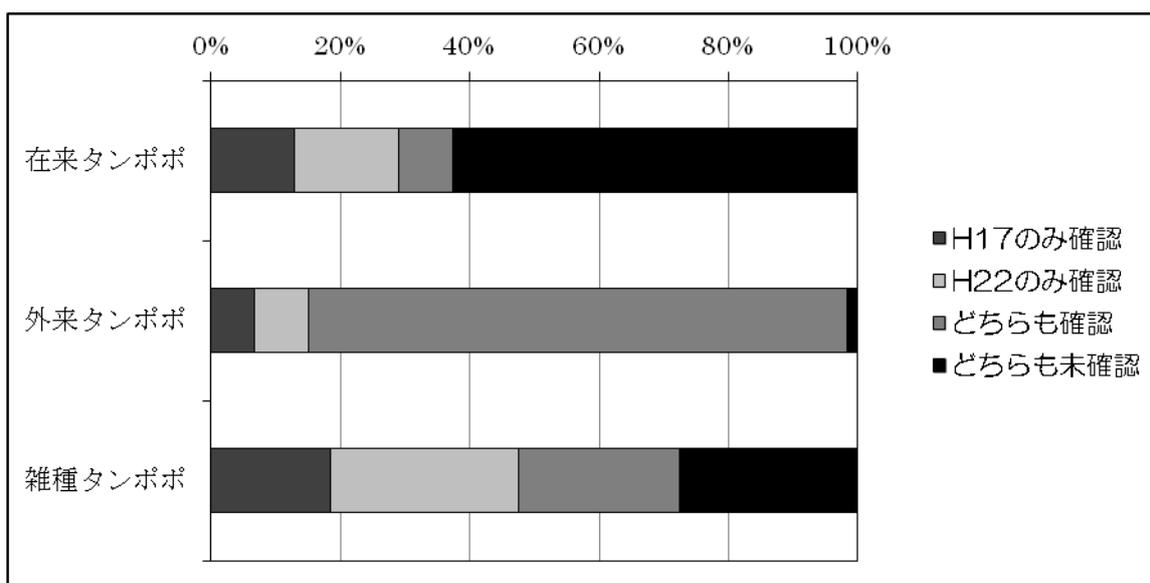


図1-2-3 平成17年度調査結果との比較（1）

④平成17年度調査結果との比較（2）

③各メッシュの平成17年度と平成22年度の確認状況（1）のうち、調査対象種を確認できたメッシュのみで比較した状況は表1-2-5のとおりです。

表1-2-5 平成17年度調査結果との比較（2）

	H17のみ確認	H22のみ確認	どちらも確認	計
在来タンポポ	37	46	24	107
	34.6%	43.0%	22.4%	100%
外来タンポポ	19	24	238	281
	6.8%	8.5%	84.7%	100%
雑種タンポポ	53	83	71	207
	25.6%	40.1%	34.3%	100%

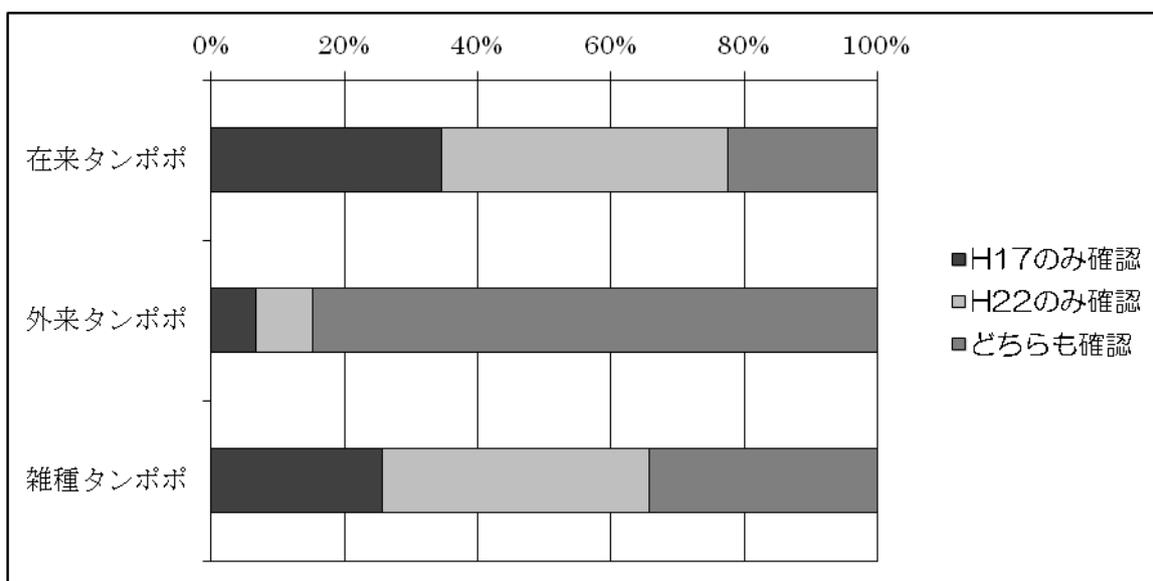


図1-2-4 平成17年度調査結果との比較（2）

⑤タンポポ類の分布状況

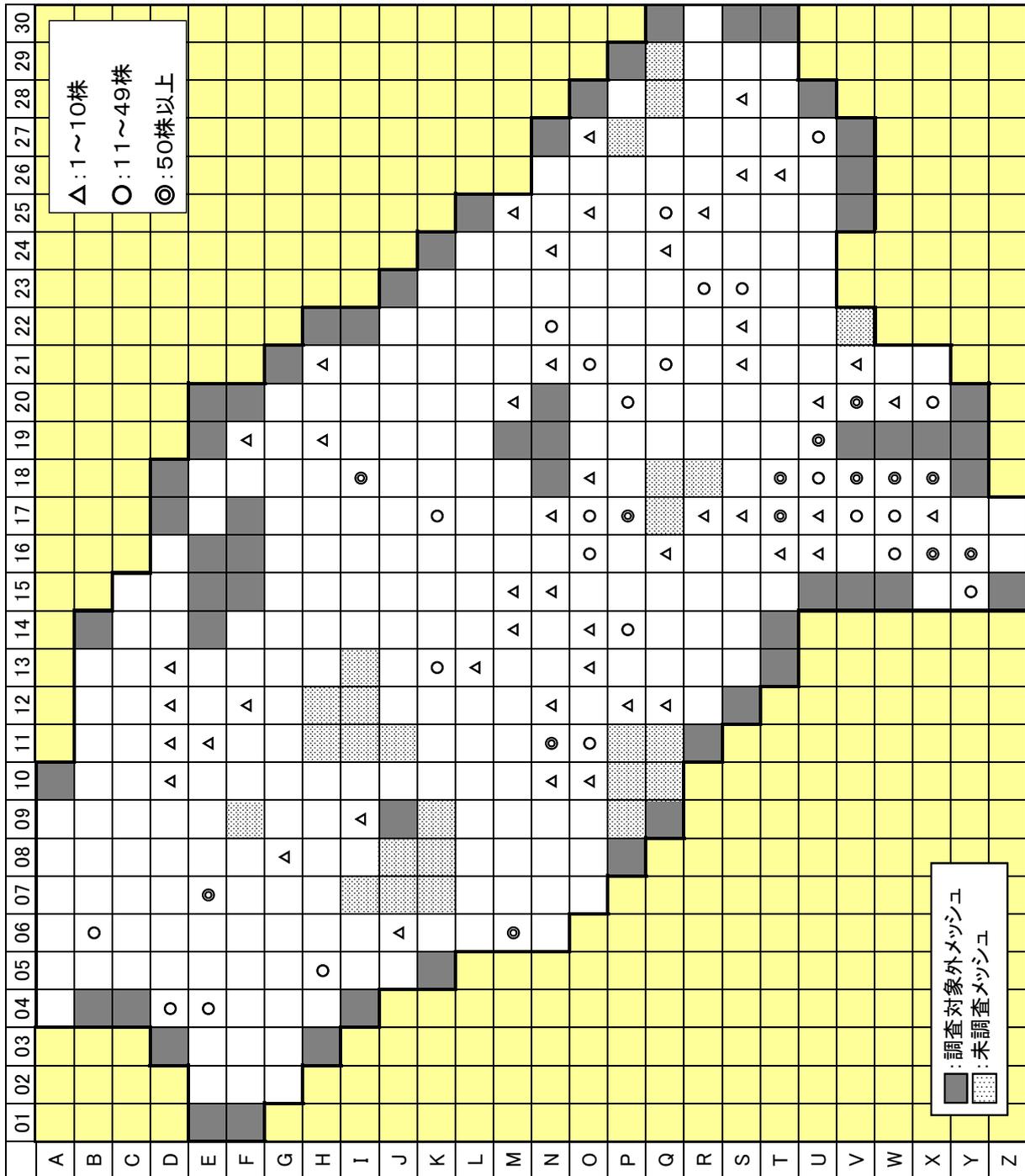


図1-2-5  
平成22年度の分布状況  
(在来タンポポ)

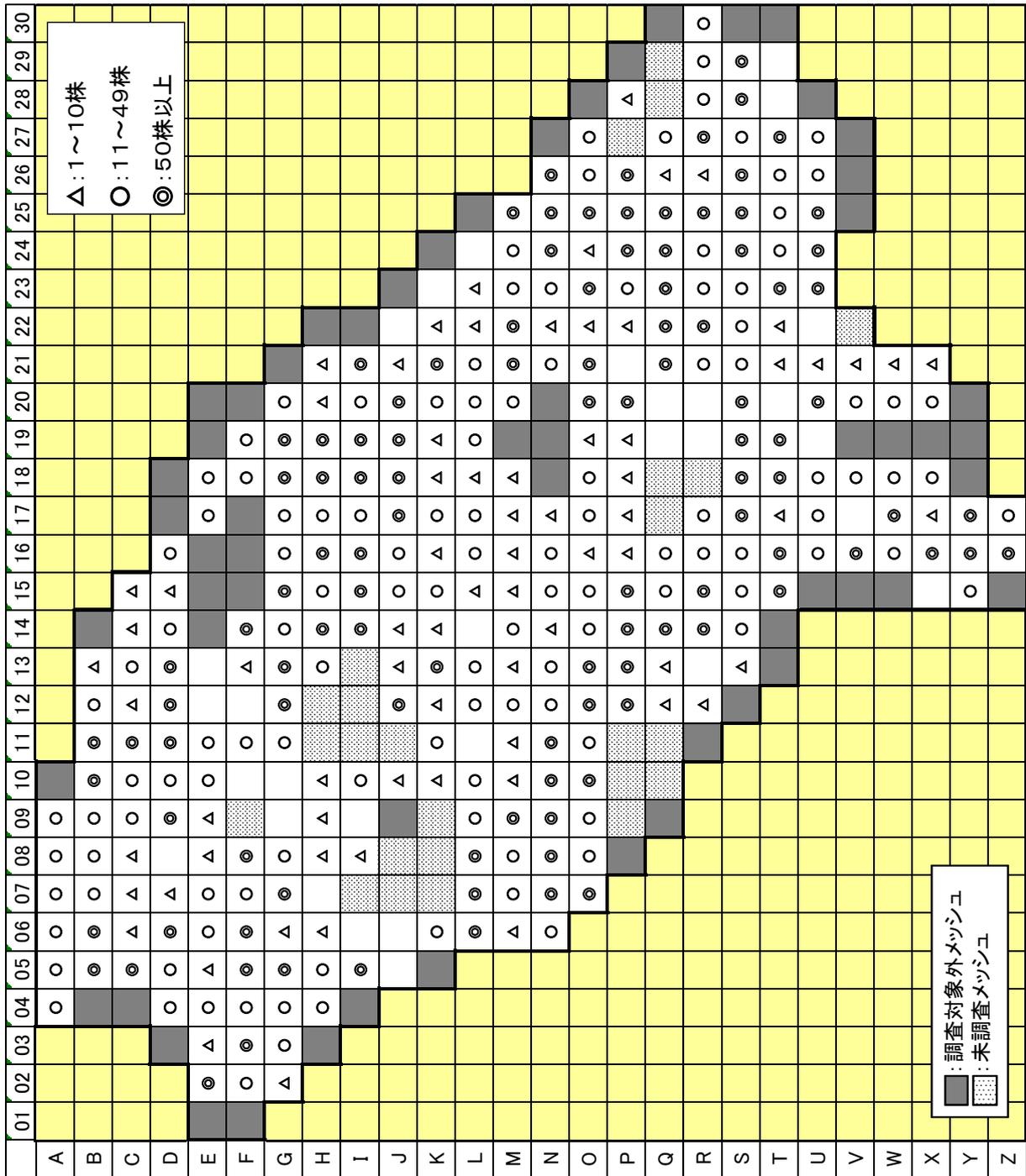
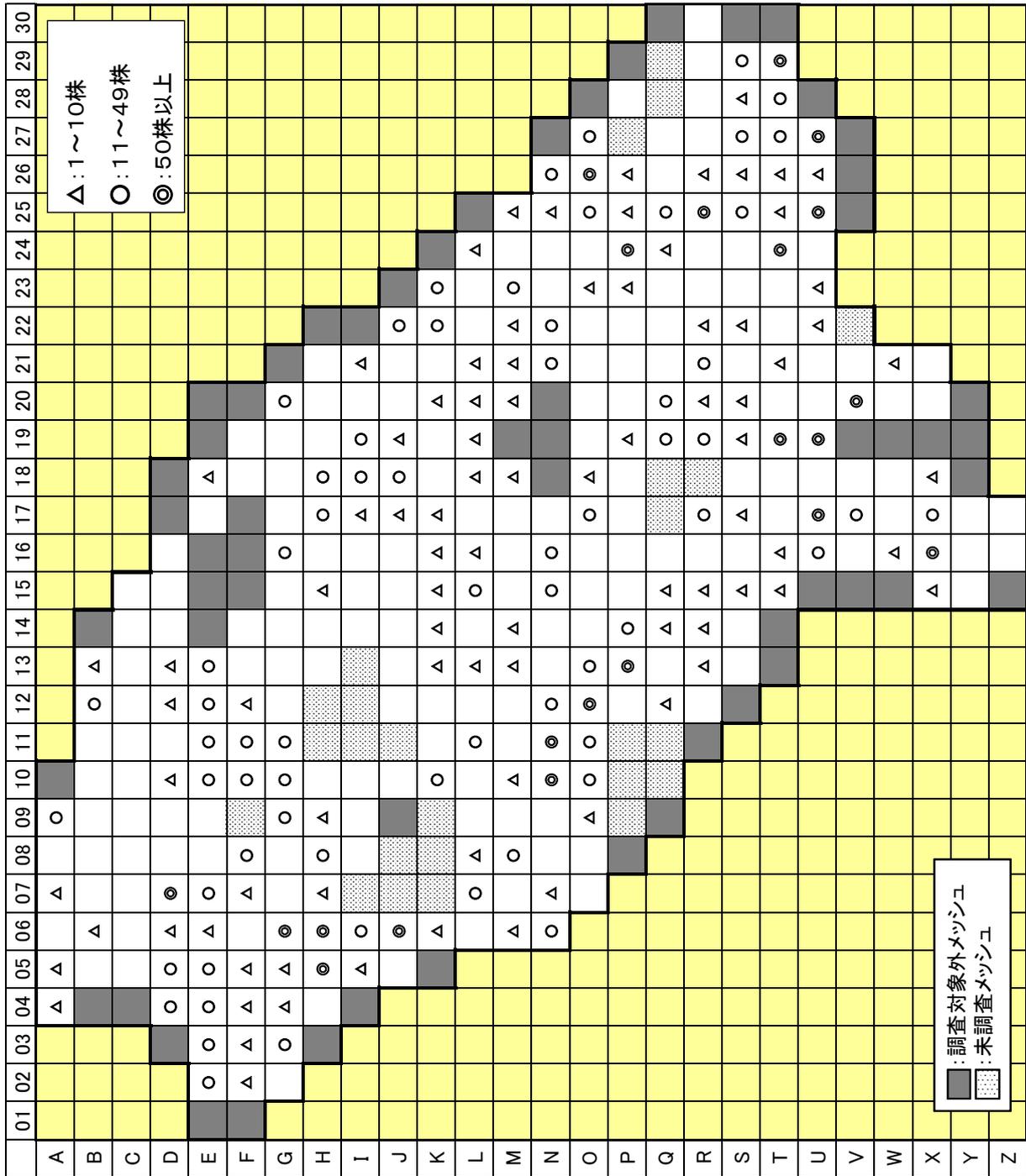


図1-2-6  
 平成22年度の分布状況  
 (外来タンポポ)



△: 1~10株  
 ○: 11~49株  
 ◎: 50株以上

■: 調査対象外メッシュ  
 ▨: 未調査メッシュ

図1-2-7  
 平成22年度の分布状況  
 (雑種タンポポ)

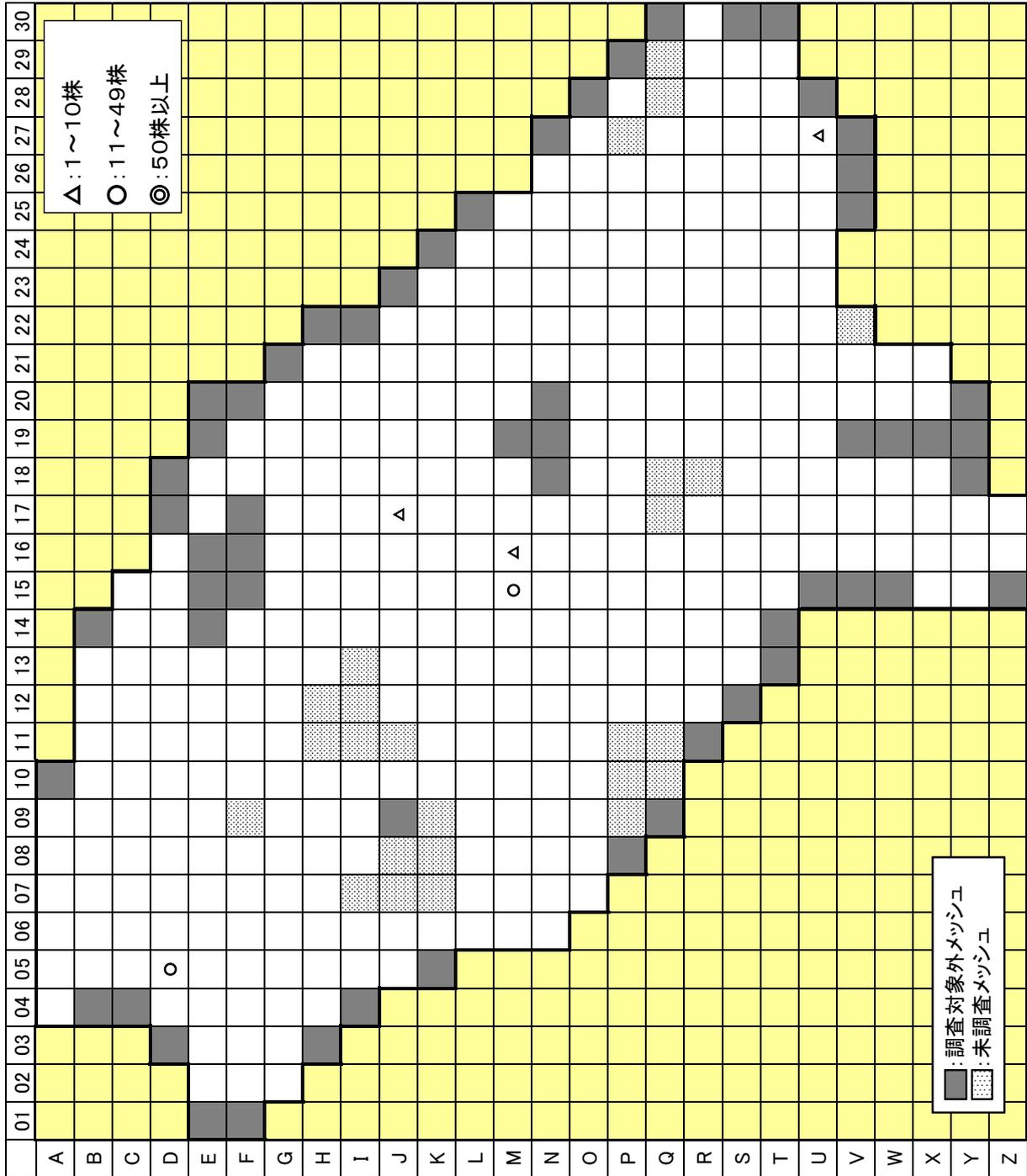


図1-2-8  
平成22年度の分布状況  
(シロバナタンポポ)

⑥タンポポ類の平成17年度と平成22年度の分布状況

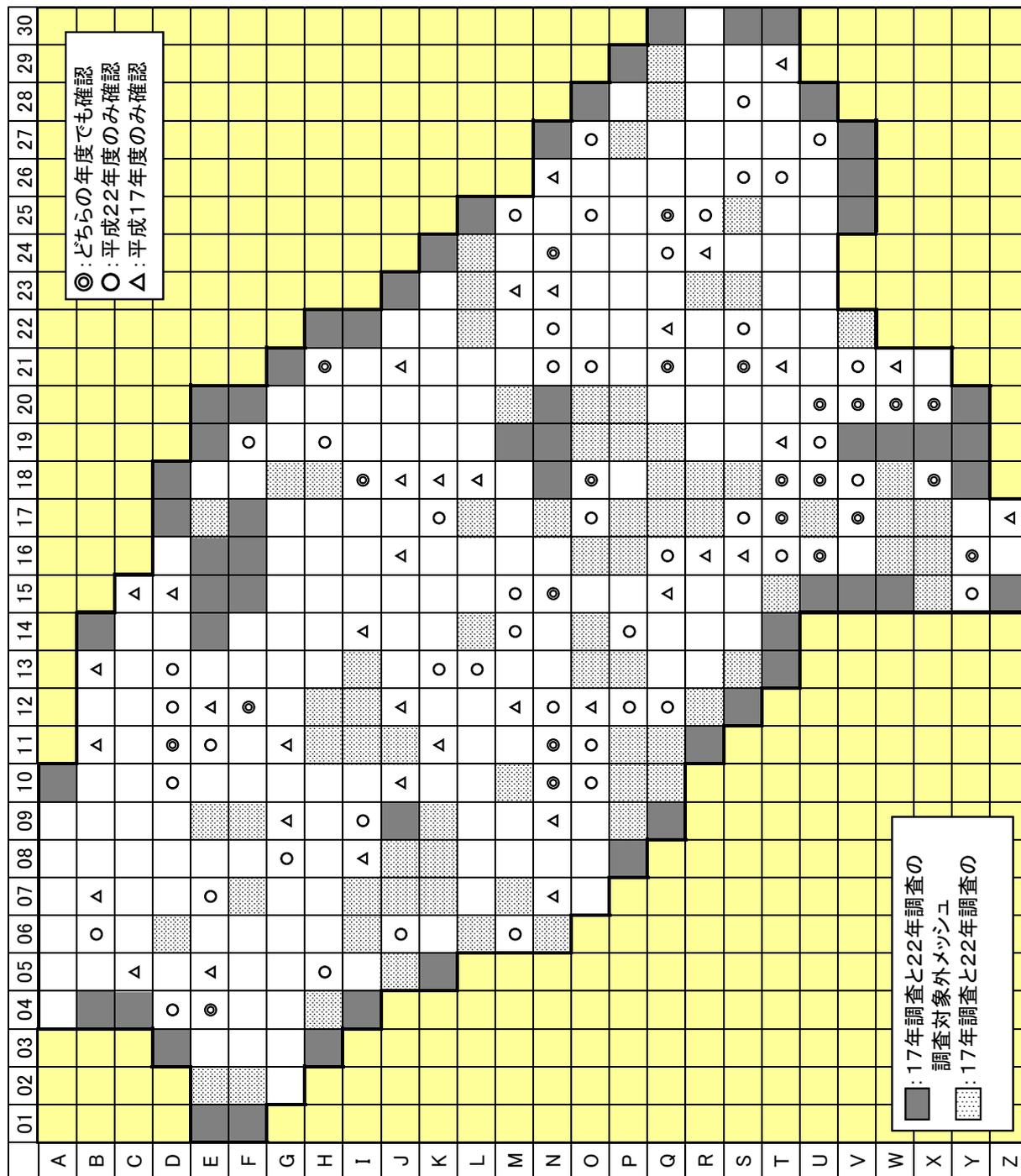


図1-2-9  
 平成17・22年度の分布状況  
 (在来タンポポ)

	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
A					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
C				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
D				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
E			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
F			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
G			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
H			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
I			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
J						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
K						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
L						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
M						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
N						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
O						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
P						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
Q						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
R						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
S						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
T						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
U						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
V						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
W						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
X						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
Y						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
Z						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

◎: どちらの年度でも確認  
 ○: 平成22年度のみ確認  
 △: 平成17年度のみ確認

■: 17年調査と22年調査の調査対象外メッシュ  
 ▨: 17年調査と22年調査の未調査メッシュ

図1-2-10  
 平成17・22年度の分布状況  
 (外来タンポポ)

	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
A				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
C				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
D				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
E				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
F				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
G				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
H				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
I				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
J				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
K				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
L				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
M				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
N				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
O				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
P				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
Q				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
R				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
S				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
T				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
U				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
V				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
W				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
X				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
Y				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
Z				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

◎:どちらの年度でも確認  
 ○:平成22年度のみ確認  
 △:平成17年度のみ確認

■:17年調査と22年調査の  
 調査対象外メッシュ  
 ▨:17年調査と22年調査の  
 未調査メッシュ

図1-2-11  
 平成17・22年度の分布状況  
 (雑種タンポポ)

## (5) まとめ

### ●確認メッシュ数

平成22年度に調査された334メッシュ中、最も多かったのは外来タンポポで、全調査メッシュの91.0%にあたる304メッシュで確認されました。次いで雑種タンポポが多く、全調査メッシュの52.7%にあたる176メッシュで確認されました(表1-2-2)。ただし、現地調査で外来タンポポと同定されたものは花粉調査を行っていないので、外見が外来タンポポに良く似た雑種タンポポが含まれていた可能性があります。

在来タンポポは全調査メッシュの25.7%にあたる86メッシュで確認され、最も少なかったシロバナタンポポは全調査メッシュの1.5%にあたる5メッシュだけで確認されました。

全調査メッシュ数に対する確認メッシュ数の割合を、平成22年度と平成17年度とで比較すると、在来タンポポ、外来タンポポ、雑種タンポポは全て増加しており、それぞれ4.1ポイント、1.1ポイント、10.9ポイント増加しました(表1-2-2)。ただし、平成17年度と平成22年度では、調査方法が異なり、平成17年度はメッシュの中心付近の半径約500mの円内のもののみ花粉調査を行ったのに対し、平成22年度はメッシュの全域を対象に花粉調査を行っているため、調査範囲が平成22年度の方が広く、発見率が高かったことが考えられます。したがって、平成17年度より平成22年度の方が、タンポポ類が増加したとは一概には言えません。大きな変化は、おそらくなかったものと推定されます。

なお、シロバナタンポポは平成17年度に調査が実施されていないので、平成17年度と平成22年度の比較はできません。

また、外来タンポポでは、平成17年度と平成22年度のどちらでも確認されたメッシュ数は、全確認メッシュ数の80%を超えていて、どちらかの年度でしか確認されなかったメッシュは、全確認メッシュ数の約15%しかありませんでした(表1-2-5)。この原因としては、外来タンポポが生育している場所があまり変化していなかった可能性が挙げられますが、そのほかに、数が多いので、どちらの年度でも発見率が高かったことによる可能性も挙げられます。

一方、在来タンポポと雑種タンポポでは、平成17年度と平成22年度のどちらでも確認されたメッシュ数は、全確認メッシュ数の35%未満と少ない割合だったのに、どちらかの年度だけで確認されたメッシュは65%以上でした。このことから、在来タンポポと雑種タンポポの生育場所が変化した可能性は否定できません。しかし、生育数が少なく存在していても確認される確率が低いために、どちらかの年度でしか確認されなかったメッシュが多かったことも考えられます(表1-2-5、図1-2-4)。

### ●確認株数

在来タンポポと雑種タンポポ、シロバナタンポポでは、確認株数の区分が最大だった地点が1~10株だったメッシュが最も多く、次いで11~49株だったメッシュが多かったのに対し、外来タンポポでは確認株数の区分が最大だった地点が11~49株だったメッシュが最も多く、次いで多かったのは50株以上だったメッシュでした。以上のことから、在来タンポポと雑種タンポポ、シロバナタンポポでは1ヶ所での確認株数が少ない地点が多いのに対し、外来タンポポでは1ヶ所での確認株数が多い地点が、より多いことが考えられます(表1-2-3)。

### ●結論

在来タンポポ、外来タンポポ、雑種タンポポのいずれも、平成17年度調査と比較して、生育数に大きな変化はないと考えられます。また、外来タンポポは確認株数の多い地点を含むメッシュが多かったのに対し、在来タンポポ、雑種タンポポ、シロバナタンポポでは確認株数の少ない地点だけのメッシュが多い結果となりました。

## (6) 全体テーマ調査の結果検討会

結果検討会を開き、全体テーマ調査の結果をワークショップ形式によって皆で見直してみました。

### ①実施日時

●平成23年2月9日（水） 午後1時～4時30分

### ②作業の進め方

班に分かれ、メッシュ地図上で、タンポポ類が確認されたメッシュにシールを貼る作業を行いました。さらに班ごとにワークショップによる考察を行い、考察結果を書いた付箋を模造紙に貼る作業を行い、班ごとに発表しました。最後に相模原市立博物館の秋山幸也さんに総括を行っていただきました。

### ③主な意見・感想

#### ●在来タンポポ

- 在来やタンポポは南部、川沿い、緑地に多い。
- 在来タンポポは線状に分布している。
- キャンプ座間の周辺は在来タンポポが多い。
- 在来タンポポは株数が少ないメッシュが多い。なぜか？
- 在来タンポポはこれだけ開発が進んでも咲き続けている。
- 在来たんぽぽは今後、減少していくのだろうか？

#### ●外来タンポポ

- 外来タンポポも川沿いに多そう。
- 外来タンポポはほぼ全域にある。市街地にも生える場所がある。
- 株数が多いメッシュは割合、かたまっている。株数が少ないメッシュは多いメッシュの周辺にかたまっている。

#### ●雑種タンポポ

- 在来タンポポと雑種の区別が難しい。

#### ●シロバナタンポポ

- シロバナタンポポに驚いた。分布は横浜線の南側。関西から来たものが多いのでそうなったのか？
- シロバナはどんなところに生えているのか？人為的？愛好家が広めた？自然？・・・よくわからない

#### ●全般

- タンポポ調査もジョロウグモと同じように予めルートを決めた方が、分ポ状況が良く解るのでは？
- 同じところに二度行った人の結果はどう反映されているのか。
- 造成地は他の雑草が多くてタンポポがない。
- タンポポがない場所は6ヶ所。どんなところだろうか？
- タンポポがない場所はコンクリート、住宅地ではないか？
- 町の中には見当たらない所もあった。
- 花粉調査結果により、現地での判断が間違っていた割合はどのくらいだろうか？

### ④相模原市立博物館 秋山幸也氏から

- 在来種の確認メッシュ数に変化がない。
- 変化がない、ということはつまらない事ではない。各地では在来が減ってきているのに相模原では変化がないということは、状況が悪化していないと言えるかも知れない。
- タンポポが見られなかったメッシュがほんの数%ということは、タンポポすらないメッシュが少ないということで、環境もさほど悪くない。
- 単純な勢力争いで外来が在来を席卷したわけではない。そもそも繁殖の仕方が違う。在来タンポポが育ちにくい環境に人間がして、そこに埋めあわせで外来が増えていっ

たのではないか？

- 外来あるいは雑種が在来を押しやっているのでは、という疑いを検証する必要がある。勢力争いをしているとすれば、メッシュ図上で外来が多い所は在来が少ないはず。しかし、同じ様に多いということは、単に勢力争いではないとも言える。

### 1. 3 ジョロウグモの生息調査

#### (1) 調査期間

平成22年9月23日～11月5日

#### (2) 調査方法

担当メッシュの中央部付近を通る500m程度の調査コースを各自で設定し、調査経路に沿って歩き、木や建物などの間に張られたクモの網を探し、ジョロウグモがいた網の数を記録しました。なお、探す所は、地表から2m位までの高さで経路から識別できる範囲の場所としました。また、特に多いと感じた地点もしくは範囲があればメッシュ図に赤ペンで囲うなどして示しました。

#### (3) 調査対象メッシュ

市内の総メッシュ数は417ですが、平成17年度、平成22年度調査で調査したメッシュは表1-3-1のとおりです。

表1-3-1 調査メッシュ数

年度	調査メッシュ	未調査メッシュ	調査対象外メッシュ	総メッシュ
H17	339	21	57	417
H22	326	33	58	417

#### (4) 調査結果

##### ①ジョロウグモの網の確認メッシュ数

平成17年度と平成22年度のジョロウグモの確認メッシュと未確認メッシュの数と割合は表1-3-2のとおりです。

表1-3-2 ジョロウグモの網の確認メッシュ数

	確認メッシュ		未確認メッシュ		合計	
	メッシュ数	割合	メッシュ数	割合	メッシュ数	割合
平成17年度	259	76.4%	80	23.6%	339	100%
平成22年度	269	82.5%	57	17.5%	326	100%
増減	10	6.1ポイント	-23	-6.1ポイント	-13	-

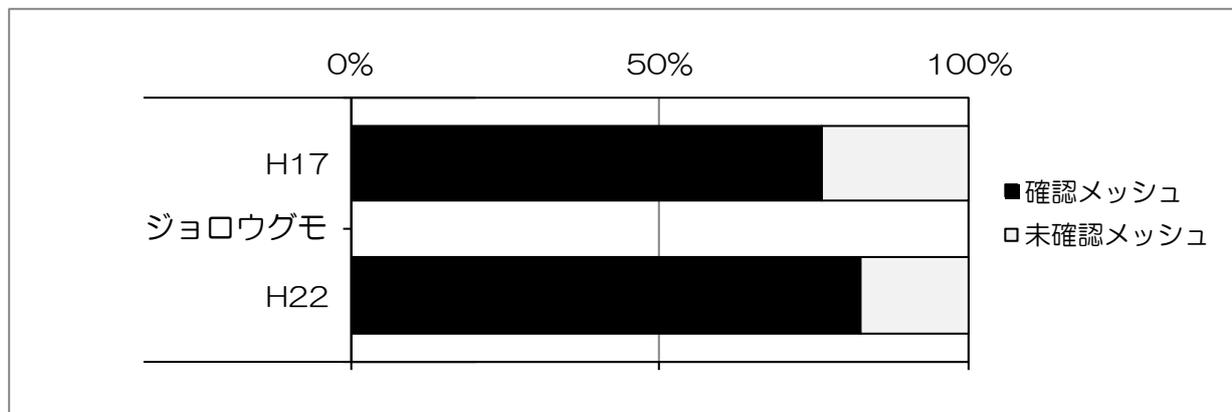


図1-3-1 ジョロウグモの分布確認状況

### ②確認メッシュの状況

平成17年度と平成22年度の両年度で調査が実施された309メッシュにおける確認メッシュの状況は表1-3-3のとおりです。

※総メッシュ417のうち次のものを除きました。平成17未調査メッシュ21・調査対象外メッシュ57、平成22未調査メッシュ33・調査対象外メッシュ58。

表1-3-3 確認メッシュの状況

項目	H17のみ 確認	H22のみ 確認	どちらも 確認	どちらも 未確認	合計
確認メッシュ数	29	43	211	26	309
割合 (%)	9.4%	13.9%	68.3%	8.4%	100%

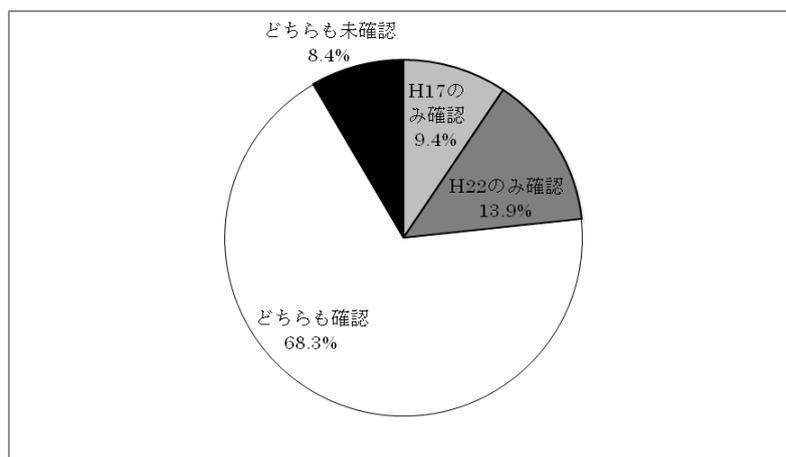


図1-3-2 確認メッシュの状況

### ③個体数の状況

調査対象種の網数は表1-3-4の通りです。

表1-3-4 網数の状況

網数	1~9	10~49	50以上	合計
メッシュ数	169	81	19	326
割合	51.8%	24.8%	5.8%	100%

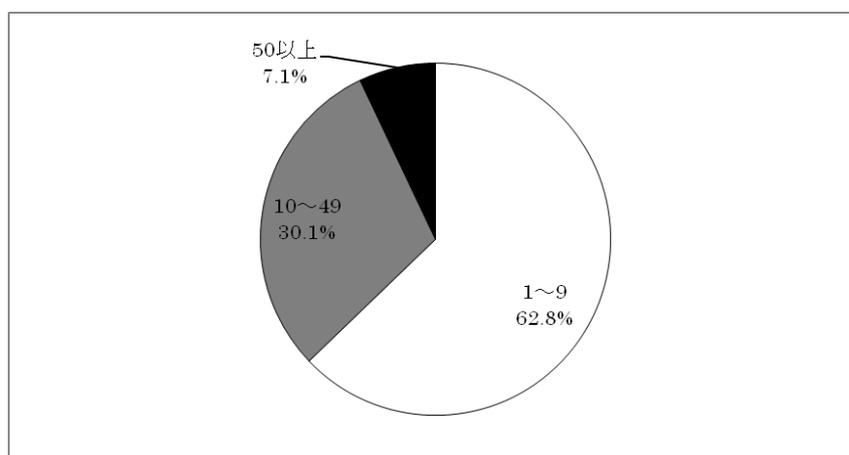


図1-3-3 網数の状況

⑤ ショロウグモの分布状況（網数）

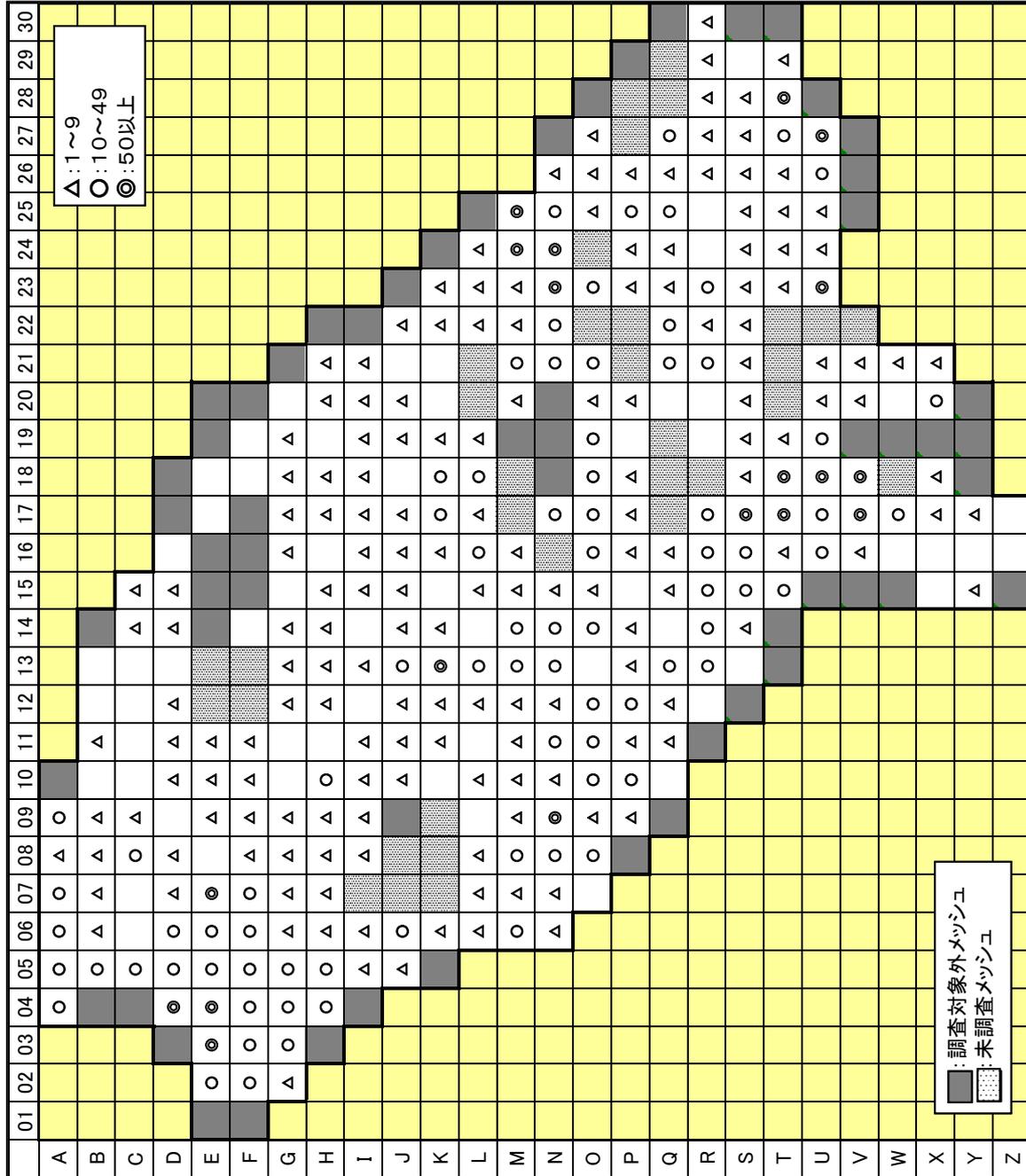


図1-3-4  
平成22年度の分布状況  
(シロウグモ)

⑥ ジョロウグモの平成17年度と22年度の分布状況

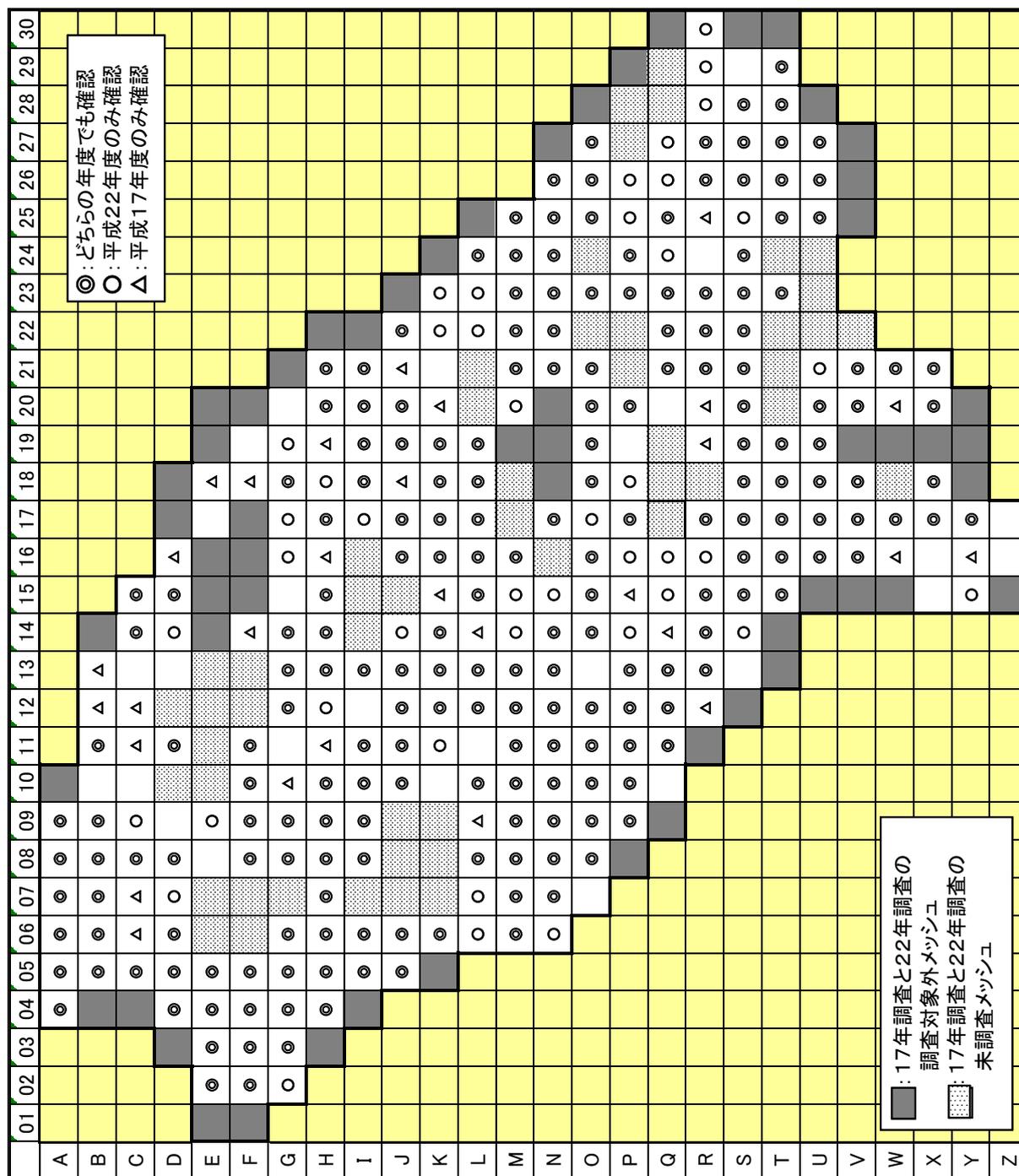


図1-3-5  
 平成17・平成22年度の分布状況  
 (ジョロウグモ)

## (5) まとめ

### ●概要

調査したメッシュの82.5%にあたる269メッシュでジョロウグモの網が確認されました(表1-3-2)。ジョロウグモが確認されたメッシュは多く、市内の広い範囲に生息していると考えられます(図1-3-5)。1~9の網が確認されたメッシュが最も多く、全調査メッシュ326のうち、51.8%にあたる169メッシュでした(表1-3-4)。50以上の網が確認されたメッシュは少なく、全調査メッシュ326メッシュ中5.8%にあたる19メッシュでした。50以上の網が確認されたメッシュは、旧相模原市内の北西部や南部などの比較的緑の多い場所でした(図1-3-4)。

### ●経年変化に関する考察

平成17年度の確認メッシュは全調査メッシュの76.4%だったのに対し、平成22年度の確認メッシュは全調査メッシュの82.5%で、6.1ポイント増加しています(表1-3-2)。ただし、平成17年度と平成22年度の差は大きなものではなく、また、ジョロウグモの数は年による変動が比較的大きいので、平成17年度と平成22年度では、大きな変化はなかったと考えられるでしょう。

### ●結論

ジョロウグモは、旧相模原市のほぼ全域に広く分布していますが、特に北西部、南部などの比較的緑の多い地域に網が多い傾向がありました。平成17年度との比較によると、大きな変化はありませんでした。

## (6) 全体テーマ調査の結果検討会

結果検討会をタンポポ類の結果検討会と同時に開催し、全体テーマ調査の結果をワークショップ形式によって皆で見直してみました。

### ①実施日時

●平成23年2月9日(水) 午後1時~4時30分

### ②作業の進め方

班に分かれ、メッシュ地図上で、ジョロウグモが確認されたメッシュにシールを貼る作業を行いました。さらに班ごとにワークショップによる考察を行い、考察結果を書いた付箋を模造紙に貼る作業を行い、班ごとに発表しました。最後に相模原市立博物館の木村知之さんに総括を行っていただきました。

### ③主な意見・感想

#### ●多い場所

- 相模川沿い、林の中、高い木立、林の入口に多い。
- 民家の中でも空き家に多い
- 網が多く見られるところは集中している。
- 網が多いメッシュは北西部や南部などに集中している。

#### ●少ない場所

- 境川沿いには少ない。
- 整備された畑・栗林などには少ない。
- 住宅地は住みづらいのでは?⇒相模原市の人口増加と関係があるのでは?

#### ●全般

- ジョロウグモ以外のクモは少なかった。
- クモが不在で網のみもあった。
- 網だけになっているものは少なかった。
- ジョロウグモがいたか、いないかで何がわかるのか?
- H17年とH22年は違うところにいることもあるので、環境が関係しているのか?
- 雨の翌日に多く確認できた。

○エサは羽のついている虫が多い。

④相模原市立博物館 木村知之氏から

○ジョロウグモは相模原の全面にいる。

○前は網が80以上の場所は大きな森という関係が見えた。今回も、やはり関係があると言えそう。

○ジョロウグモは年ごとの個体数の変動が大きい。H17とH22に数の差があっても、増えた、減ったとは単純に言えない。

○たくさんいた場はどんな場所か？あまりいなかった場所はどんな場所か？そのようなことを検証したらよいのでは。

## 2 専門部会調査

自然環境調査には、専門的な知識が必要なものや、グループで行ったほうが効率的なものがあります。

また、「全体テーマ調査」は稀少種などの特定の地域のみには生息・生育するものの調査には不向きですので、興味・関心が共通していたり、同じような問題意識を持っている人がまとまって様々な活動をする中で、より専門的な活動が図れるよう専門部会を設置しています。

現在の専門部会の設置状況は以下のとおりです。

表2-1 専門部会の設置年度と登録者数

部会名	設置年度	今年度の登録者数
植物調査部会	平成14年度	28名
湧水調査部会	平成14年度	19名
河川生物相調査部会	平成18年度	13名
野鳥調査部会	平成18年度	25名

### 2.1 植物調査部会

#### (1) 設置目的

植物には限られた地域に生育しているものや同定が難しいものなどがあるため、全体テーマ調査だけで必要なデータを得ることは困難です。また、自然環境基礎調査で得られた稀少種のデータを活かし現況を確認することは、今後の保全策を検討する上で非常に重要です。

そのため、植物に関心を持つ観察員が協力し合い、相模原市の貴重な植物の調査を行うことを目的に植物調査部会を設置しました。

#### (2) 活動報告

##### ア 第1回植物調査部会

(ア) 形式 調査観察会（上大島河原植物の調査）

(イ) 日時 5月17日（月）午前9時30分～12時30分

(ウ) 場所 相模川自然の村

(エ) 参加者 合計8名

観察員7名（岩田、小田、加々宮、鹿島、中、藤井、町野）

事務局1名（西田）

(オ) 内容 田んぼや河原の植物調査を行いました。河川周辺の指標植物としては、ツルヨシが少々発見されたが、調査時期を遅らせれば、更なる発見があると思われました。

##### イ 第2回植物調査部会

(ア) 形式 調査観察会（磯部の田園地帯の調査）

(イ) 日時 6月21日（月）午前9時30分～

(ウ) 場所 磯部の田んぼ周辺

(エ) 参加者 合計7名

観察員6名（岩田、鹿島、川村、中、藤井、町野）

事務局1名（西田）

(オ) 内容 田んぼや湿地の植物調査を行いました。水田・湿地の指標植物であるスギナやキツネノボタンを確認しました。

##### ウ 第3回植物調査部会

(ア) 形式 調査観察会（道保川公園周辺の調査）

(イ) 日時 7月20日（火）午前9時30分～

- (ウ) 場 所 道保川水辺植物の調査  
(エ) 参加者 合計8名  
          観察員7名(岩田、小田、加々宮、川村、齋藤、中、藤井)  
          事務局1名(西田)  
(オ) 内 容 湧水地の植物を調査し、ヨシ、クレソン、セキショウ、ミソホオズキなどを  
          確認しました。道保川下流の段丘崖や湿地帯の様子も観察しました。

#### エ 第4回植物調査部会

- (ア) 形 式 会議  
(イ) 日 時 8月9日(月) 午前9時~正午  
(ウ) 場 所 環境情報センター 活動室  
(エ) 参加者 合計9名  
          観察員8名(青野、貝瀬、加々宮、川村、仙田、中、福田、藤井)  
          事務局1名(西田)  
(オ) 内 容 前期の活動報告・反省会を行い、後期の活動予定を検討しました。

#### オ 第5回植物調査部会

- (ア) 形 式 調査観察会(田名望地周辺の調査)  
(イ) 日 時 9月21日(火) 午前9時30分~午後12時30分  
(ウ) 場 所 望地周辺  
(エ) 参加者 合計6名  
          観察員5名(加々宮、川村、仙田、中、藤井)  
          事務局1名(西田)  
(オ) 内 容 高田橋から相模川沿いに望地の崖の端まで歩き、崖の植物や水路沿い、放棄  
          畑の植物を観察しました。崖のイワタバコが確認できました。

#### カ 第6回植物調査部会

- (ア) 形 式 調査観察会(城山周辺の調査)  
(イ) 日 時 10月27日(水) 午前9時30分~午後3時30分  
(ウ) 場 所 県立津久井湖城山公園  
(エ) 参加者 合計7名  
          観察員6名(青野、浅原、鹿島、仙田、中、藤井)  
          事務局1名(西田)  
(オ) 内 容 県立津久井湖城山公園内(津久井城址周辺)を散策しながら、平地の環境で  
          は見られない植物の観察を行いました。タカオヒゴタイ、カントウカンアオ  
          イ、カラタチバナ、ソバナ、ツチアケビなどを確認することができました。

#### キ 第7回植物調査部会

- (ア) 形 式 調査観察会(石老山周辺の調査)  
(イ) 日 時 11月25日(火) 午前9時30分~午後4時00分  
(ウ) 場 所 石老山周辺及び登山道  
(エ) 参加者 合計6名  
          観察員5名(岩田、鹿島、齋藤、中、藤井)  
          事務局1名(西田)  
(オ) 内 容 石老山周辺及び登山道の植物調査を行いました。相模原台地にはない樹木な  
          ど、さまざまな木を見ることができました。

#### ク 第8回植物調査部会

- (ア) 形 式 会議  
(イ) 日 時 12月6日(月) 午前9時30分~正午  
(ウ) 場 所 環境情報センター 活動室  
(エ) 参加者 合計7名

- 観察員6名（青野、加々宮、小泉、仙田、中、藤井）  
事務局1名（西田）
- (オ) 内 容 調査・観察会などの活動の報告・反省会を行いました。また、道保川下流域の環境問題や今後の予定について話し合いました。

#### ケ 第9回植物調査部会

- (ア) 形 式 水とみどり環境課への訪問  
(イ) 日 時 1月17日（月）午前10時00分～11時45分  
(ウ) 場 所 相模原市役所会議室  
(エ) 参加者 合計6名  
観察員5名（藤井、齋藤、仙田、青野、加々宮）  
事務局1名（西田）
- (オ) 内 容 道保川全体の保全・利用・管理計画などの市の方針や、市民活動などについて、水みどり環境課で聞き取りを行いました。

#### コ 第10回植物調査部会

- (ア) 形 式 調査観察会（ミニ観察会への参加）  
(イ) 日 時 2月9日（水）午前9時30分～午前11時30分  
(ウ) 場 所 環境情報センター付近  
(エ) 参加者 合計4名  
観察員3名（藤井、仙田、青野）  
事務局1名（西田）
- (オ) 内 容 環境情報センターが主催するミニ観察会に参加し、市街地の植物を観察しました。

## 2. 2 湧水調査部会

### (1) 設置目的

相模川をはじめとする河川と段丘崖に点在する湧水は、相模原市の代表的な自然環境といえます。河川や湧水の水質・水量を維持し、生態系の保全を図りながら、将来世代に豊かな水辺を引き継ぐことは我々の責務です。

そのため、相模原市環境基本計画においては、湧水保全対策として、重点施策に「自然環境観察員と連携して、湧水の監視を行います。」という取り組みを掲げました。この取り組みを推し進め、湧水の継続的な調査を実施することを目的に湧水調査部会を設置しました。

### (2) 調査概要

平成14年度から17年度まで行ってきた一次調査の結果を踏まえ、19年度から23年度までの5年間を二次調査期間として、これまで調査した30箇所のうち、湧水が全く確認できない1箇所を除外した29箇所について経年変化を調査し、記録します。今年度は二次調査の4年目として、リバーサイド田名ホーム並び、望地の渡し・上流側、釣り堀・高田橋寄り、大杉公園池、相模川ふれあい科学館上の5箇所の調査を行いました。

### (3) 調査方法

調査方法については、調査結果の比較が容易にできるよう自然環境基礎調査の調査方法にできる限り近づけています。主な変更点としては、自然環境基礎調査で行ったBODの調査は市民参加での調査には適さないことから、CODによる調査に変えています。

表2-2 湧水調査方法の概要

項目	概要	
	湧水調査部会調査 (平成14年度~)	自然環境基礎調査 (平成10年度)
1 調査時期	豊水期(9月下旬)と渇水期(1月下旬)の年2回	
2 調査箇所	29箇所を5年で実施 (第2次調査)	30箇所を1年で実施
3 水質調査	(1) 水質調査項目 ①水温 ②溶存酸素量(DO) ③水素イオン濃度(pH) ④電気伝導率(EC) ⑤化学的酸素要求量(COD) ⑥湧水量	(1) 水質調査項目 ①水温 ②溶存酸素量(DO) ③水素イオン濃度(pH) ④電気伝導率(EC) ⑤生物化学的酸素要求量(BOD) ⑥湧水量
4 植物調査	(1) 時期 豊水期調査及び渇水期調査と同期日 (2) 方法 湧水周辺の植物について、成育種の確認、群落の大きさ、生育状況などを記録	(1) 時期 夏期植生調査時に実施 (2) 方法 湧水周辺の植物について、成育種の確認、群落の大きさ、生育状況などを記録
5 水生生物調査	(1) 時期 豊水期調査及び渇水期調査と同期日 (2) 方法 湧水地及びこれに続く水路、湿性地を対象として、水生動物の確認(定量時間20分程度の任意採集)	(1) 時期 豊水期調査と同期日 (2) 方法 湧水地及びこれに続く水路、湿性地を対象として、水生動物の確認(サーバーネット及びタモ網を用い定量時間30分の任意採集)

(2) 活動報告

ア 第1回湧水調査

(ア) 形式 調査(豊水期)

(イ) 日時 9月26日(日) 午前9時~午後3時

(ウ) 場所 リバーサイド田名ホーム並び、望地の渡し・上流側、釣り堀・高田橋寄り、大杉公園池、相模川ふれあい科学館上(全5箇所)

(エ) 参加者 合計16名

観察員8名(井口、貝瀬、小林、青野、田畑、川崎、武田、岩田)

事務局3名(岩下、斉藤、楠)

(オ) 内容 全地点とも、湧水から流れ出た沢の水や岩盤から滴り落ちている水は既に空気(酸素)と混ざり合っているためにDOの信頼性が得られないので行いませんでした。平成16年度に比較して、No. 19、22、23はやや水質が悪化していました。

イ 第2回湧水調査

(ア) 形式 調査(渇水期)

(イ) 日時 1月23日(日) 午前9時~午後3時

(ウ) 場所 リバーサイド田名ホーム並び、望地の渡し・上流側、釣り堀・高田橋寄り、大杉公園池、相模川ふれあい科学館上(全5箇所)

(エ) 参加者 合計13名

観察員10名（井口、岡野、貝瀬、加々宮、小泉、小林、鹿内、川崎、齋藤、西田）

事務局3名（岩下、齊藤、渡部）

(オ) 内 容 前回同様、DO は測定しませんでした。No. 20は水質がやや悪化していました。

ウ 調査結果—地点評価—

表2-3 湧水調査部会調査結果

No	名 称	湧水量	水質	植生環境	水生動物相	管理	総評	変化
19	リバーサイド田名ホーム並び	C	A	A	C	B	△	→
20	望地の渡し・上流側	A	B	B	A	A	○	↘
21	釣り堀・高田橋寄り	C	A	B	B	A	△	→
22	大杉公園池	C	C	C	C	B	△	→
23	相模川ふれあい科学館上	B	A	B	B	C	△	→

(評価基準)

湧水量	A：湧水量が豊富 B：湧水量がやや豊富 C：染み出す程度 D：水涸れする時期がある
水質	A：各項目とも良好 B：普通 C：生活排水が混入している
植生環境	A：良好な樹林環境がある B：樹林がある C：樹林がない
水生動物相	A：水生動物相が豊富 B：普通 C：水生動物相が貧相
管理	A：湧水が管理されている B：とくに管理はされていない C：管理されておらず、ゴミが散在している
総評	◎：湧水量及び水質並びに周辺環境が良好 ○：湧水量及び水質並びに周辺環境がやや良好 △：湧水量及び水質並びに周辺環境が貧弱 ×：湧水が水涸れし、湧水地機能がなし

## 工 通年調査

- (ア) 形式 通年調査  
 (イ) 日時 6月～3月に月一回（調査地点によって、日時が異なる）  
 (ウ) 場所 表2-4に示した8地点で行いました。これらのほか、No.28（老人福祉センター溪松園下）でも6月に調査を行いましたが、危険だったため調査を中止しました。

表2-4 通年調査地点

地点番号	地点名	備考
No.3	道保川公園内	中央区上溝虹吹地先
No.5	十二天神社横	南区下溝2402（古山地先）
No.10	相模ヶ丘病院下	南区下溝松原地先
No.13	勝坂遺跡（有鹿谷）	南区磯部上磯部地先
No.17	塩田ホーム脇水路	中央区田名8983（塩田地先）
No.18	東急工建下	中央区多難塩田地先
No.20	望地の渡し・上流側	中央区多難塩田地先
No.24	清岩寺下	緑区大島2518（清水地先）

- (工) 参加者 合計7名（鹿内、井口、貝瀬、小泉、小林、武田、小田）  
 (才) 内容 月に一度、各調査員の都合のよい日時に、あらかじめ設定した調査地点で湧水調査を実施し、現地で水質等の測定を行いました。また、現地で湧水のサンプルを採取し、後日分析を行いました。測定項目と分析項目は表2-5のとおりです。

表2-5 湧水通年調査測定・分析項目

現地測定項目	分析項目
気温	電気伝導度
水温	フッ素イオン
pH	塩素イオン
湧水量	亜硝酸イオン
	臭素イオン
	硝酸イオン
	リン酸イオン
	硫酸イオン

測定結果と分析結果（塩素イオン、硝酸イオン、硫酸イオン）は、図2-1～3のとおりです。湧水量は多くの地点で10月または11月に多い傾向が見られました。ただし、No.17、No.18は梅雨期の6月と豊水期後の10月または11月の2度に渡り多い傾向が見られました。電気伝導度はNo.13、17、18で変動が見られますが、その他の地点はほぼ安定した一定の値を示しました。陰イオン濃度はNo.17で塩素イオン、硝酸イオン、硫酸イオンが他の地点よりも高い傾向が見られました。またNo.10、13、18の硝酸イオン濃度に変動が見られましたが、その他のイオン濃度はほぼ安定した一定の値を示しました。

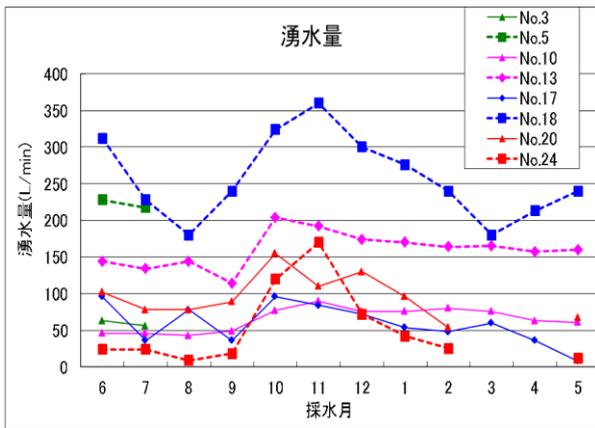


図2-1 通年調査による湧水量

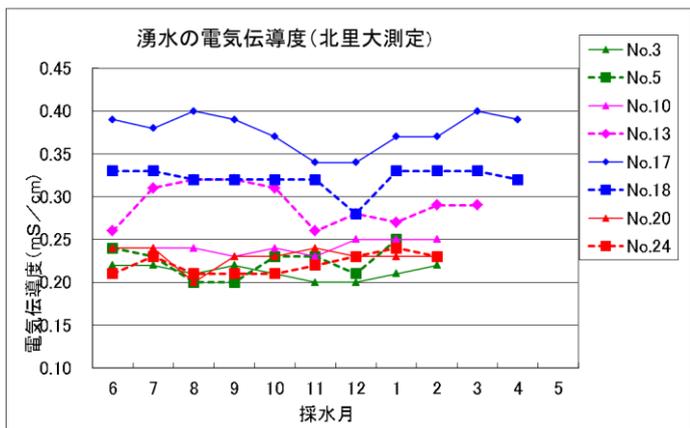


図2-2 通年調査による湧水の電気伝導度

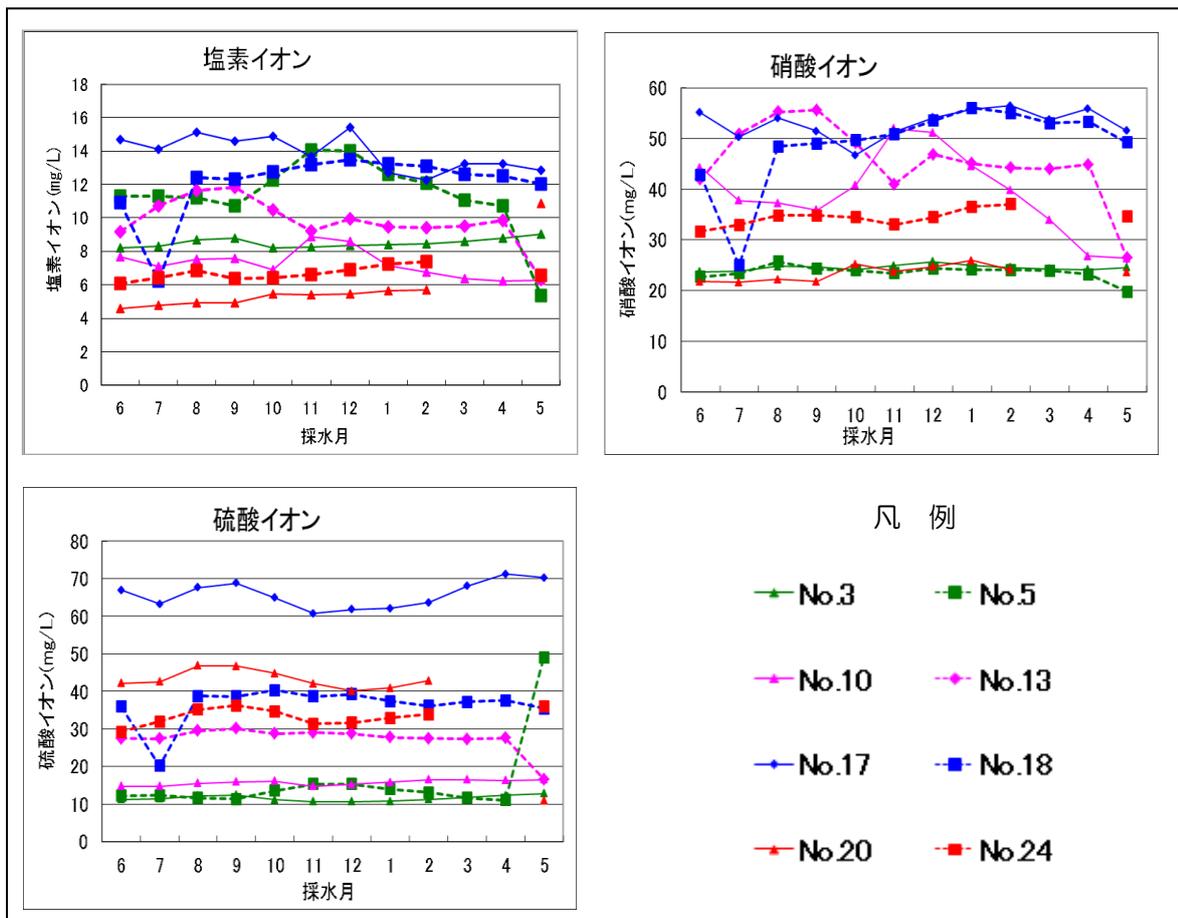


図2-3 通年調査による陰イオン濃度 (左上：塩素イオン、右上：硝酸イオン、左下：硫酸イオン)

## 2. 3 河川生物相調査部会

### (1) 設置目的

相模川をはじめとする河川には様々な生き物が生息しています。とくに河川に見られる底生生物を指標とする河川生物相は、種類、個体数などから、水の汚れ具合を見分けることができます。また、継続的にデータを収集し現況を確認することは、今後の保全策を検討する上で非常に重要です。

そのため、河川の生き物に関心を持つ観察員が協力し合い、市内を流れる河川の生物相調査を行うことを目的に河川生物相調査部会を設置しました。

### (2) 活動報告

ア 第1回河川生物相調査部会現地調査

- (ア) 形 式 河川生物調査  
(イ) 日 時 7月10日(土) 午前9時30分～正午  
(ウ) 場 所 相模川大島キャンプ場下流左岸  
(エ) 参加者 合計9名  
          観察員8名(井口、小田、小林、仙田、田畑、益子、青野、武田)  
          事務局1名(渡部)  
(オ) 内 容 大島キャンプ場下流左岸の相模川で河川生物の調査を実施しました。ナガレトビケラ、コオニヤンマ、スジエビ、ヨシノボリなどが確認されました。

イ 第2回河川生物相調査部会現地調査

- (ア) 形 式 河川生物調査  
(イ) 日 時 9月11日(土) 午前9時30分～正午  
(ウ) 場 所 境川寿橋下流  
(エ) 参加者 合計6名  
          観察員5名(青野、仙田、小林、武田、田畑)  
          事務局1名(近藤)  
(オ) 内 容 寿橋下流の境川で河川生物の調査を実施しました。ヒル、アメリカザリガニ、イシガメなどが確認されました。

## 2. 4 野鳥調査部会

### (1) 設置目的

鳥類の生息状況を把握するには、季節的な変動を考慮して年間を通じた調査を行うことが必要であるため、全体テーマ調査だけで必要なデータを得ることは困難です。また、相模原市自然環境基礎調査で得られたデータを活かし現況を確認することは、今後の保全策を検討する上で非常に重要です。

そのため、野鳥に関心を持つ観察員が協力し合い、現地調査による記録種をもとに、相模原市の鳥類相の把握や鳥類相から見た緑地・水辺の現況の把握を目的に、野鳥調査部会を設置しました。

### (2) 調査概要

自然環境基礎調査の野鳥調査において設定した市内14ルート、13地点を対象に、昨年度から2班体制で追跡調査を行い記録しています。また、野鳥調査部会員が、個人または個人が属する団体等で行う活動で得た情報を活用し補完します。

今年度は、相模原市中央の市街地と横山丘陵地の2ルートと、市立博物館と横山公園内の小高い丘上の2地点を調査しました。

### (3) 調査方法

調査方法については、調査結果の比較が容易にできるように自然環境基礎調査の調査方法にできる限り近づけることとしました。主な変更点として、姿の確認がない場合であっても鳴き声を2人以上が確認したときは種類のみを記録するようにしました。

表2-6 野鳥調査方法の概要

項目	概要	
	野鳥調査部会 (平成18年度～)	自然環境基礎調査 (平成11年度)
1 調査時期	春季調査(渡り期)-5月中旬- 夏季調査(繁殖期)-6月後半- 秋季調査(渡り期)-10月後半- 冬季調査(越冬期)-2月上旬-	春季調査(渡り期)-5月中旬- 夏季調査(繁殖期)-6月後半- 補足調査(繁殖期)-8月- 秋季調査(渡り期)-10月後半- 冬季調査(越冬期)-2月上旬-
2 調査箇所	14+Nルート・13+N地点を複数年かけて調査	14ルート・13地点を1年で調査
3 調査方法	[線センサス調査法]	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらかじめ設定したルート上を、時速1.5km～2kmで歩行し、調査ルートの片側50m(両側100m)幅の範囲内に出現した鳥類の種類、個体数等を記録する。</li> <li>姿の確認がない場合であっても鳴き声を2人以上が確認したときは種類のみを記録する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらかじめ設定したルート上を、時速1.5km～2kmで歩行し、調査ルートの片側50m(両側100m)幅の範囲内に出現した鳥類の種類、個体数等を記録する。</li> </ul>
3 調査方法	[定点観察法]	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらかじめ設定した調査地点において、範囲は定めずに1地点30分間の観察を行い、出現した鳥類の種類、個体数等を記録する。</li> <li>姿の確認がない場合であっても鳴き声を2人以上が確認したときは種類のみを記録する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらかじめ設定した調査地点において、範囲は定めずに1地点30分間の観察を行い、出現した鳥類の種類、個体数等を記録する。</li> </ul>
	[任意観察]	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>野鳥調査部会員が個人又は個人が属する団体において活動して得た情報を活用し補完する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記の手法以外に、調査地域内を任意に調査し、鳥類相の把握を行う。</li> </ul>

(2) 活動報告

ア 第1回野鳥調査部会

(ア) 形式 調査(春季)

(イ) 日時 5月8日(土)午前9時15分～11時20分

(ウ) 場所 A班 横山丘陵地内を通るルート、横山公園内の小高い丘上

B班 相模原中央の市街地を通るルート、市立博物館

(エ) 参加者 合計12名

観察員9名(内田、栗田、竹内、福田、吉岡(孝)、青木、小川、小野、前川)

事務局3名(小田、原田、渡部)

(オ) 内容 2班に分かれて線センサス調査及び定点観察を行いました。

イ 第2回野鳥調査部会

(ア) 形式 調査(夏季)

(イ) 日時 6月12日(土)午前9時～11時10分

(ウ) 場所 A班 横山丘陵地内を通るルート、横山公園内の小高い丘上

B班 相模原中央の市街地を通るルート、市立博物館

(エ) 参加者 合計15名

観察員12名（青木、青野、内田、小川、荻原、小野、塩沢、竹内、福田、山口、吉岡（歌）、吉岡（孝））  
事務局3名（小田、原田、渡部）

（オ）内 容 2班に分かれて線センサス調査及び定点観察を行いました。

#### ウ 第3回野鳥調査部会

（ア）形 式 調査（秋季）

（イ）日 時 10月9日（土）午前9時15分～10時53分

（ウ）場 所 A班 横山丘陵地内を通るルート、横山公園内の小高い丘上  
B班 相模原中央の市街地を通るルート、市立博物館

（エ）参加者 合計7名

観察員5名（内田、塩沢、福田、小川、青木）

事務局2名（原田、渡部）

（オ）内 容 2班に分かれて線センサス調査及び定点観察を行いました。

#### エ 第4回野鳥調査部会

（ア）形 式 調査（冬季）

（イ）日 時 2月19日（土）午前9時7分～11時10分

（ウ）場 所 A班 横山丘陵地内を通るルート、横山公園内の小高い丘上  
B班 相模原中央の市街地を通るルート、市立博物館

（エ）参加者 合計10名

観察員8名（池川、内田、福田、吉岡（歌）、青木、青野、内田、仙田）

事務局2名（原田、渡部）

（オ）内 容 2班に分かれて線センサス調査及び定点観察を行いました。

オ 調査結果

表2-7 野鳥調査部会調査結果 横山丘陵地内を通るルート（R6）（ルート調査）

分類			確認数					
目	科	種	春季	夏季	秋季	冬季	合計	
カモ	カモ	カルガモ				18	18	
ハト	ハト	キジバト	2	3		4	9	
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	1				1	
キツツキ	キツツキ	アオゲラ			1	2	3	
		コゲラ	1	1		2	4	
スズメ	セキレイ	キセキレイ		1		1	2	
		ハクセキレイ				3	3	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	3	5	13	6	27	
	モズ	モズ				1	1	
	ツグミ	ルリビタキ					1	1
		トラツグミ					1	1
		シロハラ					1	1
		ツグミ					2	2
	ウグイス	ウグイス		1		2	3	
	ヒタキ	キビタキ	1	1			2	
	エナガ	エナガ	11			4	15	
	シジュウカラ	ヤマガラ	3			1	4	
		シジュウカラ	3	15			5	23
	メジロ	メジロ	1	4	7	2	14	
	アトリ	カワラヒワ	1					1
		マヒワ					1	1
		シメ					2	2
	ムクドリ	ムクドリ		2			2	
	カラス	ハシボソガラス			2			2
		ハシブトガラス	3	5				8
野生化した鳥類		ドバト				2	2	
合計 5目16科26種		種数	11	11	4	19	26	
		個体数	30	40	22	60	152	

表2-8 野鳥調査部会調査結果 相模原中央の市街地を通るルート（R11）（ルート調査）

分類			確認数					
目	科	種	春季	夏季	秋季	冬季	合計	
コウノトリ	サギ	アオサギ	1				1	
タカ	タカ	オオタカ	2				2	
		ツミ	1				1	
	ハヤブサ	チョウゲンボウ	2			1	3	
		タカ類	2				2	
ハト	ハト	キジバト	10	5	4		19	
スズメ		ツバメ	ツバメ	1	5			6
		セキレイ	ハクセキレイ				3	3
		ヒヨドリ	ヒヨドリ	3	15	2	8	28
		ツグミ	ツグミ				1	1
		シジュウカラ	シジュウカラ		1		1	2
		メジロ	メジロ	3	1		2	6
		アトリ	カワラヒワ		2		5	7
		ハタオドリ	スズメ	6	14	7	20	47
		ムクドリ	ムクドリ		10	19	4	33
		カラス	オナガ		2			2
			ハシブトガラス		2	2	9	13
			カラスの仲間	4				4
		野生化した鳥類		ドバト	36	2		
合計 4目 14科 17種		種数	11	11	5	10	17	
		個体数	71	59	34	54	218	

表2-9 横山公園内の小高い丘上（P6）（定点調査）

分類			P 6				
目	科	種	春季	夏季	秋季	冬季	合計
コウノトリ	サギ	アオサギ		1			1
ハト	ハト	キジバト	1			2	3
スズメ	ツバメ	ツバメ	3	12			15
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	30	9	10	1	50
	シジュウカラ	シジュウカラ	4	1			5
	メジロ	メジロ	1	2	1	2	6
	アトリ	カワラヒワ	2	4			6
		シメ				1	1
	ムクドリ	ムクドリ	10	28		2	40
	カラス	ハシブトガラス	1		4		5
カラスの仲間					1	1	
野生化した鳥類		ドバト	1	2		2	5
合計	3目9科11種	種数	9	8	3	7	11
		個体数	53	59	15	11	138

表2-10 野鳥調査部会調査結果 市立博物館（P10）（定点観察）

分類			P 10				
目	科	種	春季	夏季	秋季	冬季	合計
ハト	ハト	キジバト			3		3
キツツキ	キツツキ	コゲラ	1	1			2
スズメ	セキレイ	ハクセキレイ	1		1		2
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	5	3	2	1	11
	ツグミ	シロハラ				1	1
	ウグイス	ウグイス	2				2
	シジュウカラ	シジュウカラ	1	3			4
	メジロ	メジロ		1	1		2
	アトリ	シメ				1	1
	カラス	ハシブトガラス				2	1
カラスの仲間		4					4
野生化した鳥類		コジュケイ	1				1
合計	4目11科11種	種数	7	4	5	4	11
		個体数	15	8	9	4	36

### 3 自主テーマ調査

自然環境には地域差があり、局地的に生息・生育する種などは市内全域を対象とした調査に適さないものも多く、また、観察員の興味・関心や経験などにも個人差が見られます。

さらに、「全体テーマ調査」だけでは、市内の自然環境を評価するには不十分であるため、自主テーマによる調査を導入することにより、より多くのデータを集積することを目的としています。テーマの選択・実施方法・調査時期は、観察員自身が設定して調査をしました。

#### (1) 自主テーマ調査の紹介

4件の自主テーマ調査の調査結果の提出がありました。

表3-1 自主テーマ調査一覧

No	報告者 (五十音順)	調査テーマと内容	分類
1	竹内 真次	【地元のタンポポって?】(4月12日、14日、17日) 今回初めて地元で生息するタンポポの調査だったので全体像を把握することをテーマとした。 B05~B08は普段にも歩いているが、今回は細かい路地も観察し、改めて「タンポポ」は少ないという感想だった。	植物
2	田口 常利	【たんぽぽについて】(あちこち時間をかけて探した) 気候の変化で西洋タンポポが多かった。 相模原も環境を良くしていかないといけない。 我が家の近くにはタンポポが多かった。 学校、住宅地などの密集している場所には見当たらなかった。 植物の専門の講師に調べてもらった。	植物
3	長岡 弘治	【橋本附近の在来植物について】(ここ10年間) 境川(東橋本附近)にある在来の植物について、ここ10年程見つけて来た。 日本オドリコソウ、イチリンソウ、ニリンソウなどが生育している。 河川改修後、上流からの種から樹木が生長して日陰ができて在来の植物があったが、二年前に境川洪水のためか樹木を大部分伐採した。 その結果、セイタカアワダチソウ、ブタクサの繁殖がすごく数が少なくなっている。 河川は水を流すだけでなく、自然がある河川にしようとして変更されているのに(多自然型川づくり)県の土木課の方針は理解できない。	植物
4	早戸 正広	【上鶴間周辺のチョウの調査】(4月18日~11月6日) 自宅のある上鶴間地区周辺のチョウについて、日常生活の中で確認できたものを記録した。 また、調査年度(過年度分を含む)と種名により星取表を作成した。	昆虫
5	小林 義博	【自然環境と望地のホタル】(5月25日~7月8日) 旧相模原のホタルがどこで飛ぶか。一番多い望地キャンプ場でどのくらい飛んでいるかグラフにしてある。都市開発が進み、自然環境が減少している。	昆虫



図3-1-1 調査区域地図



典型的なタンポポの生え方  
花の茎は枝分かれしない

・・・今回学んだ・・・

メッシュNo. B07 道路工事中の空き地  
昨年までは「上町こども広場」・・・外来種のみ



今回採取した  
メッシュNo. B06



市営二本松団地



今回見たタンポポの



多くは 外来種

◆今回の調査で思い出したのは、田舎の年配者から「タンポポは外来種ばかりだよ・・・」と言う言葉だった。その時は、どんな種類が有るかは全く興味も無く、唯タンポポが生えていて、動物の餌になるなど思っただけ。調査して見ると、在来種には殆ど巡り会わず、何とか探そうとアチコチの空き地を探して、やっと2ヶ所で発見出来たのはラッキーだった。又不明と判断したが、咲く時間を選ばないとはっきりしない事も判明した。気候変動だけでなく、身近にある植物にもこんな大きな変化が起こっているとは思っても居なかった発見でした。

2010.4.20 竹内真次

図3-1-2 タンポポの写真（外来種・在来種サンプル）

報告2 上鶴間周辺のチョウの調査 (No.4早戸正広さん)

表3-2-1 平成22年度の調査結果

2010調査

日付	時刻	種名	科番	個体数	性別	目撃地	備考
9月4日	8時50分	アオスジアゲハ	1	1	?	上鶴間5-6	
5月5日	8時30分	アゲハチョウ	1	1	?	上鶴間2-11	
5月15日	11時20分	アゲハチョウ	1	1	?	上鶴間2-13	
7月11日	13時00分	アゲハチョウ	1	1	?	上鶴間2-13	
7月18日	8時40分	アゲハチョウ	1	1	?	上鶴間2-14	
7月3日	13時40分	クロアゲハ	1	1	?	上鶴間3-8	
7月25日	8時45分	クロアゲハ	1	1	?	東芝林間病院	
5月21日	8時00分	ナガサキアゲハ	1	1	♂	東林間駅東口前	
8月16日	8時00分	ナガサキアゲハ	1	1	♂	上鶴間7-13	
10月22日	12時00分	ナガサキアゲハ	1	1	♂	上鶴間6-7	
6月17日	8時00分	キチョウ	2	1	?	上鶴間7-17	
8月22日	6時10分	キチョウ	2	1	?	上鶴間2-13	
9月18日	8時00分	キチョウ	2	1	?	上鶴間2-13	
7月19日	8時30分	スジグロシロチョウ	2	1	?	上鶴間2-13	
4月18日	11時20分	モンシロチョウ	2	1	?	上鶴間2-13	
6月5日	16時00分	モンシロチョウ	2	1	?	上鶴間3-29	
9月18日	10時50分	ペニシジミ	5	1	?	上鶴間2-13	
5月18日	7時50分	ヤマトシジミ	5	1	?	上鶴間3-5	
7月4日	15時30分	ヤマトシジミ	5	1	?	上鶴間2-13	
8月27日	15時55分	ヤマトシジミ	5	1	?	上鶴間2-13	
11月6日	14時40分	タテハ	7	1	?	ユニティ	
8月23日	8時00分	ゴマダラチョウ	7	1	?	三和(東口)前	
9月25日	13時40分	コミスジ	7	1	?	上鶴間3-9	
8月16日	9時00分	ツマグロヒョウモン	7	5	?	上鶴間2-13	
8月27日	15時50分	ツマグロヒョウモン	7	1	♀	深堀中央公園	
9月18日	8時00分	ヒメアカタテハ	7	1	♀	上鶴間2-13	
8月19日	8時10分	ルリタテハ	7	1	?	上鶴間2-12	
8月26日	7時50分	イチモンジセセリ	8	1	?	上鶴間2-13	
8月27日	15時55分	イチモンジセセリ	8	1	?	上鶴間2-13	

アゲハチョウ科	1
シロチョウ科	2
マダラチョウ科	3
シヤノメチョウ科	4
シジミチョウ科	5
ウラギンシジミ科	6
タテハチョウ科	7
セセリチョウ科	8
テングチョウ科	9

※今年度は、5科16種を確認した。(昨年度は、7科14種であった。)

※昨年度より1科少なく、2種多い確認であった。

※ナガサキアゲハやツマグロヒョウモンなどの南方系の種が確認できた。

※越冬中の蛹の確認ができないが、5月にはナガサキアゲハの成虫が確認できたため、上鶴間地区周辺では定着しているものと思われる。

表3-2-2 呈取表(2003~2010年度)

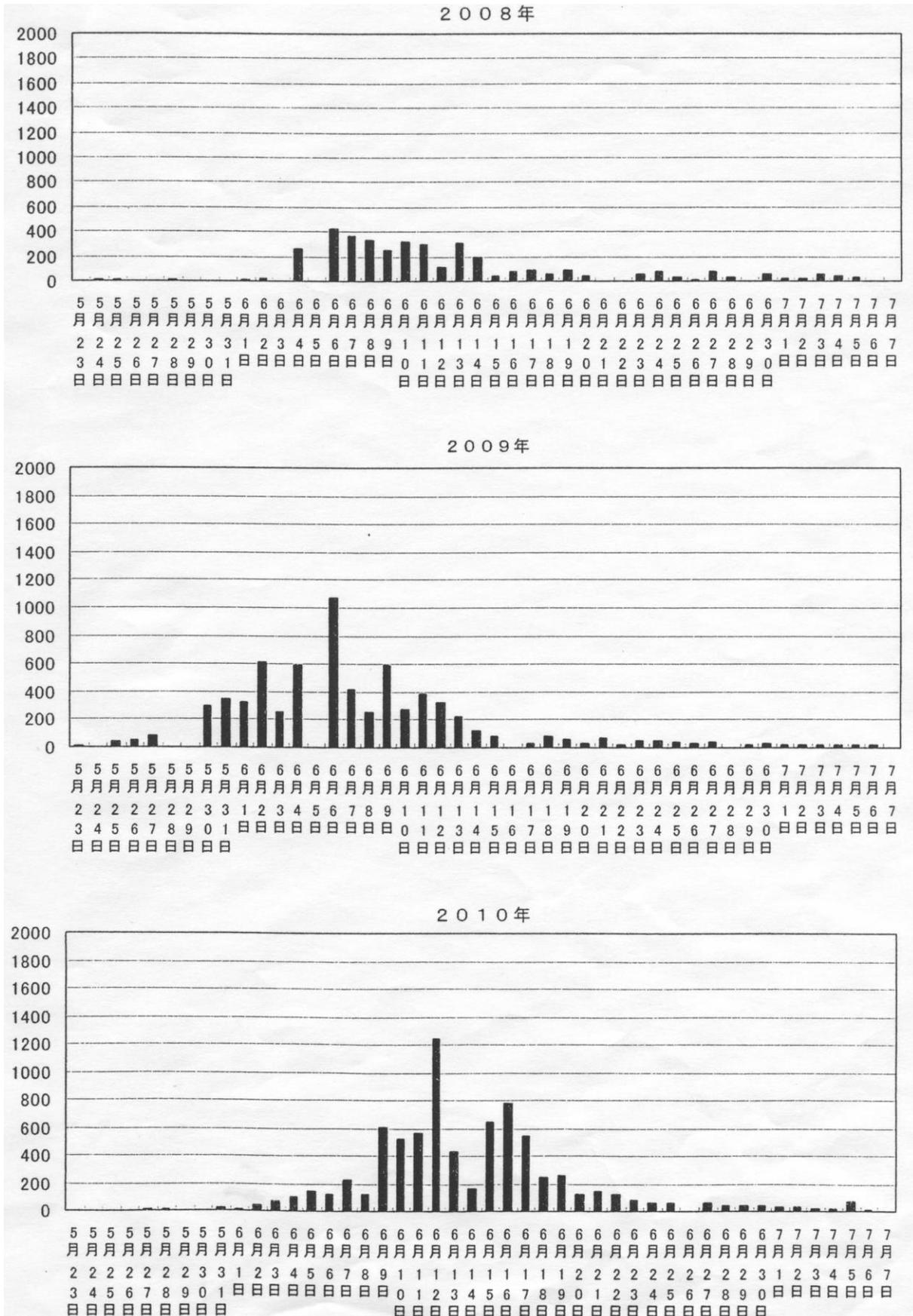
科名	種名	調査年度								
		2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	
1 アケハチョウ科	アオスシアケハ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アケハチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	カラスアケハ						○			
	キアケハ			○						
	クロアケハ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ジャコウアケハ					○				
	ナガサキアケハ				○				○	○
2 シロチョウ科	キチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	スジグロシロチョウ	○	○	○	○	○	○			○
	ツマキチョウ			○						
	モンキチョウ			○	○					
	モンシロチョウ	○	○	○	○			○	○	○
3 マダラチョウ科	アサキマダラ		○				○	○		
4 ジャノメチョウ科	クロノマチョウ				○					
	クロヒカゲ	○								
	サトキマダラヒカゲ		○						○	
	ヒカゲチョウ								○	
	ヒメジャノメ	○								
5 シジミチョウ科	オオミドリシジミ	○								
	ヘニシジミ			○						○
	ムラサキシジミ			○			○			
	ヤマトシジミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6 ウラキシジミ科	ウラキシジミ	○		○	○	○	○			
7 タテハチョウ科	アカタテハ		○							
	キタテハ	○	○							○
	ゴマダラチョウ		○	○	○	○	○			○
	コムシジ			○	○		○			○
	ツマクロヒョウモン			○	○	○	○	○	○	○
	ヒメアカタテハ		○				○			○
	ルリタテハ	○		○	○	○			○	○
8 セセリチョウ科	イチモンジセセリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9 テングチョウ科	テングチョウ			○	○					

※ ヤママユガ科

オオミスアオ

○

表3-2-2 2008~2010年度の調査結果



### 第3章 かんきょう学習セミナー

#### 1 第1回かんきょう学習セミナー

日時 平成22年3月13日(土)午後1時～4時  
場所 環境情報センター 学習室  
参加者 46人

- (1) 自然環境観察員制度について  
本制度の目的や活動内容と平成22年度の計画などについて、事務局から説明を行いました。
- (2) 全体テーマ調査「タンポポ類の調査」について  
パワーポイントを用いて在来タンポポと外来タンポポなどの特徴や調査の意味を、市立博物館の秋山幸也さんに解説していただきました。その後、調査の手引きにそって「タンポポ類の調査」の調査方法の説明をし、質疑応答を行いました。また、現地観察会のお知らせをしました。調査の手引きは資料編に示したとおりです。

#### 2 第2回かんきょう学習セミナー

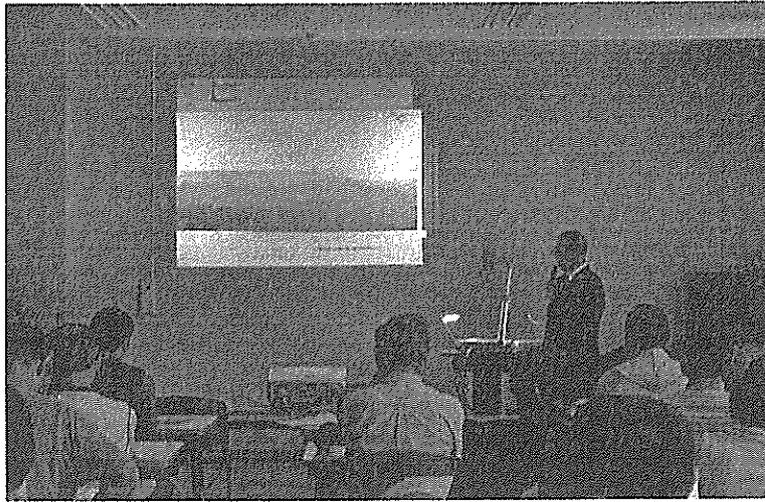
日時 平成22年10月2日(土)午前10時～11時50分  
場所 環境情報センター 学習室  
参加者 24人

- (1) 講義「ジョロウグモについて」  
講師 谷川明男さん(東京大学大学院農学生命科学研究科 生物多様性科学研究室)  
パワーポイントを用いてクモ全般やジョロウグモの特徴、生態などについて解説していただきました。
- (2) 全体テーマ調査「ジョロウグモの分布調査」について  
調査の手引きにそって「ジョロウグモの分布調査」の調査方法の説明をし、質疑応答を行いました。調査の手引きは資料編に示したとおりです。

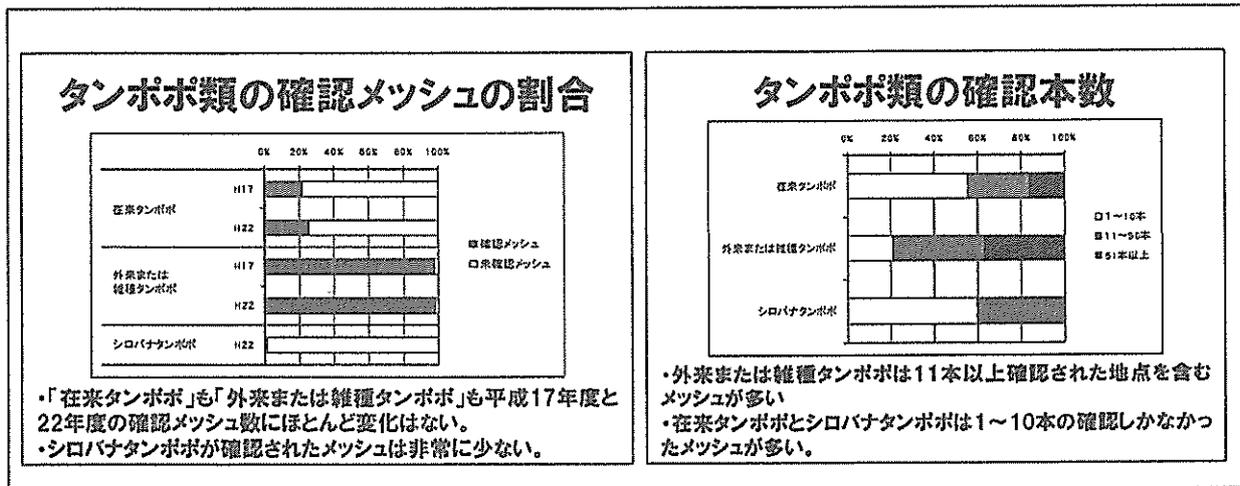
#### 3 第3回かんきょう学習セミナー

日時 平成23年4月29日(土)午後1時30分～6時  
場所 環境情報センター 学習室および学習室  
参加者 51人

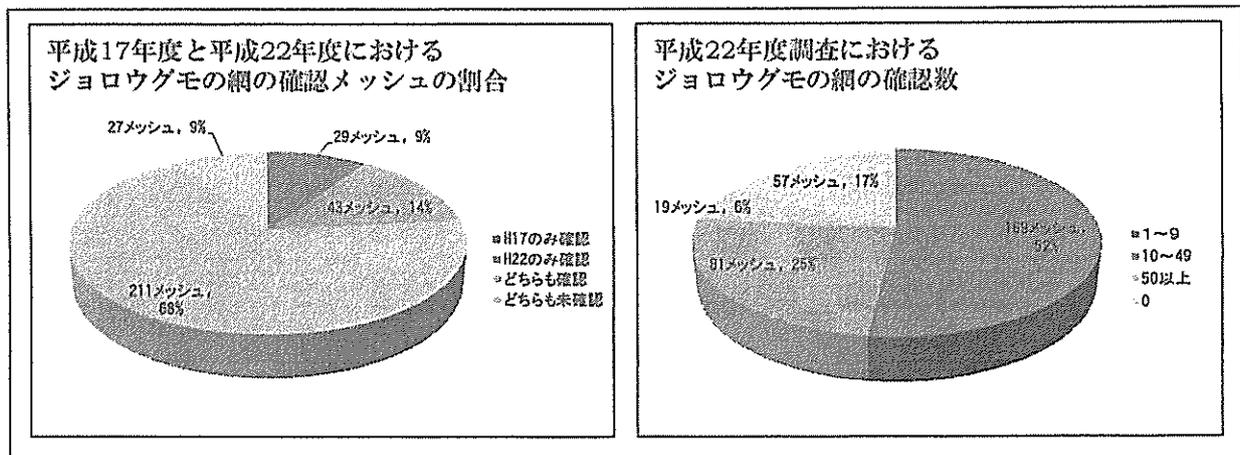
- (1) 講義「津久井地区の森林」  
講師 渡辺 巖さん(鳥屋造林組合)  
津久井地区の森林の現状について、お話ししていただきました。
- (2) 平成22年度実施報告  
全体テーマ調査結果について報告していただいた後、各調査部会から活動内容や調査結果について報告をしていただきました。報告は、自然環境観察員の方々にしていただきました。



渡辺巖さんによる「津久井地区の森林」の講座



全体テーマ調査発表内容（タンポポ類の調査）



全体テーマ調査発表内容（ジョロウグモの生息調査）

## 第4章 全体調査企画会議

### 1 第1回全体調査企画会議

日時 6月10日(木) 午後2時～4時40分

場所 環境情報センター 学習室

参加者 15名

#### (1) 環境まつりの出店について

環境まつりに平成21年度の調査対象である外来植物の調査結果と、平成22年度の調査対象であるタンポポ類の違いのパネルを展示し、顕微鏡で花粉を見られるようにすることを決めました。

#### (2) 全体テーマ調査(タンポポ類)の検討会について

調査結果のとりまとめの進捗状況を事務局から報告し、日程について話し合いました。

#### (3) 第2回かんきょう学習セミナーと全体テーマ調査について

事務局から第2回かんきょう学習セミナーの日程と講師について報告し、全体テーマ調査(ジョロウグモの生息調査)の調査方法について説明しました。また、全体テーマ調査について意見交換しました。

#### (4) 次年度からの自然環境観察員制度の活動について

津久井地域の調査やその他次年度の活動について、意見交換しました。

#### (5) エコネットの輪について

エコネットの輪について事務局から説明し、エコネットの輪のプログラム集に自然環境観察員制度を掲載することについて了解を得ました。

### 2 第2回全体調査企画会議

日時 9月14日(火) 午前10時15分～正午

場所 環境情報センター 活動室

参加者 12名

#### (1) 全体テーマ調査(ジョロウグモの生息調査)について

ジョロウグモの生息調査の手引きや調査票、調査方法などについて、事務局から説明を行い、意見交換しました。

#### (2) かんきょう学習セミナーについて

かんきょう学習セミナーについて、事務局から報告しました。

#### (3) 全体テーマ調査結果の検討会について

全体テーマ調査の結果の検討会の日程や内容などについて、意見交換しました。

#### (4) 専門調査部会について

専門調査部会の活動結果と今後の予定について報告しました。

#### (5) エコネットの輪について

エコネットの輪への登録内容について事務局から説明し、意見交換しました。

#### (6) その他

その他、自然環境観察員制度の活動内容について、意見交換しました。

### 3 第3回全体調査企画会議

日時 1月21日(金) 午後3時～5時

場所 環境情報センター 活動室

参加者 15名

#### (1) 全体テーマ調査結果の検討会について

全体テーマ調査結果の検討会の日時と内容などについて、事務局から説明しました。

#### (2) 第3回かんきょう学習セミナーについて

第3回かんきょう学習セミナーの日時や内容などについて、事務局から説明しました。また、セミナーで講演をしていただく講師や、活動報告の担当者などについて、話し合いました。

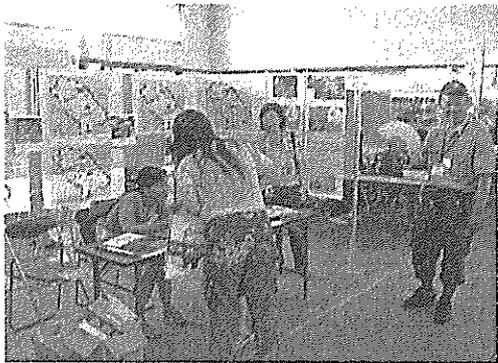
(3) 平成23年度の活動について

平成23年度の観察員募集と活動内容および市民の博物館活動発表会について事務局から説明し、意見交換しました。

第5章 その他の活動

- 本制度の調査結果を発表するため、「さがみはら環境まつり」へ出展し、運営にご協力いただきました。
- 環境情報センター事業協力者登録制度「エコネットの輪」の登録を更新し、「相模原市の環境学習・環境活動プログラム集」へ「自然環境観察員制度 調査結果報告（平成17年～22年）」の1プログラムを登録しました。

観察員さんの活動は身近な生きもの調査以外においても、ますます大切な役割を担っていくことが期待されます。どうぞよろしく願いいたします。



さがみはら環境まつりでの出展の様子

## 資料編

- 1 調査の手引き
- 2 自然観察かわらばん
- 3 ご意見・ご感想

平成 22 (2010) 年度

相模原市自然環境観察員制度 身近な生き物調査

# タンポポ類の調査

— 手 引 き —



相模原市立環境情報センター

# 目次

はじめに・・・なぜ調査をするのか	1
1. タンポポと環境	2
2. 調査対象種	3
(1) 調査種の識別ポイント	3
(2) 間違いやすい植物	4
3. 調査のしかた	6
(1) 調査期間	6
(2) 調査方法	6
(3) 調査票への記載及び頭花の採取	6
(4) 採取した頭花の処理	6
(5) 調査票の提出期限	6
4. 調査票記入例	7
5. 注意事項	8
資料	9
1) 大封筒の使い方(図)	9
2) 提出先について	10
3) メッシュ見取り図	11
4) メッシュ目印一覧	12

## はじめに

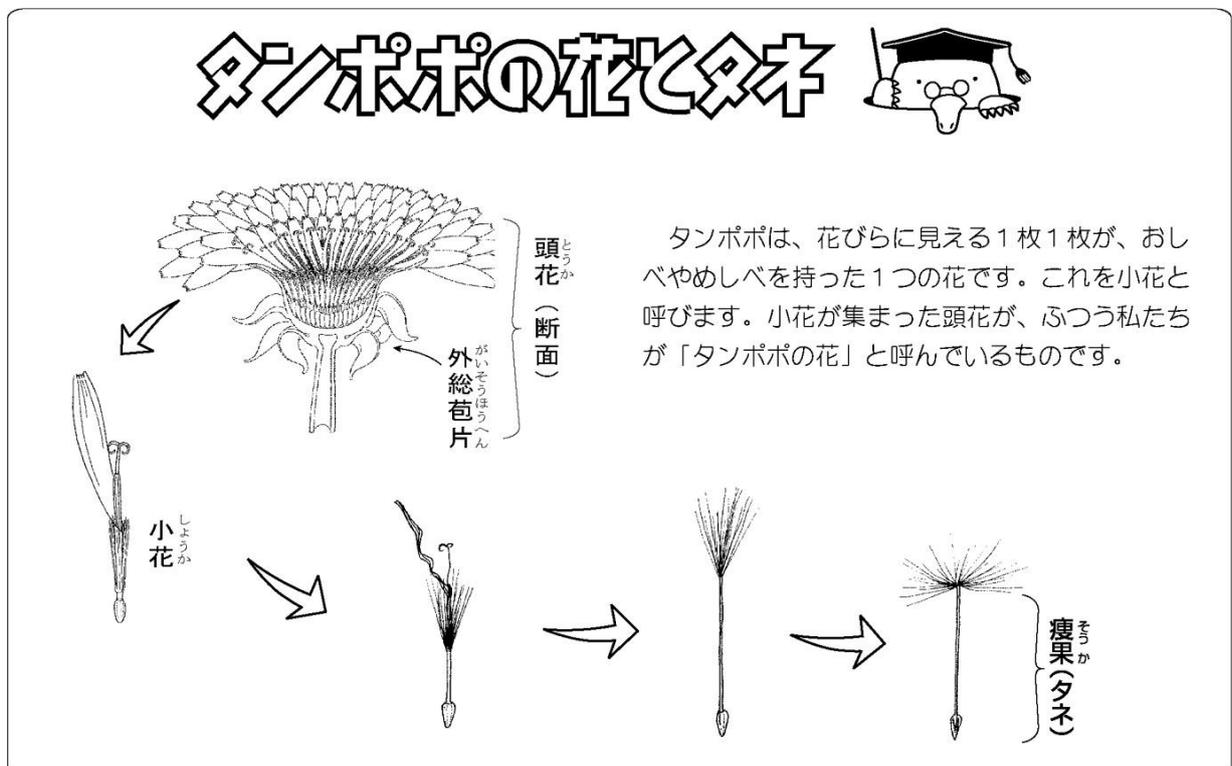
春を代表する身近な花タンポポが、季節を問わずに見られることに気づいていますか？

よく見ると、花の下側の形が違うようです。昔から日本で見られたタンポポ（在来種）と、外国からやってきたタンポポ（外来種）の両方があります。また、在来種のように見えても、外来種との雑種があることが知られてきました。都市部に在来種が復活していると見られたタンポポの多くが、この雑種である可能性が出ています。

平成17年度には自然環境観察員の調査で、見た目の「在来種タンポポと外来種タンポポのちがい」だけでなく、花を採取して花粉の形状を顕微鏡で見ることにより、雑種の分布についても調べました。

今回も同様な調査を行い、5年前との変化を調べます。

相模原のタンポポ分布図の完成をめざして、一緒にタンポポを調べてみましょう。



## 1 タンポポと環境

在来種タンポポと外来種タンポポには、いくつか特徴に違いがあります。

在来種タンポポは水分や栄養の多い土を好む一方、外来種タンポポは乾燥した栄養の少ない土でもよく育ち、実る種子の数が多いという特徴があります。さらに、在来種タンポポは別の株の花粉を受粉しないとタネができないため、繁殖には花粉を運ぶ昆虫が必要なのに対して、外来種タンポポは受粉しなくても（昆虫がいなくても）タネができます。つまり、在来種は生育するのに豊かな自然が必要なのに対して、外来種タンポポは都市化した環境にも適応できる特徴をもっています。

また、外来種タンポポのタネは落ちるとすぐに芽を出し、ほぼ一年中花を咲かせるのに対して、在来種のタネは夏の間は土の中で眠っていて秋に芽を出します。他の植物が生い茂る夏に休眠して秋に発芽するという特性の方が、種を維持するために有利です。在来種は、古くから安定した土地利用がされていて、草刈りなど程よく人間の手が入っている場所に多く、外来種は攪乱の激しい土地に多く生えています。

しかし、都市化が進み、草原（くさっぱら）が少なくなると、在来種は世代交代が難しくなり絶えてしまいます。一方、在来種が生育できない環境でも日当たりが十分確保される裸地には、外来種タンポポがその特性を活かして、一気に広がってきました。

このように考えると、外来種タンポポは人為的な環境の攪乱によりその生育場所を拡大し、本来の自然環境に適応した在来種タンポポは、市街地の拡大など開発により生育範囲を狭められたと言えます。そして更に今、雑種という新たな問題が生じ、これが市域でどのように分布を広げているか注目されています。一見在来種タンポポの特徴に見えながら、花粉を調べることによって、在来種と異なる事が判明します。

## 2 調査対象種

### 1) 調査種の識別ポイント

#### ○ 在来種タンポポ

外 観 …茎は枝分かれをせず、途中に葉がつかない。花は黄色か白。

生育環境 …川の土手やあぜ道、林の縁などで他の草などと混じって生育していることが多い。昔からの土が残る安定した環境に生える。

識別ポイント…外総苞（そうほう）は反りかえらず、しっかりと花の基部を包んでおり、先端の三角状突起（角）が目立つ。



<注> 総苞：花の下にある細い葉のようなものがうろこ状に重なっている部分。

#### ○ 外来種タンポポ

外 観 …茎は枝分かれをせず、途中に葉がつかない。花は黄色。

生育環境 …駐車場や裸地、舗装の切れ目、道端など、他の草が生えていない場所に生育していることが多い。

識別ポイント…外総苞片は反り返っており、先端の角は目立たない。



#### ○ 在来種によく似た雑種

外総苞片は外来種タンポポのように反り返ってはいないが、ややまとまりがなく緩んだ感じ。先端の角は目立つものが多い。

見た目だけの識別はむずかしいので、あやしいと思ったものは、「不明」に含めておいてください。

#### ○ 花の白いタンポポ

シロバナタンポポは、西日本では普通に見られるタンポポで、相模原周辺では人の持ち込みで生育している。葉はやや立った感じで脈は白い。葉や総苞は淡緑色。総苞の外片はやや開き、先端の角が目立つ。受粉しなくても種子が出来るので、生育範囲を広げているかも知れません。

在来種タンポポの中には、花の白っぽいものがよく見られます。花の白いタンポポを見つけたら、花を採取して、袋に「花の白いタンポポ」の記載をして報告してください。

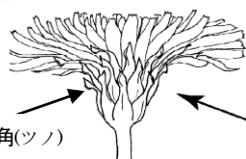
## タンポポ



地面から伸びた一本の茎に  
一つだけ頭花(3~4cm)をつける  
花の茎は枝分かれしない。

### ■<sup>ざいらいしゆ</sup>在来種

在来種のタンポポ  
もともと日本にあったタンポポ

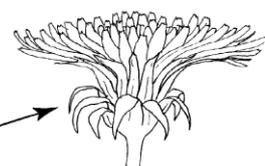


先端の角(ツノ)

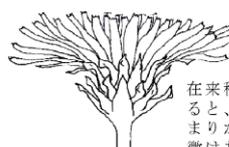
外総苞片

### ■<sup>がいらいしゆ</sup>外来種

外来種のタンポポ  
外国から日本に持ち込まれ、  
増えていったタンポポ



### ■<sup>ざいらいしゆ</sup>在来種によく似た<sup>に</sup>雑種<sup>ざっしゆ</sup>



在来種に似ているが、よく見ると、外総苞片がゆるくまとまりがない。ただし、この特徴はある程度花の時期が進んでからでないといえない。

## 2) 間違えやすい植物

**ブタナ** … タンポポと最も間違えやすい花。地面から高く伸びた花の茎が必ず枝分かれするので、タンポポと見分けられる。茎は細めで直立し、葉はタンポポのように根生し(根元にまとまって付く)、葉の両面に毛が多い。

**ノゲシ、オノゲシ** … 茎は太目で、途中に葉があり、葉の付け根は茎を抱く。茎や枝の先に花が数個つき順次咲く。花の大きさは1~2cmほど。

**ジシバリ** … 背は低く、細い茎を四方に伸ばして地を這い、節ごとに根を下ろす。葉は楕円で長い柄を持つ。花は1~2cmほどの大きさ。

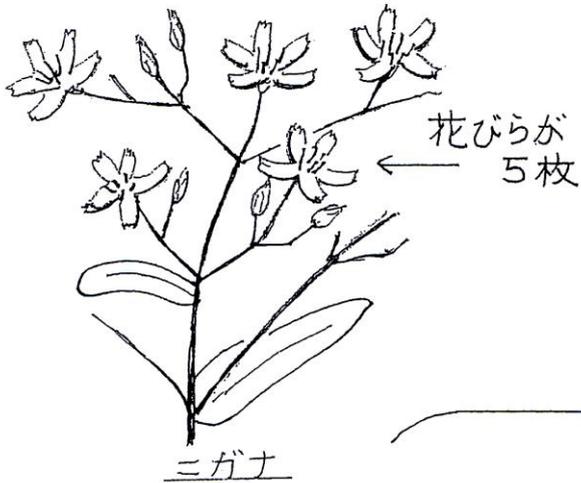
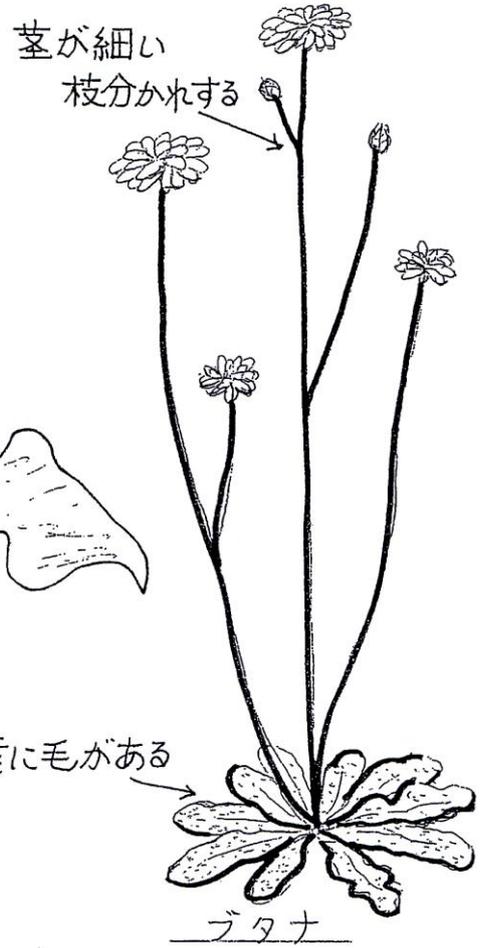
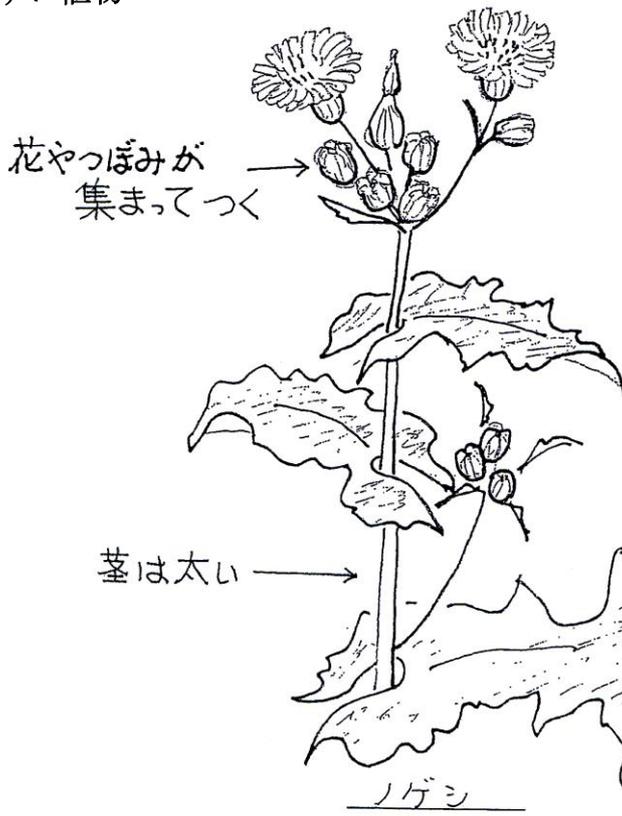
オオジシバリ、ブタナと並んでタンポポとよく間違える花だが、花の茎が細く、枝分かれする

**オオジシバリ** … ジシバリより花も葉も全体的に大きく、葉は細長くて立った感じ。花は一重ではない。

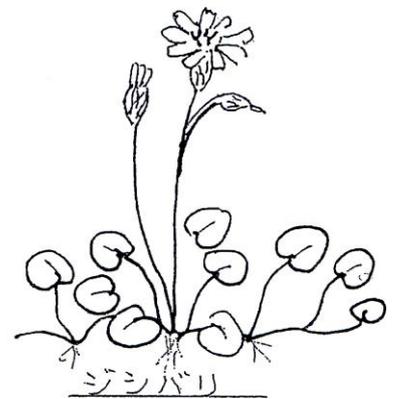
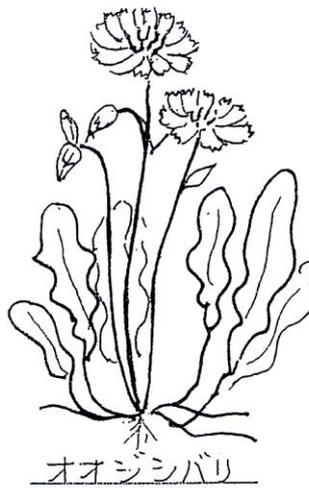
**ニガナ** … 茎は先のほうで枝分かれし、1~1.5cmの花を散状に沢山をつける。頭花の舌状花は普通5個。(花びらが5枚に見える)

**コオニタビラコ** … 4~10cm長さの羽状に切れ込んだ葉を広げ、その中心から茎を3本ほど立て、1cm程の花を咲かせる。田起こし前の田んぼに多い。

間違えやすい植物



草丈が低い



### 3 調査のしかた

#### (1) 調査期間

3月13日～5月5日

(在来種タンポポの花期は早いので、できるだけ4月20日ころまでに調査をしましょう。)

#### (2) 調査方法

道路沿い、駐車場、河川敷、空き地、畑の周辺などで生えていそうな場所を探してみましょう。1メッシュ3か所程度の調査を報告。

危険な場所(線路敷きや崖地など)や一般的に立ち入り禁止の場所(米軍基地や工場敷地、住宅敷地など)などは無理に調査をしないでください。

#### (3) 調査票への記載及び頭花の採取

記録票の地図と現地を見比べて確認し、タンポポの花を見つけたら、その場所を調査票の地図上に赤色で記し、番号を付けます(メッシュごとにNo.1から)。在来種、外来種、不明、花の白いタンポポに分けて、花の咲いている株数を数えます。(株数の数え方はおおまかで構いません。)調査票への記入は、1行につき1種としてください。

備考欄には、生えている状況(環境や他の植物との関係)などを適宜記載してください。特記事項欄にはそのメッシュの特徴的なことや気付いたことなどを記載してください。

その上で、**よく咲いている**タンポポの在来種と思われる頭花を、1地点につき1個採取してハترون封筒に入れ、日付、メッシュ番号、地点番号など、必要事項を記載してください。「不明」や「花の白いタンポポ」もあれば採取して下さい。

※1枚の封筒に頭花を1個入れてください。

#### (4) 採取した頭花の処理

調査を終えて家に帰ったら、すぐに採取した頭花を配付したハترون封筒に入れたまま、風通しのよい所に置いて乾かします。(ビニール袋などに入れたままにしておくと、カビが生えてしまいます。)

#### (5) 調査票の提出期限

調査票と頭花のサンプルは5月12日までに、環境情報センターにご提出ください。

なお、公民館へ提出することもできます。公民館へ提出する場合には、提出の前に必ず開館日、受付時間等を公民館に確認してください。

## 4 調査票記入例

### タンポポ類の調査記録票（平成22年度・春）

メッシュ番号	C13	調査者氏名	相模 富太郎	
地点番号	調査日	種の名前	個体数	備考
1	4月12日	<input checked="" type="checkbox"/> 在来種タンポポ <input type="checkbox"/> 外来種タンポポ <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 花の白いタンポポ	<input checked="" type="checkbox"/> 1~10株くらい <input type="checkbox"/> 11~50株くらい <input type="checkbox"/> 50株以上	
2	4月14日	<input type="checkbox"/> 在来種タンポポ <input checked="" type="checkbox"/> 外来種タンポポ <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 花の白いタンポポ	<input type="checkbox"/> 1~10株くらい <input type="checkbox"/> 11~50株くらい	
2	4月14日	<input type="checkbox"/> 在来種タンポポ <input type="checkbox"/> 外来種タンポポ <input checked="" type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 花の白いタンポポ	<input type="checkbox"/> 1~10株くらい <input type="checkbox"/> 11~50株くらい <input type="checkbox"/> 50株以上	駐車場の一角で、土が露出している。
3	4月19日	<input type="checkbox"/> 在来種タンポポ <input checked="" type="checkbox"/> 外来種タンポポ <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 花の白いタンポポ	<input type="checkbox"/> 1~10株くらい <input type="checkbox"/> 11~50株くらい <input type="checkbox"/> 50株以上	備考欄には、その調査箇所の情報として、記録しておきたい事項を記載してください
	月 日	<input type="checkbox"/> 在来種タンポポ <input type="checkbox"/> 外来種タンポポ <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 花の白いタンポポ	<input type="checkbox"/> 1~10株くらい <input type="checkbox"/> 11~50株くらい <input type="checkbox"/> 50株以上	

②下の地図でつけた番号を記入

③調査した日付を記入

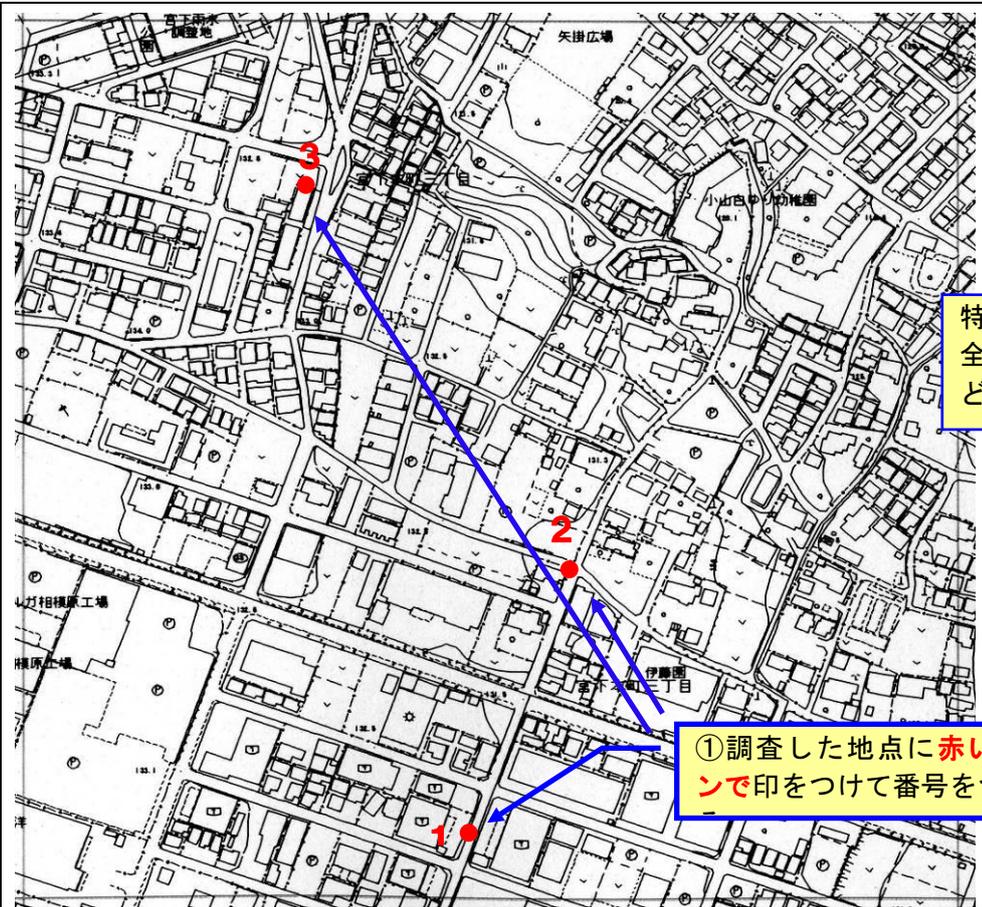
④該当する種の番号に☑をつける

⑥生えていた株数に該当する番号に☑をつける

⑤在来種か外来種か迷ったら「3」に☑をつける

**注意！**  
 記入は1行につき1種とします。  
 このため、1つの調査地点で2種見つけた場合は、同じ番号の行を2つ作ります。（記入例は、地図上の「2」の地点に外来種タンポポと不明があった場合です）

備考欄には、その調査箇所の情報として、記録しておきたい事項を記載してください



#### 【特記事項】

最近草刈りをした場所が多く、調査地点を選ぶのが難しかった。

特記事項には、調査メッシュ全体の印象や気づいた事などを記載してください

①調査した地点に赤いボールペンで印をつけて番号をつける

## 5 注意事項

### 「安全面」

- ・ 調査は、日中に行ってください。
- ・ 高校生以下の方は、なるべく一人では行かないでください。行くときは必ず家族に行き先を知らせてください。
- ・ 工場や河川敷、崖など、危険な場所には無理して立ち入らないでください。
- ・ 水辺の植物を観察する際は、水の流れや深みなどに充分注意してください。

### 「その他」

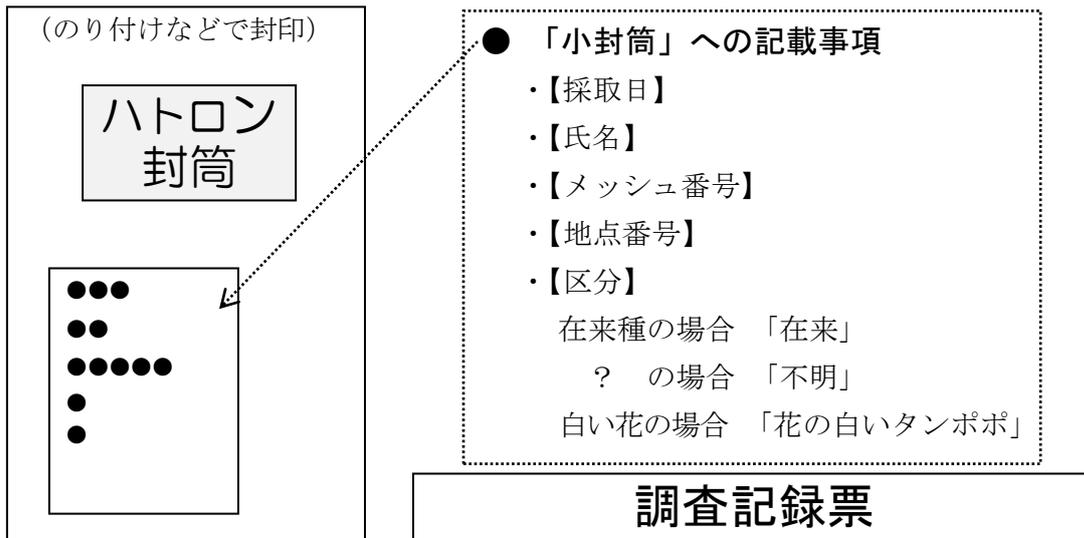
- ・ 工場や農地など、私有地に無断で立ち入らないでください。
- ・ 学校などの敷地内で調査する際は、管理者に確認してから敷地に入るようにしてください。（注：事前調整など個人で対応しきれない場合は、環境情報センターにご相談ください。）
- ・ 双眼鏡を使う場合は、人ごみや民家などに注意し、誤解を招く使い方をしないでください。
- ・ 調査時には、登録証を携行してください。

◎万一、調査できなくなった方は、早急にお申し出ください。

## 参考図書

- ・「日本の野草」 山と溪谷社
- ・「野に咲く花」 林 弥栄 監修 山溪ハンディ図鑑 1
- ・「春の花」 山溪ポケット図鑑 1
- ・「野の花」 木原 浩 著 ヤマケイポケットガイド①
- ・「原色野草観察検索図鑑」 長田 武正 著 保育社
- ・「原色日本植物図鑑」 北村四郎・村田 源・堀 勝 共著 保育者
- ・「日本の植生図鑑Ⅱ人里・草原」 矢野悟道・波田善夫・竹中則夫・大川 徹 共著 保育社
- ・「日本の帰化植物」 清水 建夫 編 平凡社

## 大封筒の使い方



(のり付けなどで封印)

相模原市立環境情報センター行（庁内メール便）

### 相模原市自然環境観察員制度

### 「タンポポ類の調査報告」 在中

○調査の責任者

環境情報センター Tel 042-769-9248

大封筒

○提出先

環境情報センター  
公民館経由でも提出することができます

### 相模原市立環境情報センター

〒229-0036 相模原市富士見1丁目3番41号

TEL 042-769-9248

Fax 042-751-2036

E-mail kankyo@eic-sagamihara.jp

URL <http://eic-sagamihara.jp>

## 提出先について

採取した「タンポポの花（頭花）」はハترون封筒に収め、中身が出ないように封印した後、まとめて大封筒に収め封印してください。

### ○ 提出先

No.	提出先	所在地	提出時間	調査期間中のお休み
1	環境情報センター	相模原市富士見1-3-41	午前9時～午後5時	第3木曜日

### ○ 庁内メール便を利用できる協力先一覧

提出用の『相模原市自然環境観察員制度「タンポポ類の調査報告」 在中』と印字された大封筒を、中身が出ないように封印し、下記の公民館窓口の職員へ、直接、お渡しください。公民館へ提出する場合には、提出の前に必ず開館日、受付時間等を公民館に確認してください。（提出に係わる内容のお問合せは環境情報センターへ）

No.	提出先	所在地	電話番号	調査期間中の休館日
1	相原公民館	相模原市相原4-14-12	042-773-7800	第4月曜日
2	麻溝公民館	相模原市当麻1324-2	042-778-2277	
3	新磯公民館	相模原市磯部916-3	046-256-1900	
4	大沢公民館	相模原市大島1776-5	042-762-0811	
5	大野北公民館	相模原市鹿沼台1-10-20	042-755-6601	
6	大野中公民館	相模原市古淵3-21-1	042-746-6600	
7	大野南公民館	相模原市相模大野5-31-1	042-749-2121	
8	大沼公民館	相模原市東大沼3-17-15	042-744-7722	
9	大野台公民館	相模原市大野台5-16-38	042-755-6000	
10	小山公民館	相模原市向陽町8-1	042-755-7500	
11	上鶴間公民館	相模原市上鶴間本町7-7-1	042-749-6611	
12	上溝公民館	相模原市上溝7-7-17	042-761-2288	
13	相模台公民館	相模原市相模台1-13-5	042-743-7871	
14	清新公民館	相模原市清新3-16-1	042-755-8000	
15	相武台公民館	相模原市新磯野3-29-13	046-256-3700	
16	田名公民館	相模原市田名4834	042-761-1251	
17	中央公民館	相模原市富士見2-13-1	042-758-9000	
18	東林公民館	相模原市相南1-10-10	042-744-0087	
19	橋本公民館	相模原市橋本6-2-1（シティプラザはしもと内）	042-771-1051	
20	光が丘公民館	相模原市並木4-7-9	042-756-1117	
21	星が丘公民館	相模原市星が丘3-1-38	042-755-0600	
22	横山公民館	相模原市横山台1-20-10	042-756-1555	
23	陽光台公民館	相模原市陽光台5-6-1	042-755-3451	
24	城山公民館	相模原市城山町久保沢1-3-1	042-783-8194	毎週月曜日
25	津久井中央公民館	相模原市津久井町中野633-1	042-784-3211	毎週月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌々日）、祝日の翌日
26	桂北公民館	相模原市相模湖町与瀬1134-3	042-684-2377	毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）
27	藤野中央公民館	相模原市藤野町小淵1992	042-686-6151	なし

マッシュ見取り図

	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
A				A04	A05	A06	A07	A08	A09																						
B					B05	B06	B07	B08	B09	B10	B11	B12	B13																		
C					C05	C06	C07	C08	C09	C10	C11	C12	C13	C14	C15																
D				D04	D05	D06	D07	D08	D09	D10	D11	D12	D13	D14	D15	D16															
E		E02	E03	E04	E05	E06	E07	E08	E09	E10	E11	E12	E13				E17	E18													
F		F02	F03	F04	F05	F06	F07	F08	F09	F10	F11	F12	F13	F14				F18	F19												
G		G02	G03	G04	G05	G06	G07	G08	G09	G10	G11	G12	G13	G14	G15	G16	G17	G18	G19	G20											
H				H04	H05	H06	H07	H08	H09	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21										
I					I05	I06	I07	I08	I09	I10	I11	I12	I13	I14	I15	I16	I17	I18	I19	I20	I21										
J					J05	J06	J07	J08		J10	J11	J12	J13	J14	J15	J16	J17	J18	J19	J20	J21	J22									
K						K06	K07	K08	K09	K10	K11	K12	K13	K14	K15	K16	K17	K18	K19	K20	K21	K22	K23								
L						L06	L07	L08	L09	L10	L11	L12	L13	L14	L15	L16	L17	L18	L19	L20	L21	L22	L23	L24							
M						M06	M07	M08	M09	M10	M11	M12	M13	M14	M15	M16	M17	M18		M20	M21	M22	M23	M24	M25						
N						N06	N07	N08	N09	N10	N11	N12	N13	N14	N15	N16	N17				N21	N22	N23	N24	N25	N26					
O							O07	O08	O09	O10	O11	O12	O13	O14	O15	O16	O17	O18	O19	O20	O21	O22	O23	O24	O25	O26	O27				
P								P09	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20	P21	P22	P23	P24	P25	P26	P27	P28				
Q									Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16	Q17	Q18	Q19	Q20	Q21	Q22	Q23	Q24	Q25	Q26	Q27	Q28	Q29			
R											R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26	R27	R28	R29	R30		
S												S13	S14	S15	S16	S17	S18	S19	S20	S21	S22	S23	S24	S25	S26	S27	S28	S29			
T															T15	T16	T17	T18	T19	T20	T21	T22	T23	T24	T25	T26	T27	T28	T29		
U																U16	U17	U18	U19	U20	U21	U22	U23	U24	U25	U26	U27				
V																	V16	V17	V18		V20	V21	V22								
W																		W16	W17	W18		W20	W21								
X																				X16	X17	X18		X20	X21						
Y																Y15	Y16	Y17													
Z																Z16	Z17														

平成 22 (2010) 年度

相模原市自然環境観察員制度

身近な生き物調査

ジョロウグモの生息調査  
— 手引き —



相模原市自然環境観察員制度

相模原市立環境情報センター

# 目次

はじめに	1
1. ジョロウグモによる環境の調査について	2
2. 調査対象	3
3. 調査のしかた	4
(1) 調査期間	
(2) 調査の方法	
(3) 調査用具	
(4) 全体調査記録票の提出期限	
4. 全体調査記録票の記入例	5
5. 注意事項	6

## 資料

- 1) ジョロウグモを見分けるポイント その1～その3
- 2) メッシュ見取り図
- 3) メッシュ目印一覧

## はじめに

平成17年度に行ったジョロウグモの調査を今回も実施します。

クモは、生態系の中では「中間捕食者」という立場にあり、食う、食われるの両方の影響を受けて生きています。このことから、クモが豊富にいる環境は、生態系が豊かであるということを暗に示していると言えるでしょう。

ジョロウグモは比較的大型で、識別の容易な、調査しやすいクモです。

前回の調査（平成17年）では、このクモがまとまった林のある場所に多く見られる事がはっきりと示され、「森林度」を示す指標となる事が改めて確認されました。

今回の調査では、もう一度同じ種を調査対象に取り上げることによって、相模原市の環境がどのように変化したのかを見てみようと思います。ひょっとしたら、普段気づかないような変化が、現れてくるかも知れません。

そして何よりも、日ごろ目を向けることが少ないジョロウグモを観察することは、様々な発見につながると思います。クモというのは、なぜか嫌われる事が多いのですが、これを機会にその暮らしぶりを知り、生物の多様性について考えるきっかけにしてみたいかがでしょうか。

## 1 ジョロウグモによる環境の調査について

クモは節足動物で、昆虫とは違ったグループを形成する生き物です。

現在、世界で約4万2千種、日本で約1550種が知られ、まだ新種の発見が続いています。

また、種類が多いばかりでなく、その生活ぶりも多様性に富んでいます。例えば、木の枝などに網を張るものもいれば、地中に穴を掘って住むもの、地上を徘徊して餌を捕らえるもの、果ては水中に気泡で住居を作るものなど、本当にさまざまです。

また、網の張り方も、水平、垂直、円形、不規則、立体など、種類によって異なり、中には水の表面や自分の足に網を張るものまでいます。

しかし、そのすべてに共通している点が2つあります。

それは捕食者であることと、自分で作った糸を利用して生活していることです。捕食者は、餌になる昆虫などがいなければ、生活できません。また、網を張るクモには樹木などの足場が必要です。つまり、緑が少ないところや他の生き物が少ないところには、クモも少ないと言えます。

生き物と環境との関係は単純ではありませんので「こんなクモがいたからここはこんな環境だ」ということは、残念ながら簡単に言えることではありません。

しかし、色々な場所で、同じ時期に、同じ種類のクモを調べることにより、樹木の有無との関連や、他の生き物との関連を考えることができます。

今回調査するジョロウグモは、本州以南の日本では、ごくありふれたクモです。昼間でも網の上で静止していることが多く、外見にも特徴があるため、調査しやすい種です。また、森林でも市街地でも見ることができるため、都市で暮らす生き物が、どのような場所を利用しているのかを考えるのに、良い材料であると言えるでしょう。

## 2 調査対象

### ◎ ジョロウグモ

<間違え易いクモ>

ナガコガネグモ

コガタコガネグモ

※詳細は「ジョロウグモを見分けるポイント」参照

## 3 調査のしかた

### (1) 調査期間

この調査手引きがお手元に届いてから、11月5日(金)まで

### (2) 調査の方法

#### ① 調査準備

全体調査記録票の地図を基に調査経路を決めます。

注：調査区は500m×500mのメッシュになっています。基本的には中央部付近を通る500m程度の経路になるように設定してください。経路を設定したらマーカー等でなぞってメッシュ図上に示してください。今回の調査はメッシュ全体が対象ですが、すべての道を調査する必要はありません。設定した経路に見つからなくてもそれ以外の道で数えることはしないで下さい。

#### ② 現地調査

①で決めた調査経路に沿って歩き、木や建物などの間に張られたクモの網を探します。網を見つけたら、そこにジョロウグモがいるかどうかを確認してください。ジョロウクモのいた網の数を数えていきます。なお、探す所は、地表から2m位までの高さで経路から識別できる範囲の場所とします。

注：雨の後や早朝は見つかりにくいので、なるべく晴れた日に調査しましょう。

#### ③ 全体調査記録票記入方法

全体調査記録票には、ジョロウグモのいた網の総数を記入してください。

注：特に多いと感じた地点もしくは範囲があればメッシュ図に赤ペンで囲うなどして示してください。（複数可）

数量はクモの数ではなく、網の数を記入します。また、特記事項の欄には特に多かった場所の周辺環境や気づいたことなどを、また、見つからなかった場合は「見つからなかった」と記入してください。

なお、メッシュ毎の全体調査記録票になっていますので間違った全体調査記録票に書き込まないように注意してください。

### （3）調査用具

手引、全体調査記録票、地図、筆記用具、自然環境観察員登録証 etc.

### （4）全体調査記録票の提出期限

全体調査記録票は11月10日（水）までに環境情報センターに送ってください。（持参されても結構です）

# 調査記録票記入例

## 自然環境観察員全体調査記録票(平成22年度・秋)

メッシュ番号	118
--------	-----

調査者氏名 相模 みどり

調査日	10月15日
-----	--------

調査した日付を記入

クモのいた網の数	備考
8個	エサのようなものが網にかかっているのにクモがいない網がいくつかあった

実際にジョロウグモがいた網の数を記入してください

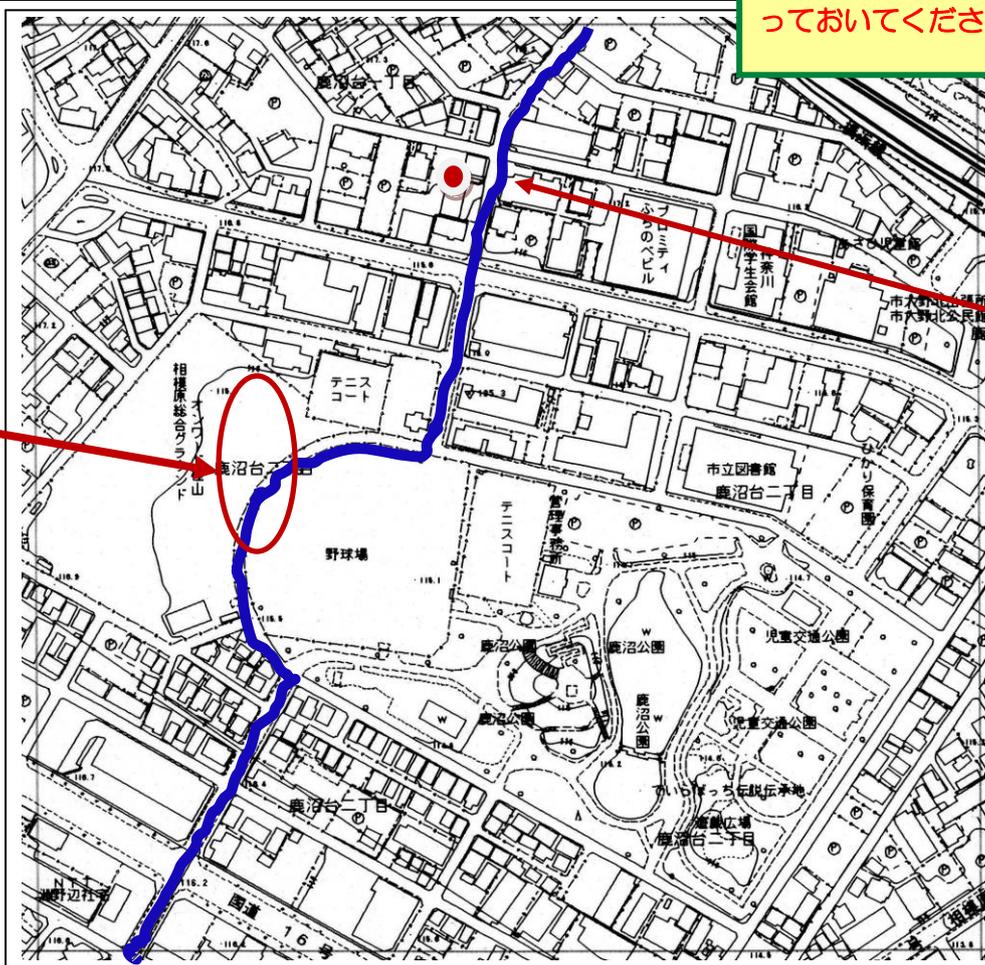
感じたこと、調査状況など自由に記載してください

### 【特記事項】

最初はなかなか見つけられなかったが、ひとつ確認できるとあとは簡単に見つけることができた。フェンスと枝の間など、比較的大きな空間にたくさん見られた。オスとメスがいる網もあった。

あらかじめ中央付近を通る経路を設定し、カラーマーカーなどでなぞっておいてください

網は広範囲に多く見つけたが、クモはあまりいなかった



1本の木に数匹いた

## 5 注意事項

### 「安全面」

- ・ 調査は、日中に行ってください。
- ・ 高校生以下の方は、なるべく一人では行かないでください。行くときは必ず家族に行き先を知らせてください。
- ・ 工場や河川敷、一般的に立入り禁止の場所（米軍基地や工場敷地、住宅敷地など）および危険な場所（線路敷きや崖地など）には無理して立ち入らないでください。

### 「その他」

- ・ 調査時には、登録証を携行してください。
- ・ 前回のメッシュ図上の調査ルートをご覧になりたい方は環境情報センターまでお申し出ください。  
(必ずしもあるとは限りませんので、個別に対応させていただきます。)

◎万一、調査できなくなった方は、早急にお申し出ください。

# 《ジョロウグモを見分けるポイント》 その1

調査対象種		参考		
種名	<p>メス側面</p>	<p>メス背面</p>	<p>メス背面</p>	<p>メス背面</p>
	<p><b>ジョロウグモ (ジョロウグモ科)</b></p>			
網の特徴	<p>垂直円網。多くの場合、円網の前後に糸が不規則に張られ立体的な形状をしている。横糸の本数が多く「五線紙状」と呼ばれたり、全体がU字型に見えることから「馬蹄形」と呼ばれる事もある。網の上に白い帯は付加しない。</p>			
成体出現期	9月～11月	8～11月	7～10月	
体の特徴	<p>体長：メス20～30mm、オス6～10mm メスの腹部背面は黄色と灰色の横縞模様、または黒い線を交えたまだら模様</p>	<p>体長：メス20～25mm、オス8～12mm メスの腹部背面は黄色と黒の細い横縞模様。</p>	<p>体長：メス8～12mm、オス4～5mm メスの腹部背面は黄色と茶褐色の太めの横縞模様</p>	
生息地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本州、四国、九州、南西諸島</li> <li>・林内や林縁</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本全土</li> <li>・水田や草原、林縁の草地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本州、四国、九州、南西諸島</li> <li>・林内や林縁</li> </ul>	
生態	<p>秋に樹皮や葉の上などに白い卵のうをつける。成体は越冬しない。幼体は5月頃孵化する。</p>			
その他	<p>・複数のオスがメスの網にいることがある ・驚かすと網をゆすることが多い</p>			

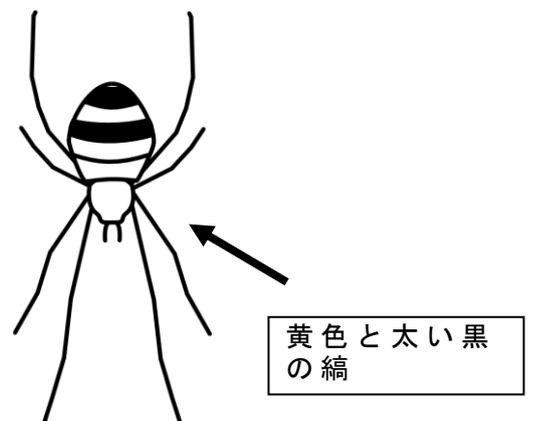
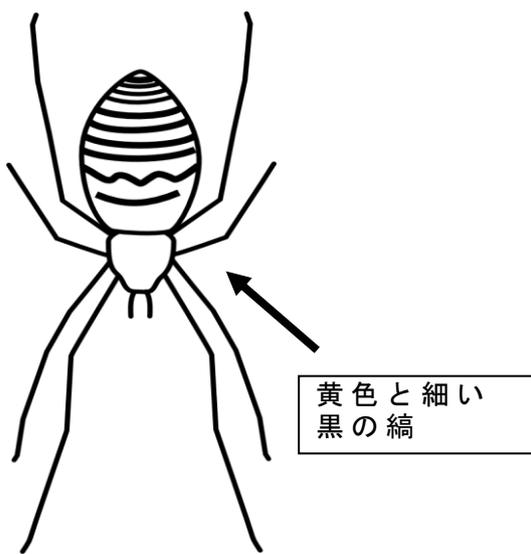
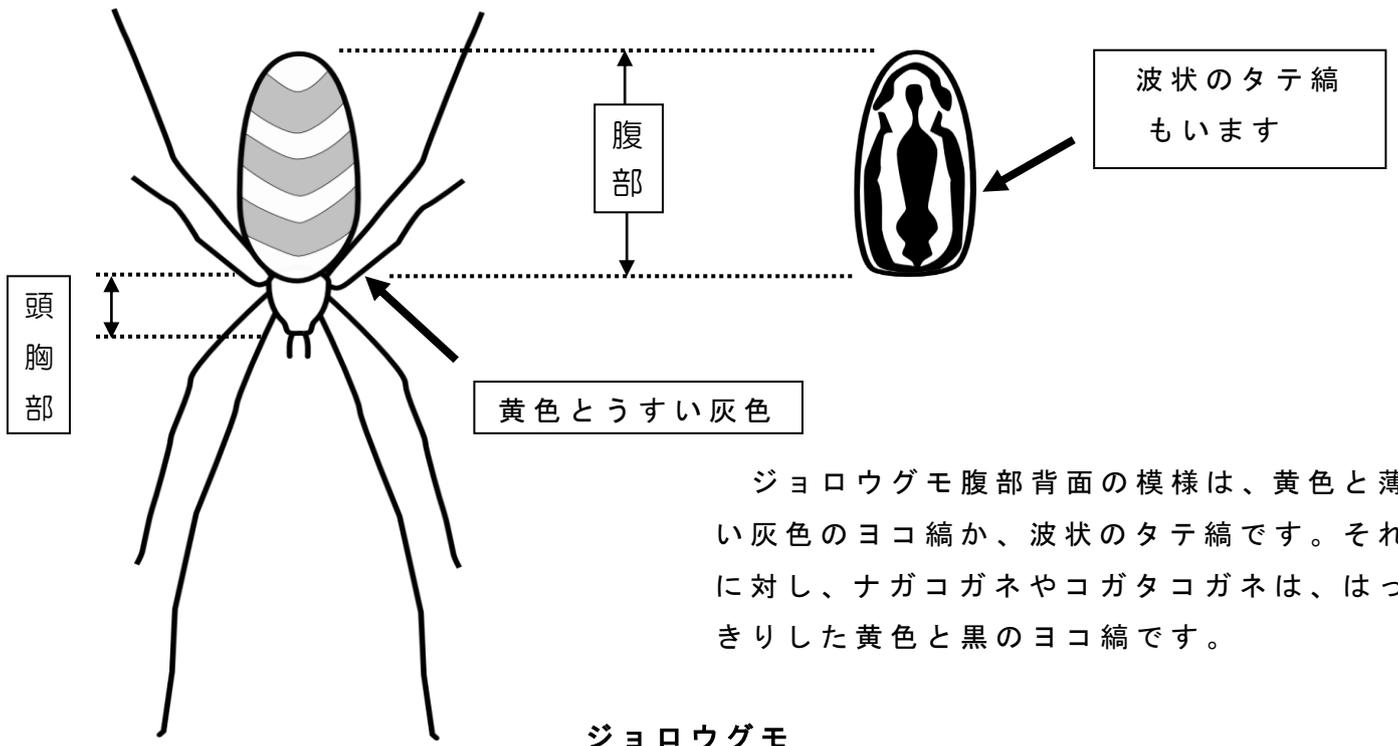
参考文献：新海栄一・高野伸二「フィールド図鑑 クモ」東海大学出版

池田博明「クモ生理生態事典」

谷川明男「日本産クモ類目録Ver. 2010R1」

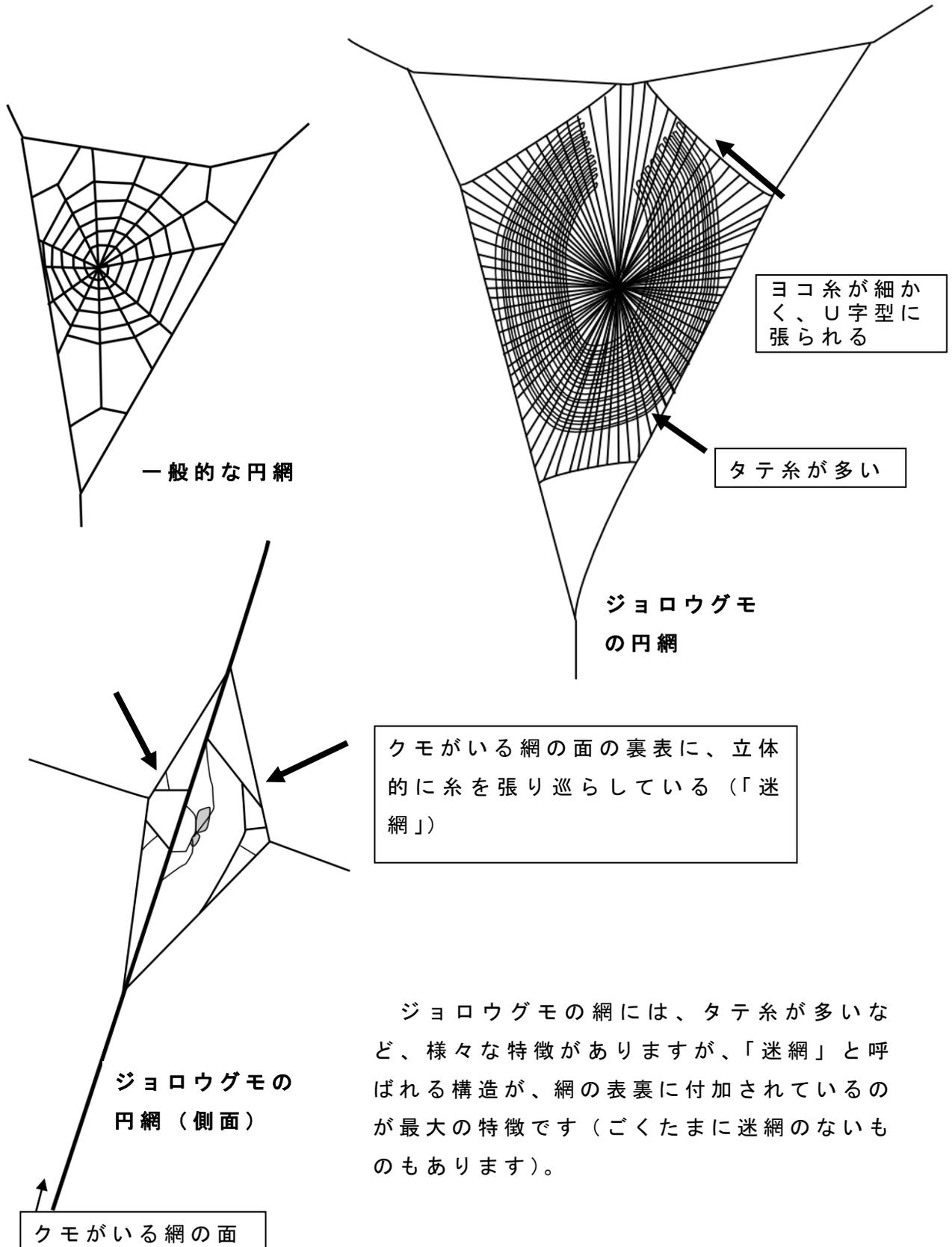
# 《ジョロウグモを見分けるポイント》 その2

## 見分けのポイント



# 《ジョロウグモを見分けるポイント》 その3

## ジョロウグモの網の特徴



ジョロウグモの網には、タテ糸が多いなど、様々な特徴がありますが、「迷網」と呼ばれる構造が、網の表裏に付加されているのが最大の特徴です（ごくたまに迷網のないものもあります）。



平成 22 (2010) 年度

相模原市自然環境観察員制度 身近な生き物調査

ジョロウグモの生息調査

一 手 引 き

発行日 平成 22 年 10 月 2 日

発 行 相模原市立環境情報センター  
〒252-0236 相模原市中央区富士見 1-3-41  
Tel 042-769-9248 Fax 042-751-2036  
E-mail kankyo@eic-sagamihara.jp

## 平成 22 年度 下半期の予定

### 全体調査

- ◆ 調査結果の検討会 1月後半（日程未定）
- ◆ 年次報告書作成 12月～2月下旬
- ◆ 平成 22 年度第 3 回かんきょう学習セミナー 3月（日程未定）
- ◆ 平成 23 年度第 1 回かんきょう学習セミナー 3月（日程未定）
- ◆ 年次報告書発行 3月下旬（日程未定）

### 専門部会日程

- 植物調査部会  
城山調査 10月 27日（水）  
石老山調査 11月 25日（木）  
検討会 12月 6日（月）
- 野鳥調査部会  
10月 9日（土）  
2月（日程未定）
- 湧水調査部会  
1月（日程未定）



## 平成 23 年度自然環境観察員募集について

- ◎ 平成 23 年度の観察員さんを募集します。是非継続登録と周辺の方々への募集呼びかけにご協力をいただきますようお願いいたします。
- ◎ 来年度の調査対象種については企画会議で論議し、決定します。



平成 22 年 10 月 発行  
発行 相模原市立環境情報センター  
〒252-0236  
相模原市中央区富士見 1 丁目 3 番 4 1 号  
TEL 042 (769) 9248 (直通)  
FAX 042 (751) 2036 (直通)  
E-mail kankyo@eic-sagamihara.jp

## 相模原市自然環境観察員

# 自然観察かわらばん

平成 22 年 10 月 発行

平成 22 年度 第 1 号

## 全体調査 お疲れさまでした

3月13日（土）に第1回「かんきょう学習セミナー」で自然環境観察員制度と平成22年度の計画および意向調査についての説明を行いました。また、今年度の調査対象種であるタンポポ類の説明も行いました。4月7日にはタンポポ類現地勉強会を行い、16名が参加しました。

今年度の調査対象種は、全体メッシュ調査にタンポポ類とジョロウグモを選び、タンポポ類は春に、ジョロウグモは秋に調査を実施することになりました。タンポポ類は、3月16日～5月10日までの期間に88名の観察員が調査に当たられ、報告をいただきました。さらに5月25、26、28、29日には21人の観察員が、相模原市立博物館の秋山幸也氏の指導のもと、タンポポ類の花粉を顕微鏡で観察し、同定作業を実施しました。データの解析、5年前調査との比較などの、まとめ作業はほぼ終了していません。ジョロウグモは、調査の手引きがお手元に届いてから11月5日（金）までに調査を行うことになりました。

また、本年度は皆さんと一緒に考察を行う予定です。ご協力いただける方は、ご連絡ください。

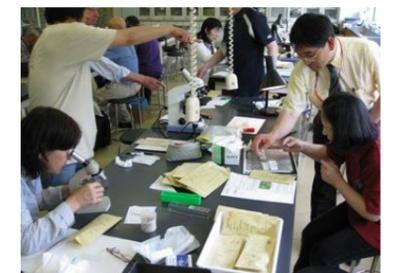
## 第 1 回セミナー報告 3月13日のセミナー参加者は47名。



相模原市立博物館学芸員の秋山幸也氏に、調査の意味や、在来タンポポや外来タンポポなどの特徴について、講演していただきました。その後、調査方法を西田和子さんから説明していただきました。

## 同定作業 5月25、26、28、29日の同定作業の参加者は21名。

初日の25日に相模原市立博物館学芸員の秋山幸也氏から、在来タンポポと外来タンポポ、雑種タンポポの花粉による同定方法について説明していただきました。その後、花粉を顕微鏡で見ながら、観察員が同定作業を行い、在来タンポポについては最終的な判断を秋山氏にお願いしました。外見からは在来タンポポと思われたものでも花粉から雑種と判断されたものも多く、勉強になりました。



## 専門部会の活動報告



### 野鳥調査部会



本年度上半期の野鳥調査は、春季（渡り期）調査を5月8日（土）に、夏季（繁殖期）調査を6月12日（土）に、行いました。横山丘陵（ラインセンサス：R6、定点：P6）をA班が、博物館方面（ラインセンサス：R11、定点：P10）をB班が担当し、A班のリーダーを内田さんにB班のリーダーを小川さんをお願いしました。

**春季（渡り期）調査** 5月8日（土）参加者14名。

横山丘陵では森林性のキビタキやヤマガラなどを確認し、カワセミも確認しました。博物館方面では市街地であるにも関わらず、オオタカやツミなどの猛禽やアオサギを確認しました。

**夏季（繁殖期）調査** 6月12日（土）参加者17名。

横山丘陵では森林性のアオゲラやキビタキを確認し、水辺で見られるアオサギも確認しました。ヒヨドリ、スズメなど市街地に一般的にみられる種を多く確認しました。

#### 横山丘陵



R6



P6

#### 博物館方面



R11



P10



### 河川生物相調査部会

小林義博さんに指導講師をお願いし、7月10日（土）と9月11日（土）に現地調査を行いました。

**相模川上大島キャンプ場下流** 7月10日（土）参加者8名。

天気、水温、川幅、水深などを記録したのち、水生生物を採集しました。水のおいしさは感じられず、きれいでした。水生生物はコオニヤンマ、スジエビ、ヒゲナガトビケラ、ニンギョウトビケラなどを確認しました。



**境川・寿橋下流** 9月11日（土）参加者6名。

天気、水温、川幅、水深、水質などを記録したのち、水生生物を採集しました。水質はやや汚れており、においが感じられ、少し濁っていました。水生生物は、アメリカザリガニ、イシガメなどを確認しました。



## 植物調査部会



#### 会議

4月11日 参加者9名。今年度の計画について検討し、1ヶ月に1回、定例観察会を行うこととしました。

8月9日 参加者8名。これまでの活動報告と討議を行った後、道保川公園の下流の緑地の保全について討議しました。

**定例観察会** 自然観察指導員の西田さんの指導のもとに行いました。

**相模川自然の村** 5月17日 参加者8名。河川周辺の指標植物であるツルヨシを確認することができました。また、寄生植物のヤセウツボも確認されました。

**磯部の田圃周辺** 6月21日 参加者7名。至る所にイネ科植物が多く、ネズミムギが花盛りでした。また、水田・湿地の指標植物であるスギナ、キツネノボタンを確認しました。

**道保川公園** 7月20日 参加者8名。水辺の指標植物であるヨシ、クレスン、セキショウなどを確認しました。道保川下流方向の段丘崖と湿地帯の様子も観察し、保全策について意見交換しました。

**望地崖沿い** 9月21日 参加者6名。イネ科植物、カナムグラ、オオアレチウリの繁茂やトキワツユクサの増加が目立ちました。垂直崖にイワタバコの生息場所は増えている様子でした。



### 湧水調査部会



湧水調査は「第二次（平成19～23年度）相模原市自然環境観察員制度湧水調査部会事業計画」によって年次計画が定められており、本年度は5箇所の調査を豊水期と渇水期の2回行います。そのほか、通年調査として、いくつかの湧水で6月から2011年5月まで月1回の測定を行うこととしました。

#### 会議

4月11日 参加者5名。いくつかの湧水について年間を通して調査することになりました。

5月24日 参加者6名。通年調査地点と担当者を決定し、調査方法のデモを行いました。

7月12日 参加者6名。通年調査地点との状況報告を行い調査地点と担当者の見直しを行い、調査員からの要望を出しました。

#### 調査

**豊水期湧水調査** 9月19日 参加者8名。湧水台帳番号、No.19～No.23の5箇所（19リバーサイド田名ホーム並び、20望地の渡し・上流側、21釣り堀・高田橋寄り、22大杉公園池、23相模川ふれあい科学館上）で行いました。

**通年調査** 6月、7月、8月、9月 通年調査地点は、3道保川公園内、5十二天神社横、10相模ヶ丘病院下、13勝坂遺跡（有鹿谷）、17塩田ホーム脇水路、18東急工建下、20望地の渡し・上流側、24清岩寺下、28老人福祉センター溪松園下（本地点は6月と7月のみ実施）で行いました。

# 平成22年度 全体テーマ調査の概要

## タンポポ類調査

外来または雑種タンポポは、非常に多く、市内のほとんどのメッシュで確認されました。一方、在来タンポポは、約4分の1のメッシュで確認され、平成17年度との比較では、ほとんど割合に変化はなかったと思われます。

## ジョロウグモ調査

平成22年度のジョロウグモの網の分布は、平成17年度と比較して大きな変化はありませんでした。網の確認数は1~9のメッシュが最も多く、全体の半分以上を占めました。ジョロウグモの網数の分布を見ると、旧相模原市域の北西部と南西部に網の数の多いメッシュがみられる傾向があり、人家周辺では少なく、樹林周辺に多い傾向があるようでした。

## 平成23年度の予定

## 全体テーマ調査

平成23年度は、これまでの10年間の調査結果のまとめと考察を行い、報告書の作成に取り組みます。また、学習の機会を多くもうけて、今後の調査の方向性や実施方法の検討に生かしていきます。従来行ってきたメッシュ調査は実施しません。

### ■ 第1回かんきょう学習セミナー

- (1) 日 時 平成23年4月29日(金・祝) 午後1時30分から5時まで
- (2) 場 所 環境情報センター 学習室
- (3) 内 容
  - 講 演 「津久井地区の森林」  
講 師：鳥屋造林組合 組合長 渡辺 巖 氏
  - 活動報告
    - ・全体調査報告
    - ・専門部会活動報告
  - 平成23年度の活動予定
    - ・相模原市自然環境観察制度についての説明
    - ・専門部会

## 専門部会日程

専門部会の活動については、4月29日(金・祝)の第一回かんきょう学習セミナーの専門部会で検討します。



平成23年3月発行  
発行 相模原市立環境情報センター  
〒252-0236  
相模原市中央区富士見1丁目3番41号  
TEL 042(769)9248 (直通)  
FAX 042(751)2036 (直通)  
E-mail kankyo@eic-sagamihara.jp

相模原市自然環境観察員

# 自然観察かわらばん

平成23年3月 発行

平成22年度 第2号

## 平成22年度下半期の活動

今年も全体テーマ調査と各専門部会の活動を、無事終了させることができました。自然環境観察員の皆さまに、御礼申し上げます。

10月2日(土)には第2回かんきょう学習セミナーが開催されました。今年度の全体テーマ調査の調査対象種であるジョロウグモについての基調講演を行い、調査の手引きの説明も行いました。身の回りにいながら普段はあまり観察していないジョロウグモの興味深い生態の話に、皆さんが熱心に聞き入っていました。

ジョロウグモ調査には、10月2日~11月13日までの期間に89名の観察員が調査に当たられ、報告をいただきました。

2月9日には全体調査結果の検討会が開催され、16名の観察員が参加されました。当日はタンポポ類調査結果とジョロウグモ調査結果の検討を行い、班別に分かれてワークショップを行いました。調査結果の概略については、最終頁をご覧ください。

なお、3月19日(土)には第3回かんきょう学習セミナーの開催を予定していましたが、3月11日の東北地方太平洋沖地震の影響を考慮し、中止しました。22年度の活動発表は、4月29日(金・祝)に予定している次回のセミナーで行います。

## 第2回セミナー報告 平成22年10月2日(土)



東京大学大学院農学生命科学研究科生物多様性科学研究室の谷川明男氏に、ジョロウグモについて講演していただいた後、事務局からジョロウグモ調査の調査方法について説明しました。その後、相模原市立博物館の木村知之氏にジョロウグモの雑学について、講演していただきました。(参加者24名)

## 全体調査結果の検討会 平成2月9日(水)

ワークショップでは3班に分かれてタンポポ類とジョロウグモの調査結果をメッシュ図に貼り、「タンポポ類やジョロウグモが相模原市旧市域でどのように分布しているか」を全員で見ました。さらに、調査結果からどんなことが言えるのか、を班ごとに意見交換し、考察しました。その結果は、班ごとに発表し、また、相模原市立博物館の秋山幸也氏と木村知之氏にそれぞれ、タンポポ類とジョロウグモの調査結果について、総括をしていただきました。(参加者16名)



## 専門部会の活動報告

### 野鳥調査部会



本年度下半期の野鳥調査は、秋季（渡り期）調査を10月9日（土）に、冬季（越冬期）調査を2月19日（土）に、行いました。横山丘陵（ラインセンサス：R6、定点：P6）をA班が、博物館方面（ラインセンサス：R11、定点：P10）をB班が担当し、A班のリーダーを内田さんにB班のリーダーを小川さんをお願いしました。

**秋季（渡り期）調査** 10月9日（土）参加者5名。

雨天のため、全体的に鳥の数が少ない結果になりました。横山丘陵ではヒヨドリの数が最も多く、渡り途中の個体が記録されたのかもしれませんが。博物館方面では市街地で一年中見られるキジバト、ムクドリ、ハシブトガラスなどが見られました。



横山丘陵



博物館方面

**冬季（越冬期）調査** 2月19日（土）参加者7名。



横山丘陵



博物館方面

横山丘陵では関東地方の平野部で冬に森林で見られるルリビタキやトラツグミ、シロハラ、マヒワなどが確認されました。博物館方面では期待された冬鳥はあまり見られませんでした。けやき会館の建物にとまるチョウゲンボウを確認することができました。



### 植物調査部会

#### 会議

12月6日（月）参加者8名。これまでの活動の報告と反省を行い、報告書の作成について議論しました。また、道保川下流域の環境問題について話し合いました。

1月17日（月）参加者7名。道保川の管理、利用計画、所有権などについて、水みどり環境課へ聞き取りに行きました。

**定例観察会** 自然観察指導員の西田さんの指導のもとに行いました。



タカオヒゴタイ

**望地崖沿い** 9月21日（火）参加者6名。イネ科の種類、カナムグラ、オオアレチウチ、トキワツユクサの増加が目立ちました。イワタバコの所在を確認する事ができ、生育場所は増えている様子でした。

**津久井城山** 10月27日（水）参加者7名。貴重なタカオヒゴタイの花を観察することができました。そのほか、カントウカンアオイ、カラタチバナの実、ソバナの実、ツチアケビの実などを観察しました。キジョランの葉の裏に産みつけられたアサギマダラの卵と幼虫が見つかりました。

**石老山** 11月24日（水）参加者7名。相模原台地には無いさまざまな樹木を見ることができました。礫岩の壁にイワタバコがありました。また、シダ類が多く見られました。

**ミニ観察会への参加** 2月9日（水）参加者4名。環境情報センター周辺で実施している環境情報センター主催のミニ観察会に参加しました。まず、室内で冬芽の事前学習をしてから出発し、ソメイヨシノ、サザンカ、ドウダンツツジなどの冬芽を観察しました。また、ハルノゲシ、セイタカアワダチソウなどのロゼットも観察しました。

**道保川** 3月16日（水）道保川での観察を予定していましたが、地震の影響を考慮して、中止しました。



### 湧水調査部会

#### 調査

**湧水期湧水調査** 1月23日（日）参加者10名。湧水台帳番号、No.19～No.23の5箇所（19リバーサイド田名ホーム並び、20望地の渡し・上流側、21釣り堀・高田橋寄り、22大杉公園池、23相模川ふれあい科学館上）で行いました。各調査地点の総評は、前回と同じ、または前回より下がりました。

**通年調査** 10月、11月、12月、1月、2月、3月 通年調査地点は、3道保川公園内、5十二天神社横、10相模ヶ丘病院下、13勝坂遺跡（有鹿谷）、17塩田ホーム脇水路、18東急工建下、20望地の渡し・上流側、24清岩寺下で行いました。なお、20望地の渡し・上流側、24清岩寺下は、地震の影響により、3月の調査を中止しました。



### 河川生物相調査部会



調査は9月までで終了し、10月以降には実施しませんでした。

## ご意見・ご感想〈タンポポ類の調査〉

分類	項目	内容
意見	調査内容について	以前に比べ地図が大きくなった点が良い。調査票に目印地点が表示されると更に使い易い。屋外で手引きを見る場合、風が強いと見づらい。
		「1メッシュ3ヶ所程度の調査」は良いと思った。しかし調査していると、6ヶ所程度になる場合もありました。
		この調査で、ただ調査すべきではなく、この結果とタンポポが将来どのようなようになって、どうすれば良いのか明白にしてほしい。
	調査方法・区域について	地点の特定が一寸難しいことがありました。
		はじめ、1ヶ所に外来種と不明なものがまざっている場合2段に書かず、失敗しました。手引書をもっと最初によく読むべきでした。
		調査票の記入欄が2ヶ所でいっぱいになってしまうことがある。
		情報センターの所長他、スタッフの人も積極的に調査に参加、指導して頂き、調査を盛り上げて下さい。
		採取地点のNoがつけにくかったです。
		記入欄を増やしても良いのでは。
		地点番号が分かりにくくなってしまった。
		調査の期間をもっと限定したら如何？
		特記事項、(備考)欄が横に狭く、書きにくい。
		メッシュ毎の地図の判り易さに手段が必要かも知れませんが、思いましたが解決策は思いついていません。
		地図が判りにくい。改善が必要と思う。
		種の区分けについてもっと詳しく説明して欲しい。特に雑種の判断(外来種か雑種か)は、まよった。
		このような方法で良いと思う。
		毎度、町田市が地図に載っていますが、少しずつしてもらいたい。今の処よいと思います。
		調査票はよく書けています。
		担当メッシュは出来れば自宅(C08)に近いことが望ましい。E06、F06は少々遠すぎる。年々遠くになって来ているので次年度は再考願いたい。
		地図をみやすくして下さい。番地がわかると良いです。
住所(大まかな)を地図に表示してほしい。調査で移動しているうちに自分がどこにいるか不明になる。建物を目印にするが地図上増えたりして不明になり易い。電柱の住所を見ても地図ではさがせない。		
担当するメッシュが1枚の紙におさまっている地図があればいいと思った。(知らない場所だと自分がどこのメッシュにいるか把握するのが難しいので。)		
調査票の記入で5行しかないので1地点に数種のとき2地点でいっぱいになった。記号化等をして10行位ほしい。		
今年は陽気の変化が激しく、調査日2日間で見えてまわりました。もっと回数を増やして色々な場所を見てみたかった気がします。		
地図が分りづらい。何か良い方法はないだろうか。		

分類	項目	内容
意見	調査方法・区域について	天候が悪い日が続き、調査できる日が少なくて困りました。
		提出用封筒の裏か表に提出物の内訳を印字していただけると提出物の確認ができて良いのでは、と思いました。
	調査の手引きについて	手引きの12ページ落丁していました。
		手引きはわかりにくい。手引きはよく書けています。
		手引きは参考になりました。
		手引きがないと調査できなかつたと思います。
		調査の手引きは役に立ちました。見つける手がかりに活用できました。
		もう少し同定のための写真や絵が欲しかった。
	勉強会について	雑種の写真が欲しかった。
		白いタンポポの写真が見たかった。(手引きに載せて欲しかった。)
勉強会に参加できなかったため、雑種と在来種の違いである外総苞片のゆるみがどの程度かわからず、不明にした物が多かつたです。今後の花粉調べで不明にした物が在来種である可能性も高いです。		
今回の調査について観察員の意見交換ができる場があるといいと思っています。		
感想	驚きました	外来種が多いということは知っていたが、実際に観察したのは初めて。とても新鮮な気分がした。
		シロバナタンポポを見つけた時は感激しました。が、実は車イスのおばあさんが見つけてくれました。こんなふれ合いも楽しかった。
		恥かしながら、すべてが私にとっては新知見でした！
		担当の住宅地はタンポポも生えないのかと思うほど、何も草のない所ばかりで、タンポポを見つけてるのが大変なことにおどろきました。
		以前と違って沢山のかたまりが多くあったのを、改めて感じました。
		最初は「タンポポなんか・・・？」と思っていたが、実際行動してみると思ってもいなかった発見もあり、大変有意義なイベントに参加出来感謝しています。
		担当メッシュでは外来種ばかりしかなかったのに最後に大学構内に入れてもらいたくさんの在来種があつたのに感動した。丁度外部から隔離されていたのだ。在来種の保護区のような感じがした。しかしなぜこうなつたのか？
	困りました	空き地や原っぱがほとんどなかつたので、在来種を見つけてるのが大変だつた。
		年令の割に自宅から離れていた。行くのに大変でした。
	残念でした	調査の手引きは役に立ちましたが、意外とタンポポが見つからなかつた。
この調査が環境保護にどれだけ役立つたのか、又、情報センターは何を目的にしているのか、不明です。		
毎年感じるのですが、宅地化が進み、空地がほとんどなくなりました。		

分類	項目	内容
感想	勉強になりました	散歩を兼ねて事前調査、本調査とエリアを歩いて勉強になりました。
		手軽な調査で地域も同時に知る事ができ、よかった。
		今までブタナという名前が分かりませんでした。手引きで分かり、うれしかったです。
		外来種、在来種の区別をまるで知らなかったので手引きが頼りでした。
		調査票の記入は少しなれました。
		在来種と外来種のちがいがわかりまして、うれしいです。
		H17年度に比べ、雑種が増えた等、傾向が分かり、環境の大切さを実感。
		校内調査の中で生育環境での異なることがわかりました。
		本年度は雨（4月後半）が多く、調査は大変でした。大変勉強になりました。
		判別に自信がなかった地点が数ヶ所。調査時季によってタンポポの咲き方に大分差があることに気づきました。
		東北出身の私にとっては白っぽい花（タンポポ）の存在を収穫できたことが大きな発見であった。
	在来と思っていたタンポポが、雑種かもしれないということ。	
	その他	野草は探すのが楽でした。
		今までに比べて、はえていた場所がなく記入が楽になりました。
		外来種ばかりでした（おそかった?!）逆に在来種をみてみたいですね。
		在来種がどのくらいあるか興味がありました。
		家族や友人に協力してもらったので、楽しくできました。
		どちらかと言えば楽しかったです。
		「日本のタンポポとセイヨウタンポポ」（小川潔 著）の本を読みました。
		一人で調査する気楽さ、日時も自由である反面、一人でまわるものたりなさもありました。
専門が地球物理・化学系の私には自然を視る目がひろがり楽しい経験になっています。		
少しでも役に立ちたい思いで始めたが、結局は自分の為に大変有難い。地域の様子が分かる。興味関心を持ちつづけられる。健康の大切さを感じる。 etc.		

分類	項目	内容
その他	情報	果樹園の下に多いと思っていましたが意外に少ない。
		ニホンタンポポが元々あった場所で雑草に置き替りつつあるようだ。
		単独種群生、混種群生、在来種1本のみ、道路1本で在来と外来の群れが分かれる等、目新しいことが多くありました。
		以前あった白花タンポポの株が開発で見られなくなった。巨大花茎(10mmφ)発見した。
		まだまだ在来種のタンポポがあることに安心しました。
		旧米軍用地に"関東タンポポ"(在来種)の群落あり。人の手のはいらぬところは植物の天国か。
		境川、相模原市、町田市共よく手入れがされていました。
		タンポポ(在来種)も、同時期に一斉に咲くこと(3月末に無く、4月初めに花を確認)。
		5メッシュのうち産能大は在来種の保護地になっている。廻りは全て外来種。(白はなかった!!)
		担当メッシュ以外でもタンポポを見ている。意外と在来種の生育地があるように見えたが、果たして純血かどうか?
		今回の調査で外来種のタンポポはいたる所で数多く見られた。在来種と思われる花が2個所で見つかったが自信がない。
		自分の感じでは「今年はタンポポの開花が遅い」と思いました。4月に入ってやっと見えた様に思います。但し、私の散歩コース(約8km)の範囲で感じたことです。
		都立小山内裏公園には在来種の群落がたくさんありました。ここが種子供給源となっているのではないのでしょうか。
		タンポポ調査は2回目です。開発で花が少なくなったように感じました。畑の周辺でタンポポや野草が少なくなったように思う。(除草剤の散布が多くなり草が枯れている地点が多い)
		昨年より境川の河川敷が町田市、相模原市共に手入れがされていて、町田市側にはどてに芝桜が植えられていました。
		同じ所を何回も巡回して気付いた事ですが、子供が安心して遊べる公園の整備が遅れている事に気が付きました。
		今年は環境の変化のためかセイヨウタンポポが多い。相模原も環境を良くしないと植物が生き残れない。
		個人の庭や植木鉢に在来タンポポがあった。
		4月下旬調査予定したが私用が重なり調査していなかった。
		座間キャンプ内のお祭りで入って調べると在来種の多いのに驚きました。
畑や空地は住宅や駐車場になり、雑草の生える所が少なくなってきていると思います。		
地元の方から最近タンポポを食べる人がいなくなったと聞いた。(食用であることを知らなかった。)		
調査でまわって気づきましたが、ポピー(に似た花かな?)朱色があちこちに咲いていました。今年は特に目につきました。		

分類	項目	内容
その他	その他	<p>天気が良く、散歩のつもりでまわりました（在来種がないので気が重くなるので）。</p>
		<p>今回は拗らせた不調が尾を引いてしまった時であったので、楽しさも「中ー」ぐらいであった。</p>
		<p>名札を下げてボードを持っていつものまちを歩くのは新鮮でした。</p>
		<p>住宅及びアパート等が多くなり空地が少なくなった。</p>
		<p>調査そのものは大変楽しくやれたが、天候、風邪、腰痛などで遅れた。</p>
		<p>知らない道を自転車でもわり、裏道を知りました。</p>
		<p>外来種ばかりであった。（雑種？）歩道脇（歩ばは至る所にあり）</p>
		<p>「タンポポ」の生育場所（空き地）に「つくし」を発見し、採取出来た事は面白いと思った。</p>
		<p>同じ条件に見える場所でもタンポポが群れ咲くところ、全く見あたらないところがありました。何の違いなのでしょう。</p>
		<p>調査中、境川沿いで「カワセミ」を2回見ました。</p>
		<p>思わぬ"花の名所"を発見しました。</p>
		<p>団地内ではほとんど人為的に処理されているようでタンポポはほとんどない。お花畑となっているが芝生となり人口庭園の感じで調査の気力をそがれる。</p>
		<p>新見地。普段行かない所なので。</p>
		<p>報告書の送付に庁内メールを活用するなど経費削減に努力されていると思う。</p>
		<p>調査した結果を公報などに掲載されていましたが？私の無関心だったか記憶にないのですが。</p>
		<p>相手の立場になって、明確に強く要望します。適切にお願いします。</p>
		<p>何回も調査に行く予定でしたが主人の身体が悪くなり調査が思う様に出来ませんでした。</p>
		<p>宅地化が進み、野の花や虫を見つけることが段々むずかしくなっています。このままいくと、数年後には、雑草の繁る区域は皆無になってしまうのではないかと思います。在来種は一つも見当たりませんでした。</p>
		<p>夏も近づく八十八夜……。道端では綿毛に生長したタンポポが盛期の種にバトンを渡し、他の草でも夏草がみられる様に変りはじめてきた。足元から四季の発見を楽しむことができる観察活動っていいなあーっ。</p>
		<p>日程の天気の関係で（開花／種）調査が思う様に出来ず。</p>
<p>すでに草刈が完了の空き地があり。</p>		
<p>今年は天候不順の為、自分のスケジュールと調査日の調整に苦労し、結果的に4月10日以後の調査となったが、寒い日が続いていたので、十分に調査出来たと思っています。</p>		
<p>住宅が過密になって敷地や空地にのりこめなくなった。身近の地域環境を見つめ直す機会が出来てきた。</p>		
<p>犬の散歩コースが増えました。</p>		

## ご意見・ご感想〈ジョロウグモの生息調査〉

分類	項目	内容
意見	調査内容について	経路や発見場所の表示は記録として残すには調査票を保管するしかないのではないかと思います。データとして本当に必要ですか。この点多少疑問に思っております。
	調査方法・区域について	調査票の記入が簡単な感じがした。
		調査票はシンプルにしたのが良かったようです。
		調査票のD11で、線路南側が「アリオ」に変っている。
		備考と特記事項欄と枠外記入の内容を区別した方が良いのでは。
		経路上だけではどうも不正確になってないですか。木の多い所、茂みなどにはいそうでしたが…
		地図が見えにくいです。何か所かに番地を入れていただけるとわかりやすくなるのでは？
		5年毎の再調査をするのであれば、ルートも指定するという方法もあるかと思います。
		中央部を通るとしたら県道←避けてしまいました。良かったのか？（改善）
		「2m位まで」は、けっこう上の場合微妙であった。2mオーバー（2.5m位）にも多い！
		出来れば、2名位で行けるとよいと思います。
		調査時刻と天気は記録した方が良いのでは。
		二車線以上の道路では、上・下線片側のみか、両側か、よく分かりませんでしたので上・下線とも見て回りました。不必要でしたら手引きに注意書きを加えて頂ければと思います。
		「中央部付近を通る経路」条件から、道路の選択が多くなる。道路沿いは大型クモの網は比較的少ない。道路からすこし外れたヤブ地に居ても、対象外でよいのか？
		セミナーにも行けなかったもので、わからないのかも知れませんが、背面と側面の写真以外にも腹面の写真（成長途中のもの）があるともっとわかったかも知れませんが、腹面があれば比較しやすいと思いました。
		出来れば調査ルートを指示してもらいたい。順番をつけて①、②、③とか①は必ず調査すること。
		"中央付近を通る 500m……" 2度目があれば"路"を限定せずに調査すればもっと多くの巣があったかもしれない。
		地図を見やすく、わかりやすく。地番を入れる等
		調査地は自分の好みにした。中央だけでは面白くない。調査の目的がよく理解できない。
		複数人で歩けばもっと楽しくできるのではないかと。
近所の人々にも協力してもらおうべき。		
今後の個体数の増減を予想するためにも雄、雌の頭数調査が必要では？		
クモのネットの数を個で表現するのか場所を個と表現するのかわからず、ネットにクモが(オス・メス)在のときを1個と解釈した。		
10月末ぐらいで雨の降った翌日が良かったと思いました。		

分類	項目	内容
意見	調査の手引きについて	類似グモの写真、図で腹面の表示が欲しい。
		いろいろな角度の写真があればさらにわかりやすいです。
		説明会に参加してなかったので、手引きが役に立った。
		説明会に参加できなかったのも手引きが助かりました。
		調査の手引きはよく解った。
		ほとんど知識がなかったので手引きがあつてよかったです。
		手引きが簡潔でわかりやすかった。
		前回も行いましたが、手引きはわかり易かったと思います。
		手引きは参考になりました。
	手引きが無知から引き上げてくれた。	
	勉強会について	説明会の日程を学校の運動会の時期とずらしてほしいです。
		説明会では、データのまとめ方も説明して欲しい。
	その他	同じ様に見える風景でも沢山い所、全くいない所、何故！
		一般常識としてマナーやルールを守り、感謝の気持ち、思いやりをもつことを強く要望する。約束をきちんと守る。
		場所によっては雑木林があり、調査をする度合いが？
		時期、しめ切りを早めた方がよい。
		調査員をもっと増やすべきだ。
		今年は暑さのため、セミがみんな下に落ちている。みんなで協力しあい、行政も地域も家庭も力を合わせ解決できないか。
		エリア内の1ルートに絞るのは時間をかけずにすみませんが、ちょっともの足りない感じもしました。
個体数が著しく減少したと実感した。		
調査の重要性をもっとアピールすべきである。		
調査員を増やす方法はいくらかでもあるはずだ。		
感想	驚きました	風などの影響を受けにくいしっかりした木や建物を使っていることに感心しました。
		注意して探したがコガネグモはみられなかったのが不思議。
		クモが巣づくりをする場所にも好みがあるのだろうなどに関心を持ちました。
		普通回らない地区を見るので植物等で驚くことあり。(花とか果実で)。
		秋の草花も一緒に楽しめた。他のクモ(ナガコガネグモ、オニグモ、ワキグロサツマノミダマシ)も発見でき嬉しかった。2日目はゆとりもでたので、音叉等も使って、クモの反応なども調べてみた。
		段丘林の同じような環境でも全く見られない所があるかと思うと、4~5個の巣がかたまっている場所があり、何が原因なのか不思議な気がした。
		昆虫やクモは苦手でしたが、青空をバックにしたジョロウグモの姿(メス)はとても堂々として美しく、びっくりしました。今年タンポポとジョロウグモの調査に歩いたことで、身近な自然を見る眼がかわったように感じます。楽しかったです。

分類	項目	内容
感想	困りました	クモというのに抵抗がありました。
		昆虫はあまり好きでなかったのに。
		クモは苦手なので、いつもより近づいて見るのが勇気がいりました。
		やや遠目には見分けがしにくく、かえって迷ってしまう場合があった。
		他人の庭先を覗くのにには勇気がいります。
		クモは発見できても、オスメスの区別が種類の判別が難しかった(近くで見れるわけではないので)。
	残念でした	調査区域全部で見つかると思っていたのに、見つからず残念。
		忙しくて楽しむ余裕がいまひとつありませんでした。
		1つも発見できなかったのがガッカリ。
		1人で歩いても、おもしろくも楽しくもない。
		担当メッシュが前回と異なっていて経験が生かせない。
		目視には限度、きめ細やかには難しい点があった。
	勉強になりました	クモがそんなに得意ではなかったが、調査は楽しかった。(街中のどこにいるかわかったので。)
		クモがいる家は一目で解る。樹木に対する管理によるようだ。
		今迄は「クモ」(差解らず)として全く区別できず。
		クモ以外にも植物等も一緒に観察できよかった。
		コガネグモに会えたのは良かった。
		特に、セミナーを欠席してしまったため(申し訳ありません)手引きや"雑学"が大変役立ちました。
天候次第で網の張り方の有無が影響されていた。		
ジョロウグモの色、形、大きさ等他の種類と区別できるようになった。		
観察し、わずかでも生態を見て知るということは、生き物を理解する上で重要だとあらためて知りました。		
1. 始めて見たこと、市内の様子 2. 黄色の縞模様のクモがいる事 3. 町の中の場所発見。		
ジョロウグモの観察を通してそれに関わる他のことにも興味がわいてきて発展していきます。		
天候がぐずつき、晴天を待って調査を行った。2回目ということもあり、クモの判別もできて前回に比べやりやすかった。		
ジョロウグモの「メス」はサイズが大きいというイメージが今までであったが、実際に目にして見ると、意外と小さい個体が多く、認識を新たにしました。		
見つけられない場所、たくさん見つかる場所と林縁という同じ条件下でも生息数が違うことがわかりました。明るい場所よりも比較的暗い場所の方で多く見つかりました。		
今まで知らなかったジョロウグモのことをわかりましてよかったと思います。		
網の繊細なこと。(複雑)		
何年も気になっていた植物の名前を畑の方に伺うことができ、標本用にも分けていただいた(2種類)。		

分類	項目	内容
感想	その他	良い運動でした。
		クモという小さい頃のアニメの影響で、チョウやトンボをつかまえて食べてしまう悪者(?)のイメージがありますが、何やら小さなカヤガのようなものを食べている姿を見て、つつましい生活をしているのだな…と思いました。(誤解していたな…と)ただ、うっそうとした木々の中に無言でジッとしている姿はやはり不気味で、近くで観察するのはやはり苦手です。でも前回の調査よりは近づけたように思いました。巢、食べちゃうんですか!?
		私は植物、動物には全くの素人ですが、ネットなどで予備知識を補充し、ぬかりなくやっているつもりです。いつも新鮮な気分でのぞみ、楽しんでます。
		「調査区域のほぼ中央付近を通る 500m 程」を設定するのが少々大変で、かなり長いコースになってしまった。
		秋空の晴天が続かず、活動が弱かったかも知れず、どうにか晴れた午後に調べたが、予想より少なかったのかも。
		大きな通り以外を通る機会をいただきました。川がある区域なので、水鳥等の生き物にも会えて楽しかったです。記録票にも記しましたが、川べりの南方系の植物は何だったのか…。なっていた実がまだ育ち切っていないくて断定できませんが、バナナだったら本当に驚きです。
		大きな庭の木を剪定している人と話しました。ここ数年ジョロウグモなど見たことがない…庭には樹木が多くありますよ、庭の広い家のもう1軒もそうでした。小さい庭にいました。樹木を自由に生長させた家です。都会ではクモは住みにくい。
		タンポポの時と同じ地域の担当だったので様子がわかり、歩きやすかった。
その他	情報	今回の調査はあらかじめ経路を決めて、その範囲内のみの調査だったし、又多くジョロウグモが居たので楽に調べることが出来た。
		秋の午後、様々なものも見られました。ナガサキアゲハ♂1羽、秋アカネは少ない感じ。
		今年も、空地に家が多くなりました。
		この時期になるとナガコガネグモは見られなかった。
		在来の樹木の庭木がある家に多くの巣があったように感じた。新しい家は特に洋風の樹木が多く巣は見られなかった。
		段丘林の縁は前回と同様に多くのクモが見えた。人手の影響が少ないと思われる。
		クモが見つかった場所は比較的人の手が入って整理した場所であり、竹林や丈の高い雑草の周囲では見つからなかった。
		L13の地区は毎日驚く事が多い。
		クモがいる家は少なくなっている。コガネグモも多数見ました。
		竹林の入口にいない事は、網を張る足場が悪いのかと感じました。
ジョロウグモが多い場所は集団をなし、その近辺は全くいない所があり、環境の影響が著しい。		
手入れされた庭木や垣根にはクモの巣はほとんど無い。		
見つかる場所ではたくさんの巣が見られた(ジョロウグモ)		

分類	項目	内容
その他	情報	昆虫が網にかかっているのを見ると、クモは電気でも発しているのかと思えるほど微動だにしない。気絶してしまうのかな。
		10月31日台風の翌日で担当メッシュでは皆無であったが、前回の調査で多数を見ることができた「U27」鶴間の森では通路から見ただけでも20張以上の大きなものを見ることができた。また、自宅「T27」の庭でも1張見つけた。
		前回の調査時より低い所に作っている網が多いように感じられました。
		半年たつと調査区域の空地や林だった所に家が増えていました。栗林の下にセイタカアワダチソウが群生していました。
		ジョロウグモがこんなに多くいることにびっくりした。他のクモ類が少ないのはどうしたことか？温暖化現象に関係があるのでしょうか。
		5年前に調査した場所に行き、同じ場所に7か所にあった事は、足場が良いのと環境が生息に適した場所と感じた。
		どこもここも急にクモがいなくなった。10月まではいたのに。早くに調査すれば発見はあったはず。
		いる所といない所が極端であった。10月16日は晴れていたのにほとんどいなかった。現場へのアプローチでは5~6匹見ている。中心を通る一本道は自動車道路が多い！コガネグモを一匹も見なかった。昔はクモ合戦に多くいたと思われるが。
		住宅街にはジョロウグモは少なかった。北公園では多く見ることが出来た。
		10月中旬は女郎グモの最盛期？ 境川斜面緑地、こもれびの森へつながる林が受け持ちでしたので、一寸動くと上、下、横、その奥とネットの数多く、帰りはうす暗くなってしまいう程面白くて女郎さんとつきあいました。
その他	その他	町の中では中々見つからない比較的大きな植木か、屋敷林の縁などが無いと見当たらない。 全くクモがいない通りがあって、理由が気になった。 前回調査より少なくなっている。熱暑は関係ないかどうか。 クモ不在の網が複数あった。 前回調査の時と比較し確実に減少傾向が見られる。 境川の(町田)(相模原)の協力か河川敷が手入れされていた どんどん畑や空地が住宅や駐車場に替っていきます。小さな生き物のすみかになる所が少なくなっていると思います。
		調査結果をなるべく早く知りたい。アメリカオニアザミ、タンポポ。
		中心の道筋は決めて出かけたけれど、やっぱりあちこち歩きました。
		前半、風邪引いて調査がほとんどできず、特に河原のJ05は遅かったのかもしれない、申し訳ないです。 自宅庭はかなりふえてしまったようですが、一般には庭手入れの際とってしまうので少なくなるのではないかと。

任期終了まで調査にご協力いただいた皆さん（平成22年度）

※ 敬 称 略

青木 喬	河岸 花織	杉原 武男	根岸 実
青野 久子	河岸 仁美	杉山 正明	野口 秀夫
秋山 大征	川崎 香代	清野 里美	野口 靖夫
浅木 つる江	川村 悦子	瀬川 公男	野口 幸夫
浅原 米子	川原田 稔	関 由利子	早戸 正広
安達 桂	北村 陽子	関口 真佐人	原 正明
荒谷 輝正	木村 知之	仙田 肇	原田 和実
井口 建夫	栗田 イツ子	高崎 洋一	日吉 由美子
池川 源基	小泉 綾子	高橋 孝子	福田 昭三
市川 ケサノ	小林 千代	高橋 告郎	藤井 孝之
今井 多美子	小林 義博	田口 常利	星野 秀樹
岩田 正利	小谷田 一男	竹内 真次	堀川 樹
内田 英樹	近藤 佳奈	武田 弘毅	前川 義昭
岡野 博	金銅 幸俊	田畑 房枝	益子 弘
小川 路人	斉藤 敬三	田村 淳子	町野 恭子
荻原 信行	齋藤 健夫	塚脇 幸太	松元 太洋
小田 勇	齋藤 藤義	土屋 晴美	宮崎 精励
小野 きく	齋藤 嘉美	富岡 英明	柳下 信男
小原 敬子	佐藤 金三	中 勝利	山口 富子
折笠 良子	澤口 範子	長岡 弘治	山口 元秀
貝瀬 信	塩沢 徳夫	中島 朋来	横木 初美
加々宮 興	鹿内 義敬	中村 有理子	吉岡 歌子
鹿島 敏夫	清水 輝男	新倉 和宏	吉岡 孝夫
片山 修	下口 直久	西田 和子	吉住 祐輝

平成24年3月発行

平成22年度 相模原市自然環境観察員制度 年次報告書

(発行) 相模原市立環境情報センター  
〒252-0236  
相模原市中央区富士見1丁目3番41号  
TEL 042(769)9248(直通)  
FAX 042(751)2036(直通)  
電子メールアドレス: [kankyo@eic-sagamihara.jp](mailto:kankyo@eic-sagamihara.jp)